



Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS レイヤ2 スイッチング構成ガイド リリース 10.5(x)

最終更新：2025 年 5 月 16 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS REFERENCED IN THIS DOCUMENTATION ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. EXCEPT AS MAY OTHERWISE BE AGREED BY CISCO IN WRITING, ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS DOCUMENTATION ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED.

The Cisco End User License Agreement and any supplemental license terms govern your use of any Cisco software, including this product documentation, and are located at: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/cloud-and-software/software-terms.html>. Cisco product warranty information is available at <https://www.cisco.com/c/en/us/products/warranty-listing.html>. US Federal Communications Commission Notices are found here <https://www.cisco.com/c/en/us/products/us-fcc-notice.html>.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any products and features described herein as in development or available at a future date remain in varying stages of development and will be offered on a when-and if-available basis. Any such product or feature roadmaps are subject to change at the sole discretion of Cisco and Cisco will have no liability for delay in the delivery or failure to deliver any products or feature roadmap items that may be set forth in this document.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For the purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on RFP documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Trademarks ?

はじめに :

はじめに xiii

対象読者 xiii

表記法 xiii

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料 xiv

マニュアルに関するフィードバック xiv

通信、サービス、およびその他の情報 xv

Cisco バグ検索ツール xv

マニュアルに関するフィードバック xv

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報 1

新機能および変更された機能に関する情報 1

第 2 章

概要 3

ライセンス要件 3

サポートされるプラットフォーム 3

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要 3

VLANs 4

スパニングツリー 4

STP の概要 4

Rapid PVST+ 5

MST 5

STP 拡張機能 6

トラフィック ストーム制御 6

関連項目 7

第 3 章

レイヤ 2 スイッチングの設定 9

レイヤ 2 スイッチングについて 9

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要 10

セグメント間のフレーム スイッチング 10

アドレス テーブルの構築およびアドレス テーブルの変更 10

スーパーバイザおよびモジュール上で一貫した MAC アドレス テーブル 11

スイッチングのハイ アベイラビリティ 11

MAC アドレス設定の前提条件 12

レイヤ 2 スイッチングのデフォルト設定 12

MAC 移動ループ検出 12

syslog エラーメッセージの生成 13

レイヤ 2 スイッチングの設定手順 14

スタティック MAC アドレスの設定 14

システムでの MAC アドレス学習の無効化 15

レイヤ 2 インターフェイスでの MAC アドレス学習の無効化 16

VLAN ごとの MAC 学習の無効化 18

MAC テーブルのエイジング タイムの設定 19

MAC アドレス テーブルの整合性検査 20

MAC テーブルからのダイナミック アドレスのクリア 21

VLAN ごとのダイナミック MAC アドレス制限の設定 22

L2 ヘビー モードの設定 23

レイヤ 2 スイッチング設定の確認 25

レイヤ 2 スイッチングの設定例 26

レイヤ 2 スイッチングの追加情報 (CLI バージョン) 27

第 4 章

Flex Link の設定 29

Flex Link について 29

Flex Link 29

プリエンプション 30

マルチキャスト	30
注意事項と制約事項	31
デフォルト設定	33
Flex Link の設定	33
FlexLink の設定	33
Flex Link プリエンプションの設定	35
設定の確認	38

第 5 章

VLAN の設定	43
VLAN について	43
VLAN の概要	43
VLAN の範囲	44
予約済み VLAN について	45
VLAN 予約の例	46
VLAN の作成、削除、変更	47
VLAN のハイ アベイラビリティ	48
VLAN 設定の前提条件	48
VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項	48
VLAN のデフォルト設定	49
VLAN の設定	50
VLAN の作成と削除 (CLI バージョン)	50
VLAN コンフィギュレーション サブモードの開始	52
VLAN の設定	53
VLAN 作成前の VLAN 設定	55
VLAN の長い名前のイネーブル化	56
トランク ポートでの内部 VLAN および外部 VLAN マッピングの設定	57
VLAN の設定の確認	60
VLAN 統計情報の表示とクリア	60
VLAN の設定例	60
VLAN に関する追加情報	61

第 6 章

VTP の設定 63

VTP の概要 63

VTP 63

VTP の概要 64

VTP モード 64

インターフェイス単位の VTP 65

VTP の設定に関する注意事項および制約事項 65

デフォルト設定 65

VTP の設定 66

第 7 章

NX-OS を使用したプライベート VLAN の設定 69

プライベート VLAN について 69

プライベート VLAN の概要 70

プライベート VLAN のプライマリ VLAN とセカンダリ VLAN 70

プライベート VLAN ポート 71

プライマリ、独立、およびコミュニティ プライベート VLAN 72

プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の関連付け 74

プライベート VLAN 内のブロードキャスト トラフィック 75

プライベート VLAN ポートの分離 76

プライベート VLAN および VLAN インターフェイス 76

複数のデバイスにまたがるプライベート VLAN 76

内部 VLAN タグを保持するプライベート VLAN 77

FEXホストインターフェイスポート上のプライベートVLAN 78

プライベート VLAN のハイ アベイラビリティ 78

プライベート VLAN の前提条件 78

プライベート VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項 79

プライベート VLAN のデフォルト設定 82

プライベート VLAN の設定 83

プライベート VLAN のイネーブル化 (CLI バージョン) 83

プライベート VLAN としての VLAN の設定 (CLI バージョン) 84

セカンダリ VLAN とプライマリ プライベート VLAN の関連付け (CLI バージョン)	86
プライマリ VLAN の VLAN インターフェイスへのセカンダリ VLAN のマッピング (CLI バージョン)	88
プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定	90
プライベート VLAN 独立トランク ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定	92
プライベート VLAN 無差別ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定	95
プライベート VLAN 無差別トランク ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定	97
FEX トランクでの PVLAN の有効化	100
プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 FEX インターフェイスの設定	100
プライベート VLAN 独立トランク ポートとしてのレイヤ 2 FEX インターフェイスの設定	101
プライベート VLAN 設定の確認	104
プライベート VLAN の統計情報の表示とクリア	104
プライベート VLAN の設定例	104
プライベート VLAN の追加情報 (CLI バージョン)	105

第 8 章

スイッチング モードの設定	107
スイッチング モードに関する情報	107
スイッチング モードに関するガイドラインと制限事項	108
スイッチング モードのデフォルト設定	108
スイッチング モードの設定	109
Store-and-Forward スイッチングのイネーブル化	109
カットスルー スイッチングの再イネーブル化	110

第 9 章

Cisco NX-OS を使用した Rapid PVST+ の設定	111
Rapid PVST+ について	111
STP	112
STP の概要	112
トポロジの作成方法	113
ブリッジ ID	114
BPDU	115
ルート ブリッジの選定	116

スパニングツリー トポロジの作成	117
Rapid PVST+	117
Rapid PVST+ の概要	117
Rapid PVST+ BPDU	119
提案と合意のハンドシェイク	120
プロトコル タイマー	121
ポート ロール	121
Rapid PVST+ ポート ステートの概要	122
ポート ロールの同期	125
単方向リンク障害の検出 : Rapid PVST+	126
ポートコスト	127
ポートプライオリティ	128
Rapid PVST+ と IEEE 802.1Q トランク	128
Rapid PVST+ のレガシー 802.1D STP との相互運用	129
Rapid PVST+ の 802.1s MST との相互運用	130
Rapid PVST+ のハイ アベイラビリティ	130
Rapid PVST+ を設定するための前提条件	130
Rapid PVST+ の設定に関するガイドラインおよび制約事項	130
Rapid PVST+ のデフォルト設定	131
Rapid PVST+ の設定	132
Rapid PVST+ のイネーブル化 (CLI バージョン)	133
Rapid PVST+ の VLAN 単位でのディセーブル化またはイネーブル化 (CLI バージョン)	134
ルート ブリッジ ID の設定	136
セカンダリ ルート ブリッジの設定 (CLI バージョン)	138
VLAN の Rapid PVST+ のブリッジ プライオリティの設定	139
Rapid PVST+ ポート プライオリティの設定 (CLI バージョン)	141
Rapid PVST+ パスコスト方式およびポート コストの設定 (CLI バージョン)	142
VLAN の Rapid PVST+ hello タイムの設定 (CLI バージョン)	144
VLAN の Rapid PVST+ 転送遅延時間の設定 (CLI バージョン)	145
VLAN の Rapid PVST+ 最大エージング タイムの設定 (CLI バージョン)	146
Rapid PVST+ のリンク タイプの指定 (CLI バージョン)	147

Rapid PVST+ 用のプロトコルの再初期化	149
Rapid PVST+ の設定の確認	150
Rapid PVST+ 統計情報の表示およびクリア (CLI バージョン)	150
Rapid PVST+ の設定例	150
Rapid PVST+ の追加情報 (CLI バージョン)	151

第 10 章

Cisco NX-OS を使用した MST の設定	153
MST について	153
MST の概要	154
MST 領域	154
MST BPDU	155
MST 設定情報	155
IST、CIST、CST	156
IST、CIST、CST の概要	156
MST 領域内でのスパンニングツリーの動作	157
MST 領域間のスパンニングツリー動作	157
MST 用語	158
ホップ カウント	159
境界ポート	159
単方向リンク障害の検出 : MST	160
ポート コストとポート プライオリティ	161
IEEE 802.1D との相互運用性	161
MST のハイ アベイラビリティ	162
MST の前提条件	162
MST の設定に関するガイドラインおよび制約事項	162
MST のデフォルト設定	164
MST の設定	165
MST のイネーブル化 (CLI バージョン)	165
MST コンフィギュレーション モードの開始	166
MST の名前の指定	168
MST 設定のリビジョン番号の指定	169

MST リージョンでの設定の指定	171
VLAN と MST インスタンスのマッピングおよびマッピング解除 (CLI バージョン)	173
ルート ブリッジの設定	175
MST セカンダリ ルート ブリッジの設定	177
MST スイッチ プライオリティの設定	179
MST ポート プライオリティの設定	180
MST ポート コストの設定	182
MST hello タイムの設定	184
MST 転送遅延時間の設定	185
MST 最大エージング タイムの設定	186
MST 最大ホップ カウントの設定	187
先行標準 MSTP メッセージを事前に送信するインターフェイスの設定 (CLI バージョン)	189
MST のリンク タイプの指定 (CLI バージョン)	190
MST 用のプロトコルの再初期化	191
MST の設定の確認	192
MST 統計情報の表示およびクリア (CLI バージョン)	193
MST の設定例	193
MST の追加情報 (CLI バージョン)	195
Cisco NX-OS を使用した STP 拡張の設定	197
STP 拡張機能について	197
STP ポート タイプ	198
STP エッジ ポート	198
Bridge Assurance	198
BPDU ガード	200
BPDU フィルタリング	200
ループ ガード	201
ルート ガード	202
STP 拡張機能の適用	203
PVST シミュレーション	203

STP のハイ アベイラビリティ	204
STP 拡張機能の前提条件	204
STP 拡張機能の設定に関するガイドラインおよび制約事項	204
STP 拡張機能のデフォルト設定	206
STP 拡張機能の設定手順	206
スパニングツリー ポート タイプのグローバルな設定	206
指定インターフェイスでのスパニングツリー エッジ ポートの設定	209
指定インターフェイスでのスパニングツリー ネットワーク ポートの設定	211
BPDU ガードのグローバルなイネーブル化	213
指定インターフェイスでの BPDU ガードのイネーブル化	214
BPDU フィルタリングのグローバルなイネーブル化	216
指定インターフェイスでの BPDU フィルタリングのイネーブル化	218
ループ ガードのグローバルなイネーブル化	220
指定インターフェイスでのループ ガードまたはルート ガードのイネーブル化	221
PVST シミュレーションのグローバル設定 (CLI バージョン)	224
ポートごとの PVST シミュレーションの設定	225
STP 拡張機能の設定の確認	227
STP 拡張機能の設定例	227
STP 拡張機能の追加情報 (CLI バージョン)	228

第 12 章

レイヤ 2 スイッチングのリフレクティブ リレーの設定	229
リフレクティブ リレー 802.1Qbg について	229
リフレクティブ リレーのサポート	229
リフレクティブ リレーのガイドラインと制約事項	230
NX-OS CLI を使用したリフレクティブ リレーの設定	230



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#) (xiii ページ)
- [表記法](#) (xiii ページ)
- [Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料](#) (xiv ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (xiv ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (xv ページ)

対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus スイッチの設置、設定、および維持に携わるネットワーク管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
bold	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を指定する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角かっこで囲んで示しています。
[x y]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
[x {y z}]	角かっこまたは波かっこが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角かっこ内の波かっこと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体が使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しないでください。引用符を使用すると、その引用符も含めて string と見なされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、スクリーンフォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ全体のマニュアルセットは、次の URL にあります。

https://www.cisco.com/en/US/products/ps13386/tsd_products_support_series_home.html

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) にアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、[Cisco Support](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet \[英語\]](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーキング、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

Cisco バグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルドキュメントに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS レイヤ 2 スイッチング構成ガイドリリース 10.5(x) に記載されている新機能および変更された機能をまとめたものです。それぞれの説明が記載されている箇所も併記されています。

表 1: 新機能および変更された機能

特長	説明	変更が行われたリリース	参照先
VLAN レベルでの MAC 学習の無効化	VLAN で MAC 学習を無効にする新しいコマンド no mac-learn vlan が追加されました。	10.5(1)F	VLAN ごとの MAC 学習の無効化 (18 ページ)
system routing template-l2-heavy : FX3 プラットフォームでのテンプレートのサポート	FX/FX2/FX3 プラットフォームでの system routing template-l2-heavy のサポートが追加されました。	10.5(1)F	L2 ヘビー モードの設定 (23 ページ)



第 2 章

概要

- [ライセンス要件](#) (3 ページ)
- [サポートされるプラットフォーム](#) (3 ページ)
- [レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要](#), on page 3
- [VLANs](#), on page 4
- [スパンニングツリー](#) , on page 4
- [トラフィック ストーム制御](#), on page 6
- [関連項目](#), on page 7

ライセンス要件

Cisco NX-OS ライセンス方式の推奨の詳細と、ライセンスの取得および適用の方法については、『[Cisco NX-OS ライセンス ガイド](#)』および『[Cisco NX-OS ライセンス オプション ガイド](#)』を参照してください。

サポートされるプラットフォーム

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(1) 以降では、[Nexus スイッチ プラットフォーム サポート マトリクス](#)に基づいて、選択した機能をさまざまな Cisco Nexus 9000 および 3000 スイッチで使用するために、どの Cisco NX-OS リリースが必要かを確認してください。

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要

このデバイスは、レイヤ 2 イーサネットセグメント間の同時パラレル接続をサポートします。イーサネットセグメント間のスイッチドコネクションは、パケットが伝送されている間だけ維持されます。次のパケットには、別のセグメント間に新しい接続が確立されます。

デバイスは、高帯域のデバイスおよび多数のユーザに起因する輻輳問題を解決するために、デバイス（サーバなど）ごとに専用のコリジョンドメインを割り当てます。各 LAN ポートが個

別のイーサネット コリジョン ドメインに接続されるので、スイッチド環境のサーバは全帯域幅にアクセスできます。

イーサネット ネットワークではコリジョンによって深刻な輻輳が発生するため、全二重通信を使用することが有効な対処法の 1 つとなります。一般的に、10/100 Mbps イーサネットは半二重モードで動作するので、各ステーションは送信または受信のどちらかしか実行できません。これらのインターフェイスを全二重モードに設定すると、2 つのステーション間で同時に送受信を実行できます。パケットを双方向へ同時に送ることができるので、有効なイーサネット帯域幅は 2 倍になります。

VLANs

VLAN は、ユーザの物理的な位置に関係なく、機能、プロジェクトチーム、またはアプリケーションなどで論理的に分割されたスイッチドネットワークです。VLAN は、物理 LAN と同じ属性をすべて備えていますが、同じ LAN セグメントに物理的に配置されていないエンドステーションもグループ化できます。

どのようなスイッチポートでも VLAN に属することができ、ユニキャスト、ブロードキャスト、マルチキャストのパケットは、その VLAN に属する端末だけに転送またはフラッドされます。各 VLAN は 1 つの論理ネットワークであると見なされます。VLAN に属していないステーション宛てのパケットは、ブリッジまたはルータを経由して転送する必要があります。

デバイスの初回の起動時にすべてのポートがデフォルトの VLAN (VLAN1) に割り当てられます。VLAN インターフェイスまたはスイッチ仮想インターフェイス (SVI) は、VLAN 間の通信用として作成されるレイヤ 3 インターフェイスです。

このデバイスは、IEEE 802.1Q 規格に基づき、4095 の VLAN をサポートします。これらの VLAN はいくつかの範囲に分かれています。各範囲の使用法は少しずつ異なります。一部の VLAN はデバイスの内部使用のために予約されているため、設定には使用できません。



Note Cisco NX-OS では、スイッチ間リンク (ISL) はサポートされません。

スパニングツリー

ここでは、ソフトウェア上でのスパニングツリープロトコル (STP) の実装について説明します。このマニュアルでは、IEEE 802.1w および IEEE 802.1s を指す用語として、「スパニングツリー」を使用します。このマニュアルで IEEE 802.1D 規格のスパニングツリープロトコルについて記す場合は、802.1D であることを明記します。

STP の概要

STP は、レイヤ 2 レベルで、ループのないネットワークを実現します。レイヤ 2 LAN ポートは STP フレーム (ブリッジプロトコルデータユニット (BPDU)) を一定の時間間隔で送受

信します。ネットワーク デバイスは、これらのフレームを転送せずに、フレームを使用してループフリーパスを構築します。

802.1D は、オリジナルの STP 規格です。基本的なループフリー STP から、多数の改善を経て拡張されました。Per VLAN Spanning Tree (PVST+) では、各 VLAN に個別にループフリーパスを作成できます。また、機器の高速化に対応して、ループフリーコンバージェンス処理も高速化するために、規格全体が再構築されました。802.1w 規格は、高速コンバージェンスが統合された STP で、Rapid Spanning Tree (RSTP) と呼ばれています。現在では、各 VLAN 用の STP に高速コンバージェンス タイムを実装できます。これが、Per VLAN Rapid Spanning Tree (Rapid PVST+) です。

さらに、802.1s 規格のマルチ スパニングツリー (MST) では、複数の VLAN を単一のスパニングツリー インスタンスにマッピングできます。各インスタンスは、独立したスパニングツリー トポロジで実行されます。

ソフトウェアは、従来の 802.1D システムで相互運用できますが、システムでは Rapid PVST+ および MST が実行されます。Rapid PVST+ は、Cisco Nexus デバイス用のデフォルトの STP プロトコルです。



Note Cisco NX-OS では、拡張システム ID と MAC アドレス リダクションが使用されます。これらの機能はディセーブルにできません。

また、シスコはスパニングツリーの動作を拡張するための独自の機能をいくつか作成しました。

Rapid PVST+

RapidPVST+は、ソフトウェアのデフォルトのスパニングツリーモードで、デフォルト VLAN および新規作成のすべての VLAN 上で、デフォルトでイネーブルになります。

設定された各 VLAN 上で RSTP の単一インスタンスまたはトポロジが実行され、VLAN 上の各 Rapid PVST+ インスタンスに 1 つのルート デバイスが設定されます。Rapid PVST+ の実行中には、VLAN ベースで STP をイネーブルまたはディセーブルにできます。

MST

このソフトウェアは、MST もサポートしています。MST を使用した複数の独立したスパニングツリー トポロジにより、データトラフィック用に複数の転送パスを提供し、ロードバランシングを有効にして、多数の VLAN をサポートするために必要な STP インスタンスの数を削減できます。

MST には RSTP が統合されているので、高速コンバージェンスもサポートされます。MST では、1 つのインスタンス (転送パス) で障害が発生しても他のインスタンス (転送パス) に影響しないため、ネットワークのフォールトトレランスが向上します。



Note スパニングツリー モードを変更すると、すべてのスパニングツリー インスタンスが前のモードで停止して新規モードで開始されるため、トラフィックが中断されます。

コマンドライン インターフェイスを使用すると、先行標準（標準ではない）の MST メッセージを指定インターフェイスで強制的に送信できます。

STP 拡張機能

このソフトウェアは、次に示すシスコ独自の機能をサポートしています。

- スパニングツリー ポート タイプ：デフォルトのスパニングツリー ポート タイプは、標準（normal）です。レイヤ2ホストに接続するインターフェイスをエッジポートとして、また、レイヤ2スイッチまたはブリッジに接続するインターフェイスをネットワーク ポートとして設定できます。
- ブリッジ保証：ポートをネットワーク ポートとして設定すると、ブリッジ保証によりすべてのポート上に BPDU が送信され、BPDU を受信しないポートはブロッキング ステートに移行します。この拡張機能を使用できるのは、Rapid PVST+ または MST を実行する場合だけです。
- BPDU ガード：BPDU ガードは、BPDU を受信したポートをシャットダウンします。
- BPDU フィルタ：BPDU フィルタは、ポート上での BPDU の送受信を抑制します。
- ループ ガード：ループ ガードを使用すると、ポイントツーポイント リンク上の単方向リンク障害によって発生するブリッジングループを防止できます。
- ルート ガード：STP ルート ガードを使用すると、ポートがルート ポートまたはブロッキングされたポートになることが防止されます。ルート ガードに設定されたポートが上位 BPDU を受信すると、このポートはただちにルートとして一貫性のない（ブロックされた）ステートになります。

トラフィック ストーム制御

トラフィック ストーム制御（トラフィック抑制ともいいます）を使用すると、着信トラフィックのレベルを 1 秒より大きなインターバルでモニタできます。この間、トラフィック レベル（ポートの使用可能合計帯域幅に対するパーセンテージ）が、設定したトラフィック ストーム制御レベルと比較されます。入力トラフィックが、ポートに設定したトラフィック ストーム制御レベルに到達すると、トラフィック ストーム制御機能によってそのインターバルが終了するまでトラフィックがドロップされます。

詳細については、『[Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS セキュリティ構成ガイド](#)』の「[トラフィック ストーム制御の構成](#)」を参照してください。Cisco NX-OS リリース 10.3(2)F 以降、トラフィック ストーム制御機能はレイヤ 3 でもサポートされます。

関連項目

レイヤ 2 スイッチング機能に関連するマニュアルは、次のとおりです。

- 『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』
- 『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide*』
- 『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide*』
- 『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*』



第 3 章

レイヤ 2 スイッチングの設定

- レイヤ 2 スイッチングについて (9 ページ)
- スイッチングのハイ アベイラビリティ, on page 11
- MAC アドレス設定の前提条件 (12 ページ)
- レイヤ 2 スイッチングのデフォルト設定 (12 ページ)
- MAC 移動ループ検出 (12 ページ)
- syslog エラーメッセージの生成 (13 ページ)
- レイヤ 2 スイッチングの設定手順 (14 ページ)
- レイヤ 2 スイッチング設定の確認 (25 ページ)
- レイヤ 2 スイッチングの設定例 (26 ページ)
- レイヤ 2 スイッチングの追加情報 (CLI バージョン) (27 ページ)

レイヤ 2 スイッチングについて



(注) インターフェイスの作成については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。<https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/92x/interfaces/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-interfaces-configuration-guide-92x.html><https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/93x/interfaces/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-interfaces-configuration-guide-93x.html>

レイヤ 2 スイッチングポートは、アクセスポートまたはトランクポートとして設定できます。トランクは 1 つのリンクを介して複数の VLAN トラフィックを伝送するので、VLAN をネットワーク全体に拡張することができます。レイヤ 2 スイッチングポートはすべて、MAC アドレス テーブルを維持します。



(注) 『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』 『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』 『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』 『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』 高可用性機能の詳細については、を参照してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/92x/High_Availability_and_Redundancy_Guide/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-High-availability-and-redundancy-guide-92x.html <https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/93x/high-availability-and-redundancy/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-High-availability-and-redundancy-guide-93x.html>

レイヤ2イーサネットスイッチングの概要

このデバイスは、レイヤ2イーサネットセグメント間の同時パラレル接続をサポートします。イーサネットセグメント間のスイッチドコネクションは、パケットが伝送されている間だけ維持されます。次のパケットには、別のセグメント間に新しい接続が確立されます。

デバイスは、高帯域のデバイスおよび多数のユーザに起因する輻輳問題を解決するために、デバイス（サーバなど）ごとに専用のコリジョンドメインを割り当てます。各LANポートが個別のイーサネットコリジョンドメインに接続されるので、スイッチド環境のサーバは全帯域幅にアクセスできます。

イーサネットネットワークではコリジョンによって深刻な輻輳が発生するため、全二重通信を使用することが有効な対処法の1つとなります。一般的に、10/100 Mbps イーサネットは半二重モードで動作するので、各ステーションは送信または受信のどちらかしか実行できません。これらのインターフェイスを全二重モードに設定すると、2つのステーション間で同時に送受信を実行できます。パケットを双方向へ同時に送ることができるので、有効なイーサネット帯域幅は2倍になります。

セグメント間のフレームスイッチング

デバイス上の各LANポートは、単一のワークステーション、サーバ、またはワークステーションやサーバがネットワークへの接続時に経由する他のデバイスに接続できます。

信号の劣化を防ぐために、デバイスは各LANポートを個々のセグメントとして処理します。異なるLANポートに接続しているステーションが相互に通信する必要がある場合、デバイスは、一方のLANポートから他方のLANポートにワイヤ速度でフレームを転送し、各セッションが全帯域幅を利用できるようにします。

デバイスは、LANポート間で効率的にフレームをスイッチングするために、アドレステーブルを管理しています。デバイスは、フレームを受信すると、受信したLANポートに、送信側ネットワークデバイスのメディアアクセスコントロール（MAC）アドレスを関連付けます。

アドレステーブルの構築およびアドレステーブルの変更

デバイスは、受信したフレームの送信元MACアドレスを使用して、アドレステーブルをダイナミックに構築します。自分のアドレステーブルに登録されていない宛先MACアドレスを持

つフレームを受信すると、デバイスは、そのフレームを同じ VLAN のすべての LAN ポート（受信したポートは除く）に送出します。宛先端末が応答を返してきたら、デバイスは、その応答パケットの送信元 MAC アドレスとポート ID をアドレス テーブルに追加します。以降、その宛先へのフレームを、すべての LAN ポートに送出せず、単一の LAN ポートだけに転送します。

スタティック MAC アドレスと呼ばれる、デバイス上の特定のインターフェイスだけをスタティックに示す MAC アドレスを設定できます。スタティック MAC アドレスは、インターフェイス上でダイナミックに学習された MAC アドレスをすべて書き換えます。ブロードキャストのアドレスは、スタティック MAC アドレスとして設定できません。スタティック MAC エントリは、デバイスのリブート後も保持されます。

仮想ポートチャンネル (vPC) ピアリンクにより接続されている両方のデバイスに、同一のスタティック MAC アドレスを手動で設定する必要があります。MAC アドレス テーブルの表示が拡張されて、vPC を使用している MAC アドレスに関する情報が表示されるようになりました。

vPCの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。<https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/92x/interfaces/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-interfaces-configuration-guide-92x.html><https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/nexus9000/sw/93x/interfaces/configuration/guide/b-cisco-nexus-9000-nx-os-interfaces-configuration-guide-93x.html>

アドレス テーブルは、ハードウェアの I/O モジュールに応じて多数の MAC アドレス エントリを格納できます。デバイスは、設定可能なエージングタイマーによって定義されるエージングメカニズムを使用しているため、アドレスが非アクティブな状態のまま指定時間（秒）が経過すると、そのアドレスはアドレス テーブルから削除されます。

スーパーバイザおよびモジュール上で一貫した MAC アドレス テーブル

各モジュールのすべての MAC アドレス テーブルが、スーパーバイザ上の MAC アドレスと正確に一致するのが理想的です。**show forwarding consistency l2** コマンドまたは **show consistency-checker l2** コマンドを入力すると、不一致、欠落、および余分の MAC アドレス エントリが表示されます。

スイッチングのハイ アベイラビリティ

従来のイーサネットスイッチングごとに、ソフトウェアのアップグレードまたはダウングレードをシームレスに実行できます。レイヤ3 インターフェイス上にスタティック MAC アドレスを設定している場合、ソフトウェアをダウングレードするために、これらのポートの設定を解除する必要があります。

**Note**

ハイアベイラビリティ機能の詳細については、次を参照してください。[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide](#)[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide](#)[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide](#)

MAC アドレス設定の前提条件

MAC アドレスには次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。
- 必要に応じて、アドバンスドサービスのライセンスをインストールします。

レイヤ2スイッチングのデフォルト設定

次の表に、レイヤ2スイッチングのパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: レイヤ2スイッチングパラメータのデフォルト値

パラメータ	デフォルト
エージングタイム	1800 秒

MAC 移動ループ検出

Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチは、ソフトウェア MAC 学習（およびその後のループ検出）に L2FM を活用します。ホスト（MAC アドレス）が同じ VLAN 内の 2 つのインターフェイス間で移動すると、MAC 移動がトリガーされます。このような MAC 移動が短期間に多数発生すると、スイッチのコントロールプレーンと CPU のパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。L2FM は、対応する MAC アドレスの MAC 移動数がしきい値を超えると、特定の VLAN で MAC 学習を無効にすることで、このようなシナリオからスイッチを保護します。

Broadcom ASIC ベースのスイッチの場合、MAC 移動学習無効化しきい値基準は、単一の MAC アドレスが同じ VLAN 内で 1 秒間に 10 回以上移動することです。

Cisco Nexus 9300-EX/FX/FX2/FX3/GX/GX2/H2R/H1、9804/9808 スイッチ、および 9700-EX/FX/GX ラインカードを搭載した Cisco Nexus 9500 スイッチの場合、MAC 移動学習無効化しきい値基準は、単一の MAC アドレスが同じ VLAN 内で 10 秒間に 10 回以上移動することです。

しきい値の制限に達すると、対応する VLAN のすべての新しい MAC 学習が 120 秒間無効になります。120 秒後に、その VLAN で新しい MAC 学習が再度有効になります。スイッチ上の残りの VLAN には影響しません。

syslog エラーメッセージの生成

syslog で MAC 移動通知を表示するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	logging level l2fm 5 例 : <pre>switch(config)# logging level l2fm 5</pre>	レベル 5 から最もシビラティ（重大度）の高いイベントまでのすべての L2FM イベントのログギングを有効にします。
ステップ 3	(任意) mac address-table notification mac-move 例 : <pre>switch(config)# mac address-table notification mac-move</pre>	スイッチで MAC 移動通知を有効にします。 (注) • MAC 移動通知はデフォルトで有効になっています。 • このコマンドでは、MAC アドレスの移動があった場合に、L2FM 用 syslog が確実に表示するようにします。

次に、生成された syslog メッセージの例を示します。

- MAC 移動が検出された場合 :

```
2023 Nov 29 21:42:04 N-3164Q-40G %L2FM-4-L2FM_MAC_MOVE2: Mac
0003.0001.005d in vlan 500 has moved from Eth1/24 to Eth1/63
```

- VLAN での MAC 学習が無効の場合 :

```
2023 Nov 29 21:23:29 N-3164Q-40G %L2FM-2-L2FM_MAC_FLAP_DISABLE_LEARN:
Disabling learning in vlan 500 for 120s due to too many mac moves
```

- VLAN での MAC 学習を再度有効にすると、次のようになります。

```
2023 Nov 29 21:23:19 N-3164Q-40G
%L2FM-2-L2FM_MAC_FLAP_RE_ENABLE_LEARN: Re-enabling learning in vlan
500
```

例

MAC アドレスが移動したかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
switch# show mac address-table notification mac-move
MAC Move Notify Triggers: 1206
Number of MAC Addresses added: 944088
Number of MAC Addresses moved: 265
Number of MAC Addresses removed: 943920
```



(注) MAC 移動の考えられる原因は次のとおりです。

- MACアドレスは、サーバーNICチーミングと、アクティブ/アクティブ、アクティブ/スタンバイ状態の間の遷移などにより移動します。
- STP ステートがコンバージェスされて正しい状態にあるときに、データの送信元がすべてのスイッチを物理的に横断していることが原因で、MACアドレスが移動します。
- ネットワーク内のループが原因の場合もあります。

レイヤ2スイッチングの設定手順



(注) Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能の Cisco NX-OS コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

スタティック MAC アドレスの設定

スタティック MAC アドレスと呼ばれる、デバイス上の特定のインターフェイスだけをスタティックに示すMACアドレスを設定できます。スタティックMACアドレスは、インターフェイス上でダイナミックに学習されたMACアドレスをすべて書き換えます。ブロードキャストまたはマルチキャストのアドレスは、スタティックMACアドレスとして設定できません。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **mac address-table static mac-address vlan vlan-id {[drop | interface {type slot/port} | port-channel number]}**
3. **exit**
4. (Optional) **show mac address-table static**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	mac address-table static mac-address vlan vlan-id {[drop interface {type slot/port} port-channel number]} Example: switch(config)# mac address-table static 1.1.1 vlan 2 interface ethernet 1/2	レイヤ 2 MAC アドレス テーブルに追加するスタティック MAC アドレスを指定します。 Note drop オプションを使用すると、指定した VLAN で構成された MAC アドレスに向かうすべてのトラフィックがドロップされます。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show mac address-table static Example: switch# show mac address-table static	スタティック MAC アドレスを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、レイヤ 2 MAC アドレス テーブルにスタティック エントリを入力する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# mac address-table static 1.1.1 vlan 2 interface ethernet 1/2
switch(config)#
```

システムでの MAC アドレス学習の無効化

システムで MAC アドレス学習を無効にしてから、再度有効にできるようになりました。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config-if)# **[no] mac-learning disable**
3. switch(config-if)# **clear mac address-table dynamic**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config-if)# [no] mac-learning disable	スイッチでの MAC アドレス学習を無効にします。 このコマンドの no 形式を使用すると、スイッチでの MAC アドレス学習が再度有効になります。
ステップ 3	switch(config-if)# clear mac address-table dynamic	スイッチの MAC アドレステーブルをクリアします。 重要 スイッチで MAC アドレス学習を無効化した後には、MAC アドレステーブルを必ずクリアしてください。

レイヤ2 インターフェイスでのMACアドレス学習の無効化

レイヤ2 インターフェイスでMACアドレス ラーニングを無効にしてから再度有効にできるようになりました。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **interface type slot/port**
3. switch(config-if)# **[no] switchport mac-learning disable**
4. switch(config-if)# **clear mac address-table dynamic interface type slot/port**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# interface type slot/port	指定したインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# [no] switchport mac-learn disable	レイヤ2 インターフェイスでの MAC アドレス学習の無効化 no フォームのコマンドは、レイヤ2 インターフェイスでのMACアドレス学習の再イネーブル化します。 (注) ワープモードでは、Cisco Nexus 3500 スイッチは、switchport mac-learn disableを使用して構成されたポートが存在する VLAN にレイヤ3 トラフィックをフラッディングせず、トラフィックはドロップされます。通常モードでは、スイッチはレイヤ3 トラフィックをこの VLAN にフラッディングする必要があります。
ステップ 4	switch(config-if)# clear mac address-table dynamic interface type slot/port	指定されたインターフェイスの MAC アドレス テーブルをクリアします。 重要 インターフェイスでMACアドレス ラーニングを無効化した後、MAC アドレス テーブルを必ずクリアしてください。

例

次の例では、レイヤ2 インターフェイスで MAC アドレス ラーニングをディセーブルにする方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# switchport mac-learn disable
switch(config-if)# clear mac address-table dynamic interface ethernet 1/4
```

次の例では、レイヤ2 インターフェイスで MAC アドレス ラーニングを再イネーブル化する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# no switchport mac-learn disable
```

VLAN ごとの MAC 学習の無効化

Cisco NX-OS リリース 10.5(1)F 以降では、Cisco Nexus 9300-FX/FX2/FX3/GX/GX2/H2R/H1 シリーズスイッチおよび 9700-EX/FX/GX ラインカードを搭載した Cisco Nexus 9500 シリーズスイッチにおいて、MAC 学習を VLAN レベルで無効にすることができます。

VLAN で MAC 学習が無効になっている場合は、MAC 学習が無効になっていることを確認する syslog メッセージが生成されます。また必要に応じて、VLAN ですでに学習されている MAC アドレスをクリアするための通知が送信されます。syslog はまた、ピア vPC でも同じ設定を適用するようにアドバイスします。

始める前に

- mac-learn disable 機能を使用するには、VLAN が作成されていることを確認します。
- VLAN は、レガシー VLAN または VXLAN VLAN が可能です。

手順の概要

1. **config t**
2. **[no] mac-learn vlan vlan-id**
3. **clear mac address-table dynamic vlan vlan-id**
4. **exit**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	[no] mac-learn vlan vlan-id 例 : <pre>switch(config)# no mac-learn vlan 6</pre>	指定された VLAN で MAC 学習を無効にします。 指定した VLAN で MAC 学習を有効にするには、 mac-learn vlan vlan-id コマンドを使用します。 予約済み VLAN を除き、許可される VLAN の範囲は 2 ～ 4092 です。 (注) • この設定は、スタンドアロンおよび vPC で機能します。ただし、vPC ピアの両方で disable mac-learn を実行してください。

	コマンドまたはアクション	目的
		- この設定は、次の機能とは相互に排他的です。 - SVI - ポート セキュリティ - プライベート VLAN
ステップ 3	clear mac address-table dynamic vlan vlan-id 例 : <pre>switch(config)# clear mac address-table dynamic vlan 6</pre>	指定された VLAN の MAC アドレステーブルをクリアします。 重要 VLAN で MAC アドレス学習を無効化した後には、MAC アドレステーブルを必ずクリアしてください。
ステップ 4	exit 例 : <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

MAC テーブルのエージング タイムの設定

MAC アドレス エントリ (パケットの送信元 MAC アドレスおよびパケットを学習したポート) を、レイヤ 2 情報を含む MAC テーブルに格納しておく時間を設定できます。



Note

MAC アドレスのエージング タイムアウトの最大時間は、設定された MAC アドレス テーブルのエージング タイムアウトの 2 倍です。



Note

インターフェイス コンフィギュレーション モードまたは VLAN コンフィギュレーション モードで MAC エージング タイムを設定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **mac address-table aging-time seconds**
3. **exit**
4. (Optional) **show mac address-table aging-time**

5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	mac address-table aging-time seconds Example: switch(config)# mac address-table aging-time 600	エントリが期限切れになり、レイヤ 2 MAC アドレス テーブルから廃棄される前にエージング タイムを指定します。指定できる範囲は 120 ～ 918000 秒です。デフォルトは 1800 秒です。0 を入力すると、MAC エージングがディセーブルになります。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show mac address-table aging-time Example: switch# show mac address-table aging-time	MAC アドレスを保持するエージング タイム設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、レイヤ 2 MAC アドレス テーブルのエントリのエージング タイムを 600 秒（10 分）に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# mac address-table aging-time 600
switch(config)#
```

MAC アドレス テーブルの整合性検査

スーパーバイザ上の MAC アドレス テーブルとすべてのモジュールの一致を確認できるようになりました。

SUMMARY STEPS

1. **show consistency-checker l2 module** <slot_number>

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show consistency-checker l2 module <slot_number> Example: <pre>switch# show consistency-checker l2 module 7 switch#</pre>	スーパーバイザと指定のモジュールの間の、矛盾、不足、余分な MAC アドレスを表示します。

Example

次に、スーパーバイザと指定のモジュールの間の、MAC アドレス テーブル内の矛盾、不足、余分なエントリを表示する例を示します。

```
switch# show consistency-checker l2 module 7
switch#
```

MAC テーブルからのダイナミック アドレスのクリア

MAC アドレス テーブルにある、すべてのダイナミック レイヤ2 エントリをクリアできます。
(指定したインターフェイスまたは VLAN によりエントリをクリアすることもできます。)

SUMMARY STEPS

1. **clear mac address-table dynamic** {address mac_addr} {interface [ethernet slot/port | port-channel channel-number]} {vlan vlan_id}
2. (Optional) **show mac address-table**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	clear mac address-table dynamic {address mac_addr} {interface [ethernet slot/port port-channel channel-number]} {vlan vlan_id} Example: <pre>switch# clear mac address-table dynamic</pre>	レイヤ2 の MAC アドレス テーブルから、ダイナミック アドレス エントリをクリアします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	(Optional) show mac address-table Example: <pre>switch# show mac address-table</pre>	MAC Address Table を表示します。

Example

次に、レイヤ 2 MAC アドレス テーブルからダイナミック エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear mac address-table dynamic
switch#
```

VLAN ごとのダイナミック MAC アドレス制限の設定

Cisco NX-OS リリース 10.4(2)F 以降では、Cisco Nexus 9300-EX/FX/FX2/FX3/GX/GX2/H2R/H1 プラットフォームスイッチでの MAC フラッド攻撃からコントロールプレーンを保護するために、VLAN ごとのダイナミック MAC エントリの数に制限を課すことができます。



Note 構成はデフォルトのテンプレートでのみサポートされ、L2 ヘビーテンプレートではサポートされません。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **vlan {vlan-id | vlan-range}**
3. **mac address-table limit vlan vlan-id limit -value**
4. **exit**
5. **exit**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	vlan {vlan-id vlan-range} Example: <pre>switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#</pre>	VLAN 設定サブモードにします。既存の VLAN ではない場合、指定した VLAN が作成され、VLAN コンフィギュレーション サブモードが開始されます。
ステップ 3	mac address-table limit vlan vlan-id limit -value Example: <pre>switch(config-vlan)# mac address-table limit vlan 40 108</pre>	VLAN を適用すべき MAC アドレス制限に指定します。 制限の許容値は 100 ～ 196000 です。 Note - このコマンドは EoR ではサポートされていません。 - このコマンドは、vPC や VXLAN VLAN では使用しないでください。 - MAC 制限を有効または無効にするか、または mac-limit を変更すると、その VLAN で学習されたすべてのダイナミック MAC がフラッシュされます。ただし、静的またはゲートウェイ MAC の学習は影響を受けません。 - フラッシュする前に確認を求めるプロンプトが表示されます。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-vlan)# exit switch(config)#</pre>	VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

L2 ヘビー モードの設定

この機能の目的は、新規の L2 ヘビー テンプレートを分類し、FP タイル ハードウェア リソースの割り当てを変更し、必要な制御プレーンの変更を行うことで現在の 92k MAC アドレスのスケールを 200k に増加させ、ISSU の復元が新しいスケールへの適合をサポートできるようにすることです。

コマンド	目的
sh system routing mode	設定済みおよび適用済みモードを表示します
system routing template-l2-heavy	200K MAC をイネーブルにします。200K MAC は、このモードが設定され、システムがリロードされた場合にのみ有効になります。 この機能をディセーブルにするには、このコマンドの no 形式を使用します。 (注) Cisco NX-OS リリース 10.2(2)F 以降、MAC は Cisco N9K-C9332D-GX2B プラットフォームスイッチでサポートされます。
sh run i system	適用済みのモードを実行します。

ガイドラインおよび制約事項:

- この機能はレイヤ2の1次元スケールのみサポートします。
- SVI、レイヤ3 インターフェイス、および VXLAN VLAN はサポートされません。
- Cisco NX-OS リリース 9.2(3) 以降、この機能は N9K-C9264PQ、N9K-C9272Q、N9K-C9236C、N9K-C92300YC、N9K-C92304QC、N9K-C9232C、N9K-C92300YC、および 9300-EX の各プラットフォームをサポートしています。
- Cisco NX-OS リリース 10.2(2)F 以降、200K MAC は Cisco N9K-C9332D-GX2B プラットフォームスイッチでサポートされます。
- Cisco NX-OS リリース 10.5(1)F 以降、この機能は N9K-9300-FX/FX2/FX3 TOR プラットフォームでサポートされます。

次は、L2 ヘビー モードの設定の例を表示します。

```
switch (config)# sh system routing mode
switch# Configured System Routing Mode: L2 Heavy
switch# Applied System Routing Mode: L2 Heavy
switch#
switch# show run | i system
switch# system routing template-l2-heavy
switch#
```

レイヤ2スイッチング設定の確認

レイヤ2スイッチングの設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show mac address-table	MACアドレステーブルに関する情報を表示します。
show mac address-table limit	MACアドレステーブルの制限設定に関する情報を表示します。
show mac address-table aging-time	MACアドレステーブルに設定されているエージングタイムの情報を表示します。 (注) Cisco NX-OS リリース 10.2 (1) 以降、Cloudscale ASICを使用する Cisco Nexus 9000 と Nexus 3000 スイッチは、 show mac address 出力で MAC の経過時間を報告しません。 age カラムは無視できます。以前のリリースで報告された固定値 0 の代わりに、NA が報告されるようになりました。これは表示上の制限にすぎません。MAC エージングは引き続き機能的に適用されます。
show mac address-table static	MACアドレステーブルのスタティック エントリの情報を表示します。
show mac address-table limit vlan	MAC 学習制限で設定された VLAN に関する情報を表示します。
show interface [interface] mac-address	インターフェイスのMACアドレスとバインドインMACアドレスを表示します。

コマンド	目的
show forwarding consistency l2 {module}	モジュールとスーパーバイザのテーブル間の不一致、不明、および追加のMACアドレスを表示します。

レイヤ2スイッチングの設定例

次に、スタティック MAC アドレスを追加し、MAC アドレスのデフォルトのグローバル エージング タイムを変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mac address-table static 0000.0000.1234 vlan 10 interface ethernet 2/15
switch(config)# mac address-table aging-time 120
```

次に、VLAN ごとのダイナミック MAC 制限の設定方法の例を示します。

```
switch(config)# mac address-table limit vlan 251 100
Configuring MAC address limit will result in flushing existing Macs in the specified
VLAN/System. Proceed (yes/no)? [n] yes
Warning : MAC limit per VLAN feature isn't supported along with VPC/VxLAN. Please remove
the config if VPC/VxLAN config is present in this system !!!
switch(config)#
switch(config)# mac address-table limit vlan 252-253 100
Configuring MAC address limit will result in flushing existing Macs in the specified
VLAN/System. Proceed (yes/no)? [n] yes
switch(config)#
switch(config)# mac address-table limit vlan 254 300
Configuring MAC address limit will result in flushing existing Macs in the specified
VLAN/System. Proceed (yes/no)? [n] yes
```



- (注) スイッチでこの機能を初めて設定すると、この機能がvPC/VXLANでサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは、以降の構成では表示されません。

構成されたダイナミック MAC 制限と現在のカウントを確認するには、次の **show** コマンドを使用します。

```
switch# show mac address-table limit vlan
```

Vlan	Conf Limit	Curr Count
251	100	100
252	100	100
253	100	75
254	300	60

レイヤ 2 スイッチングの追加情報 (CLI バージョン)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
スタティック MAC アドレス	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』
インターフェイス	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
高可用性	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』



第 4 章

Flex Link の設定

この章では、Cisco NX-OS 9000 シリーズ スイッチで Flex Link を設定する方法について説明します。Flex Link は相互バックアップを提供するインターフェイスのペアです。

この章は、次の項目を取り上げます。

- [Flex Link について \(29 ページ\)](#)
- [注意事項と制約事項 \(31 ページ\)](#)
- [デフォルト設定 \(33 ページ\)](#)
- [Flex Link の設定 \(33 ページ\)](#)
- [設定の確認 \(38 ページ\)](#)

Flex Link について

このセクションは、次のトピックで構成されています。

Flex Link

Flex Link はレイヤ 2 インターフェイス（スイッチポートまたはポート チャネル）のペアであり、片方のインターフェイスが他方のバックアップとして動作するように設定されています。

この機能は、スパニングツリー プロトコル（STP）の代替ソリューションとして提供され、ユーザが STP をオフにしても、基本的なリンク冗長性は確保されます。通常、カスタマーがスイッチで STP を実行しないネットワークの Flex Link を設定します。スイッチで STP を設定する場合、STP がすでにリンクレベルの冗長性またはバックアップを提供しているので Flex Link の設定は必要ありません。



- (注) STP は、ネットワーク ノード インターフェイス（NNI）上で、デフォルトでイネーブルに設定されています。拡張ネットワーク インターフェイス（ENI）ではディセーブルに設定されていますが、イネーブルにできます。STP は、ユーザ ネットワーク インターフェイス（UNI）ではサポートされていません。

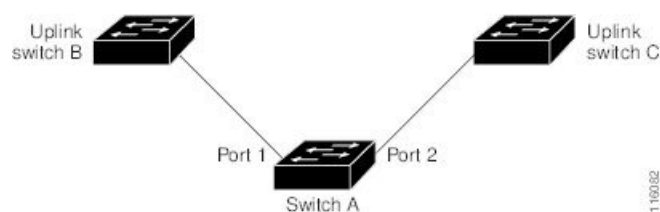
別のレイヤ 2 インターフェイスを Flex Link またはバックアップ リンクとして割り当てることで、1つのレイヤ 2 インターフェイス（アクティブ リンク）に Flex Link を設定します。リンクの1つがアップでトラフィックを転送しているときは、もう一方のリンクがスタンバイモードで、このリンクがシャットダウンした場合にトラフィックの転送を開始できるように準備しています。どの時点でも、1つのインターフェイスのみがリンクアップ状態でトラフィックを転送しています。プライマリ リンクがシャットダウンされると、スタンバイ リンクがトラフィックの転送を開始します。アクティブ リンクがアップに戻った場合はスタンバイ モードになり、トラフィックが転送されません。STP は Flex Link インターフェイスでディセーブルです。

次の図の **Flex Links コンフィギュレーションの例** で、A のポート 1 と 2 はアップリンクスイッチ B と C に接続されています。それらは Flex Link として設定されているため、インターフェイスのうち1つだけがトラフィックを転送し、その他はスタンバイモードになります。ポート 1 がアクティブ リンクである場合、ポート 1 とスイッチ B との間でトラフィックの転送が開始され、ポート 2（バックアップリンク）とスイッチ C との間のリンクでは、トラフィックは転送されません。ポート 1 がダウンすると、ポート 2 がアップ状態になってスイッチ C へのトラフィックの転送を開始します。ポート 1 が再びアップ状態に戻ってもスタンバイ モードになり、トラフィックを転送しません。ポート 2 がトラフィック転送を続けます。

プリエンプション

また、優先してトラフィックの転送に使用するポートを指定して、プリエンプションメカニズムを設定することもできます。次の図で、たとえば、Flex Link ペアをプリエンプションモードで設定できます。このシナリオでは、ポート 1 がバックアップ状態になったあと、ポート 1 の帯域幅がポート 2 よりも大きい場合、ポート 1 は 35 秒後に転送を開始し、ポート 2 はスタンバイになります。これを行うには、`switchport backup interface preemption mode bandwidth` および `switchport backup interface preemption delay` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力します。

図 1: Flex Link の設定例



プライマリ（転送）またはリンクがダウンすると、トラップによってネットワーク管理ステーションが通知を受けます。Flex Link はレイヤ 2 ポートおよびポート チャネルだけでサポートされます。trunk access VLAN またはレイヤ 3 ポートではサポートされません。

マルチキャスト

Flex Link インターフェイスが mrouter ポートとして学習されると、リンクアップしている場合、スタンバイ（非転送）インターフェイスも mrouter ポートとして相互学習されます。この相互学習は、内部ソフトウェアのステート メンテナンス用であり、マルチキャスト高速コン

バージョンがイネーブルでない限り、IGMP 動作またはハードウェア転送に対して関連性はありません。マルチキャスト高速コンバージェンスを設定すると、相互学習された mrouter ポートがただちにハードウェアに追加されます。Flex Link では、IPv4 IGMP のマルチキャスト高速コンバージェンスをサポートしています。

注意事項と制約事項

Flex Link を設定する場合は、次のガイドラインおよび制約事項を考慮してください。

- Flex link は次のプラットフォームでサポートされます: Cisco Nexus 9300-EX、9300-FX、9300-FX2、C9364C スイッチ
- Flex Link は、IPv4 マルチキャストの Cisco Nexus 9300-FX、9300-FX2、および 9348GC-FXP スイッチでサポートされます。
- Flex Link インターフェイスで、スパンニング ツリー プロトコルは明示的にディセーブルになっているため、同じトポロジーでその他の冗長パスを設定してループを発生させないように確認してください。また、spanning-tree ポート タイプの標準コマンドを使用して、アップストリームスイッチに対応するリンクを設定します。これにより、Bridge Assurance によってブロックされないようになります。
- Flex Link はアップリンク インターフェイス向けに設計されます。これは通常トランク ポートとして設定されます。リンク バックアップ メカニズムとして、Flex Link ペアは同じ設定の内容（同じスイッチポート モードおよび許可済み VLAN のリスト）を持つ必要があります。Port-profile は Flex Link ペアの設定などをアップするための便利なツールです。Flex Link では、2 つのインターフェイスが同じ設定であることは必須ではありません。ただし、設定が長期間不一致であることはフォーワーディングの問題、特にファイルオーバーの間に、問題が生じる可能性があります。
- Flex Link は、次のインターフェイス タイプで設定できません。
 - レイヤ 3 インターフェイス
 - SPAN 宛先
 - ポート チャネル メンバー
 - プライベート VLAN を使用して設定されているインターフェイス
 - エンド ノード モードのインターフェイス
 - レイヤ 2 マルチパス化
- 任意のアクティブ リンクに対して設定可能な Flex Link バックアップ リンクは 1 つだけで、アクティブ インターフェイスとは異なるインターフェイスでなければなりません。
- インターフェイスが所属できる Flex Link ペアは 1 つだけです。つまり、インターフェイスは 1 つのアクティブ リンクに対してだけ、バックアップ リンクになることができます。

- どちらのリンクも、EtherChannelに属するポートには設定できません。ただし、2つのポートチャンネル（EtherChannel 論理インターフェイス）を Flex Link として設定でき、ポートチャンネルおよび物理インターフェイスを Flex Link として設定して、ポートチャンネルか物理インターフェイスのどちらかをアクティブリンクにすることができます。
- バックアップリンクはアクティブリンクと同じタイプ（ビットイーサネットまたはポートチャンネル）にする必要はありません。ただし、スタンバイリンクがトラフィック転送を開始した場合にループが発生したり動作が変更したりしないように、両方の Flex Link を同様の特性で設定する必要があります。
- STP は Flex Link ポートでディセーブルです。ポート上にある VLAN が STP 用に設定されている場合でも、Flex Link ポートは STP に参加しません。STP がイネーブルでない場合は、設定されているトポロジでループが発生しないようにしてください。



(注) STP を使用できるのは、NNI または ENI 上だけです。

- STP 機能（たとえば、PortFast、および BPDU ガード）を Flex Link ポートで設定しないでください。
- Flex Link ペアでデフォルト インターフェイス CLI（アクティブおよびスタンバイ）はサポートされていません。ブレイクアウト/インのいずれかがプライマリまたはスタンバイ インターフェイスで実行されている場合、Flex Link 設定は削除されます。
- vPC はサポートされていません。Flex Link は、設定の簡素化が求められ、アクティブ-アクティブ冗長の必要性がない vPC の代わりに使用されます。
- Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、Flex Link 機能は Cisco Nexus 9300-GX、N9K-C93108TC-FX3H、および N9K-C93108TC-FX3P プラットフォーム スイッチでサポートされています。
- Cisco NX-OS リリース 9.3(7) 以降、Flex Link 機能は Cisco N9K-C93180YC-FX3 プラットフォーム スイッチでサポートされています。
- Cisco NX-OS リリース 10.1(1) 以降、Flex Link 機能は Cisco N9K-C93180YC-FX3 プラットフォーム スイッチでサポートされています。
- Cisco NX-OS リリース 10.2(2)F 以降、PVLAN と Flex Link 機能は Cisco N9K-9332D-GX2B プラットフォーム スイッチでサポートされています。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(2) 以降、Flex Link 機能は Cisco N9K-C93108TC-FX3 プラットフォーム スイッチでサポートされています。

デフォルト設定

パラメータ	デフォルト
Flex Link	ディセーブル
Multicast Fast-Convergence	ディセーブル
Flex Linkプリエンブションモード	オフ
Flex Linkプリエンブション遅延	35 秒

Flex Link の設定

FlexLink の設定

レイヤ 2 インターフェイス（スイッチ ポートまたはポート チャネル）のペアを、1 つのインターフェイスがもう一方のバックアップとして機能するように設定されている Flex Link インターフェイスとして設定できます。

始める前に

これらは、この機能のガイドラインおよび制限事項です。（[ガイドライン](#)と[制約事項](#)を参照してください。）

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **feature flexlink**
3. **interface { ethernet slot/ port | port-channel channel no**
4. **switchport backup interface { ethernet slot/ port | port-channel channel-no} [multicast fast-convergence]**
5. （任意） **end**
6. （任意） **show interface switchport backup**
7. （任意） **copy running-config startup config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	feature flexlink	Flex Link をイネーブルにします。
ステップ 3	interface { ethernet slot/ port port-channel channel no	イーサネットまたはポート チャネル インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switchport backup interface { ethernet slot/ port port-channel channel-no } [multicast fast-convergence]	Flex Link ペアのバックアップ インターフェイスとして物理レイヤ 2 インターフェイス（イーサネットまたはポート チャネル）を指定します。1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、もう一方のインターフェイスはスタンバイ モードです。 • ethernet slot/port : バックアップ イーサネット インターフェイスを指定します。スロット番号は 1～2、ポート番号は 1～48 です。 • port-channel port-channel-no : バックアップ ポート チャネル インターフェイスを指定します。 port-channel-no の番号は 1 ～ 4096 です。 • multicast : マルチキャスト パラメータを指定します。 • fast-convergence : バックアップ インターフェイスの高速コンバージェンスを設定します。
ステップ 5	(任意) end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	(任意) show interface switchport backup	設定を確認します。
ステップ 7	(任意) copy running-config startup config	スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

例

次の例は、イーサネット スイッチポート バックアップのペア（イーサネット 1/1 がアクティブなインターフェイスであり、イーサネット 1/2 がバックアップ インターフェイスである）を設定する方法を示しています。

```

switch(config)# feature flexlink
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport backup interface ethernet 1/2
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface port-channel300
switch(config-if)# switchport backup interface port-channel301
switch(config-if)# show ip igmp snooping mrouter
Type: S - Static, D - Dynamic, V - vPC Peer Link,
      I - Internal, C - Co-learned, U - User Configured
Vlan  Router-port  Type      Uptime      Expires
200   Po300        D         13:13:47    00:03:15
200   Po301        DC        13:13:47    00:03:15

```

次の例は、マルチキャスト高速コンバージェンスを使用した、ポートチャネルスイッチポートバックアップのペアを設定する方法を示しています。

```

switch(config)# interface port-channel10
switch(config-if)# switchport backup interface port-channel20 multicast fast-convergence

```

次の例は、Flex Link インターフェイス（po305 と po306）のマルチキャストコンバージェンスの例を示します。po305 で一般クエリーを受信すると、mrouter ポートと po306 が相互学習されます。

```

switch(config)# interface po305
Switch(config-if)# switchport backup interface po306
switch# show ip igmp snooping mrouter
Type: S - Static, D - Dynamic, V - vPC Peer Link, I - Internal, C - Co-learned
Vlan  Router-port  Type      Uptime      Expires
4     Po300        D         00:00:12    00:04:50
4     Po301        DC        00:00:12    00:04:50

```

Flex Link プリエンプションの設定

Flex Links ペア（アクティブリンクおよびバックアップリンク）のプリエンプションスキームを設定します。

始める前に

これらは、この機能のガイドラインおよび制限事項です。（[ガイドラインと制約事項](#)を参照してください。）

Flex Link の定義および有効化([Flex Link の設定](#)を参照してください。)

割り当てるポートがある場合、プリエンプションモードの内容を決めてください。（[プリエンプション](#)を参照してください。）

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface ethernet slot/port**
3. **switchport backup interface ethernet slot/port**
4. **switchport backup interface ethernet slot / port preemption mode {forced | bandwidth | off}**
5. **switchport backup interface ethernet slot / port preemption delay delay-time**
6. （任意） **end**
7. （任意） **show interface switchport backup**

8. (任意) copy running-config startup config

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface ethernet slot/port	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。インターフェイスは物理レイヤ 2 インターフェイスまたはポートチャネル（論理インターフェイス）に設定できます。
ステップ 3	switchport backup interface ethernet slot/port	物理レイヤ 2 インターフェイス（またはポートチャネル）を、インターフェイスを装備した Flex Link ペアの一部として設定します。1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、もう一方のインターフェイスはスタンバイ モードです。
ステップ 4	switchport backup interface ethernet slot / port preemption mode {forced bandwidth off}	物理レイヤ 2 インターフェイス（イーサネットまたはポートチャネル）を、Flex Link ペアの一部として設定します。1 つのリンクがトラフィックを転送している場合、もう一方のインターフェイスはスタンバイ モードです。 • preemption : バックアップ インターフェイス ペアのプリエンプションスキームを設定します。 • mode : プリエンプションモードを指定します。 Flex Link インター ペアのプリエンプション メカニズムとプリエンプション遅延を設定します。次のプリエンプションモードを設定することができます。 • forced : アクティブインターフェイスが常にバックアップインターフェイスより先に使用されます。 • bandwidth : より大きい帯域幅のインターフェイスが常にアクティブインターフェイスとして動作します。 • off : アクティブからバックアップへのプリエンプションは発生しません。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 帯域幅プリエンブションモードの間、帯域幅の変更のみが考慮されます。速度の変更は無視されます。
ステップ 5	switchport backup interface ethernet slot / port preemption delay delay-time	ポートが他のポートより先に使用されるまでの遅延時間を設定します。delay-time の範囲は 1 ～ 300 秒です。デフォルトのプリエンブション遅延は 35 秒です。 (注) 遅延時間の設定は、forced モードおよび bandwidth モードでのみ有効です。
ステップ 6	(任意) end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	(任意) show interface switchport backup	設定を確認します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup config	スイッチのスタートアップコンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

例

次に、プリエンブションモードを強制に設定し、遅延時間を 50 に設定し、設定を確認する方法の例を示します。

```
switch(config)# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/48
switch(config-if)# switchport backup interface ethernet 1/4 preemption mode forced
switch(config-if)# switchport backup interface ethernet 1/4 preemption delay 50
switch(config-if)# end
switch# show interface switchport backup detail
```

Switch Backup Interface Pairs:

```
Active Interface      Backup Interface      State
-----
Ethernet1/48         Ethernet1/4           Active Down/Backup Down
  Preemption Mode    : forced
  Preemption Delay   : 50 seconds
  Multicast Fast Convergence : Off
  Bandwidth          : 10000000 Kbit (Ethernet1/48), 10000000 Kbit (Ethernet1/4)
```

設定の確認

コマンド	目的
show interface switchport backup	すべてのスイッチ ポート Flex Link インターフェイスに関する情報を表示します。
show interface switchport backup detail	すべてのスイッチ ポート Flex Link インターフェイスの詳細情報を表示します。
show running-config backup show startup-config backup	バックアップインターフェイスの実行コンフィギュレーションファイルまたはスタートアップコンフィギュレーションを表示します。
show running-config flexlink show startup-config flexlink	Flex Link インターフェイスの実行コンフィギュレーションファイルまたはスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

次の例は、Flex Link ペアのサマリー設定を示します。

```
9k-203-Pip(config)# show interface switchport backup
```

```
Switch Backup Interface Pairs:
```

```
Active Interface Backup Interface State
```

```
-----
Ethernet1/9 port-channel103 Active Standby/Backup Up
Ethernet1/12 Ethernet1/13 Active Up/Backup Standby
Ethernet1/21 port-channel203 Active Up/Backup Standby
Ethernet1/24 Ethernet1/25 Active Up/Backup Standby
port-channel301 port-channel302 Active Down/Backup Up
```

```
k-203-Pip(config)# show interface switchport backup detail
```

```
Switch Backup Interface Pairs:
```

```
Active Interface Backup Interface State
```

```
-----
Ethernet1/9 port-channel103 Active Standby/Backup Up
Preemption Mode : bandwidth
Preemption Delay : 1 seconds
Multicast Fast Convergence : On
Bandwidth : 1000000 Kbit (Ethernet1/9), 2000000 Kbit (port-channel103)
```

```
..
```

次の例は、すべてのスイッチ ポート Flex Link インターフェイスに関する情報を示します。

```
switch# show interface switchport backup
```

Switch Backup Interface Pairs:

Active Interface	Backup Interface	State
Ethernet1/1	Ethernet1/2	Active Down/Backup Down
Ethernet1/8	Ethernet1/45	Active Down/Backup Down
Ethernet1/48	Ethernet1/4	Active Down/Backup Down
port-channel10	port-channel20	Active Down/Backup Up
port-channel300	port-channel301	Active Down/Backup Down

次の例は、すべてのスイッチ ポート Flex Link インターフェイスの詳細を示します。

```
switch# show interface switchport backup detail
```

Switch Backup Interface Pairs:

Active Interface	Backup Interface	State
Ethernet1/1	Ethernet1/2	Active Down/Backup Down
Preemption Mode : off		
Multicast Fast Convergence : Off		
Bandwidth : 10000000 Kbit (Ethernet1/1), 10000000 Kbit (Ethernet1/2)		
Ethernet1/8	Ethernet1/45	Active Down/Backup Down
Preemption Mode : forced		
Preemption Delay : 10 seconds		
Multicast Fast Convergence : Off		
Bandwidth : 10000000 Kbit (Ethernet1/8), 10000000 Kbit (Ethernet1/45)		
Ethernet1/48	Ethernet1/4	Active Down/Backup Down
Preemption Mode : forced		
Preemption Delay : 50 seconds		
Multicast Fast Convergence : Off		
Bandwidth : 10000000 Kbit (Ethernet1/48), 10000000 Kbit (Ethernet1/4)		
port-channel10	port-channel20	Active Down/Backup Up
Preemption Mode : forced		
Preemption Delay : 10 seconds		
Multicast Fast Convergence : Off		
Bandwidth : 100000 Kbit (port-channel10), 10000000 Kbit (port-channel20)		
port-channel300	port-channel301	Active Down/Backup Down
Preemption Mode : off		
Multicast Fast Convergence : Off		
Bandwidth : 100000 Kbit (port-channel300), 100000 Kbit (port-channel301)		

次の例は、バックアップ インターフェイスの実行コンフィギュレーションを示します。

```
switch# show running-config backup
```

```
!Command: show running-config backup
!Time: Sun Mar  2 03:05:17 2014
```

```
version 6.0(2)A3(1)
feature flexlink
```

```
interface port-channel10
  switchport backup interface port-channel20 preemption mode forced
  switchport backup interface port-channel20 preemption delay 10
```

```
interface port-channel300
```

```

switchport backup interface port-channel301

interface Ethernet1/1
  switchport backup interface Ethernet1/2

interface Ethernet1/8
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt delay 10

interface Ethernet1/48
  switchport backup interface Ethernet1/4 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/4 preempt delay 50

```

次の例は、バックアップインターフェイスのスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

```

switch# show startup-config backup

!Command: show startup-config backup
!Time: Sun Mar  2 03:05:35 2014
!Startup config saved at: Sun Mar  2 02:54:58 2014

version 6.0(2)A3(1)
feature flexlink

interface port-channel10
  switchport backup interface port-channel20 preempt mode forced
  switchport backup interface port-channel20 preempt delay 10

interface Ethernet1/8
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt delay 10

```

次の例は、バックアップインターフェイスのスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

```

switch# show startup-config backup

!Command: show startup-config backup
!Time: Sun Mar  2 03:05:35 2014
!Startup config saved at: Sun Mar  2 02:54:58 2014

version 6.0(2)A3(1)
feature flexlink

interface port-channel10
  switchport backup interface port-channel20 preempt mode forced
  switchport backup interface port-channel20 preempt delay 10

interface Ethernet1/8
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt delay 10

```

次の例は、Flex Link の実行コンフィギュレーションを示しています。

```

switch# show running-config flexlink

!Command: show running-config flexlink
!Time: Sun Mar  2 03:11:49 2014

version 6.0(2)A3(1)
feature flexlink

```

```
interface port-channel10
  switchport backup interface port-channel20 preempt mode forced

interface port-channel300
  switchport backup interface port-channel301

interface port-channel305
  switchport backup interface port-channel306

interface Ethernet1/1
  switchport backup interface Ethernet1/2

interface Ethernet1/8
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt delay 10

interface Ethernet1/48
  switchport backup interface Ethernet1/4 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/4 preempt delay 50
```

次の例は、Flex Link のスタートアップ コンフィギュレーションを示しています。

```
switch# show startup-config flexlink

!Command: show startup-config flexlink
!Time: Sun Mar  2 03:06:00 2014
!Startup config saved at: Sun Mar  2 02:54:58 2014

version 6.0(2)A3(1)
feature flexlink

interface port-channel10
  switchport backup interface port-channel20 preempt mode forced
  switchport backup interface port-channel20 preempt delay 10

interface Ethernet1/8
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt mode forced
  switchport backup interface Ethernet1/45 preempt delay 10
```



(注) を使用する前に、すべてのFlexLinkペアの設定を無効にする必要があります。 **no feature flexlink**

確認するために、次のように実行すると確認メッセージが表示されます。 **no feature flexlink**

```
"WARNING!!! Please remove all flexlink configuration before disabling feature flexlink.
```

```
Failure to do so may put ports in inconsistent state. Do you want to proceed? Y/N :"
```

このメッセージは、DMEがシステムで有効になっている場合にのみ表示されます。

ユーザがこのコマンドを続行することを選択した場合、フレックスリンクピア設定は実行コンフィギュレーションに残ります。

これにより、FlexLink設定の一部であるポートでシステムの不整合が発生する可能性があります。

システムが不整合状態になると、ユーザはシステムを回復する必要があります。

回復するには、コマンドを使用して再設定し、コマンドを使用して各インターフェイスペアの設定を削除する必要があります。 **feature flexlinkno switchport backup interface Ethernet x/y**

すべてのペア設定が削除されると、ユーザは実行できます。 **no feature flexlink**



第 5 章

VLAN の設定

- [VLAN について, on page 43](#)
- [VLAN 設定の前提条件, on page 48](#)
- [VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項 \(48 ページ\)](#)
- [VLAN のデフォルト設定, on page 49](#)
- [VLAN の設定, on page 50](#)
- [VLAN の設定の確認, on page 60](#)
- [VLAN 統計情報の表示とクリア, on page 60](#)
- [VLAN の設定例, on page 60](#)
- [VLAN に関する追加情報, on page 61](#)

VLAN について

VLAN を使用すると、ネットワークを、レイヤ 2 レベルの個別の論理領域として分割できます。VLAN はブロードキャスト ドメインと見なすこともできます。

どのようなスイッチポートでも VLAN に属することができ、ユニキャスト、ブロードキャスト、マルチキャストのパケットは、その VLAN に属する端末だけに転送またはフラッドされます。各 VLAN は論理ネットワークと見なされ、VLAN に属さないステーション宛てのパケットはルータで転送する必要があります。

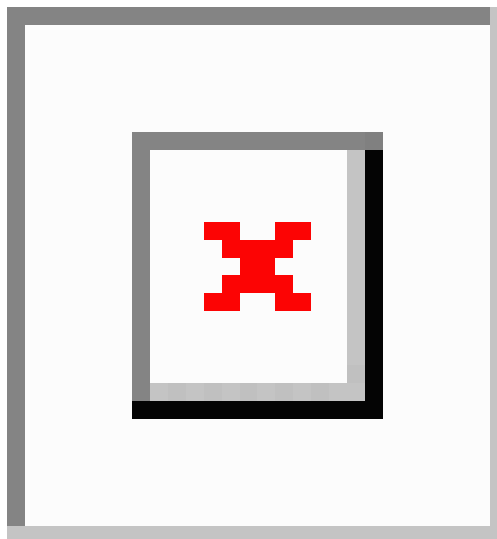
VLAN の概要

VLAN は、ユーザの物理的な場所に関係なく、機能またはアプリケーションによって論理的にセグメント化されるスイッチド ネットワーク内の端末のグループです。VLAN は、物理 LAN と同じ属性をすべて備えていますが、同じ LAN セグメントに物理的に配置されていないエンドステーションもグループ化できます。

どのようなスイッチポートでも VLAN に属することができ、ユニキャスト、ブロードキャスト、マルチキャストのパケットは、その VLAN に属する端末だけに転送またはフラッドされます。各 VLAN は 1 つの論理ネットワークであると見なされます。VLAN に属していないステーション宛てのパケットは、ルータを経由して転送する必要があります。次の図は、論理ネットワークとしての VLAN を図示したものです。エンジニアリング部門のステーション、

マーケティング部門のステーション、および会計部門のステーションはそれぞれ別の VLAN に割り当てられています。

Figure 2: 論理的に定義されたネットワークとしての VLAN



VLAN は通常、IP サブネットワークに関連付けられますたとえば、特定の IP サブネットに含まれるエンドステーションはすべて同じ VLAN に属します。VLAN 間で通信するには、トラフィックをルーティングする必要があります。

デフォルトでは、新規に作成された VLAN は動作可能です。つまり、新規に作成された VLAN は、非シャットダウンの状態になります。また、トラフィックを通過させるアクティブステート、またはパケットを通過させない一時停止ステートに、VLAN を設定することもできます。デフォルトでは、VLAN はアクティブステートでトラフィックを通過させます。

VLAN インターフェイスまたはスイッチ仮想インターフェイス (SVI) は、VLAN 間の通信用として作成されるレイヤ 3 インターフェイスです。VLAN 間でトラフィックをルーティングするには、各 VLAN に VLAN インターフェイスを作成して、設定する必要があります。各 VLAN に必要な VLAN インターフェイスは、1 つだけです。

VLAN の範囲



Note Cisco Nexus 9000 デバイスでは、拡張システム ID が常に自動的にイネーブルになります。

このデバイスは IEEE 802.1Q 標準に従って、最大 4095 の VLAN をサポートします。これらの VLAN は、ソフトウェアによっていくつかの範囲に分割され、範囲によって用途が少しずつ異なります。

設定の制限については、ご使用のスイッチの検証済みの拡張性の制限に関するマニュアルを参照してください。

この表では、VLAN 範囲について説明します。

Table 3: VLAN の範囲

VLAN の番号	数の範囲	使用法
1	標準	シスコのデフォルトです。この VLAN は使用できますが、変更と削除はできません。
2 ～ 1005	標準	これらの VLAN は作成、使用、変更、および削除ができます。
1006 ～ 3967	拡張	これらの VLAN は作成、命名、使用ができます。以下のパラメータは変更できません。 • ステートは必ず、アクティブです。 • VLAN は常にイネーブルです。これらの VLAN はシャットダウンできません。
3968 ～ 4095	内部割り当て	これらの予約 VLAN は、内部デバイスによる使用のために割り当てられています。



Note

システムは降順で入力された範囲を受け入れますが、シスコでは昇順で範囲を入力することを推奨します。

たとえば、VLAN の範囲を 1602 ～ 1607 から削除する場合、1602 ～ 1607 として値を入力することを推奨します。1607 ～ 1602 は可能ですが、推奨しません。誤って範囲を 1602 ～ 7 として入力すると、1602 ～ 1607 ではなく、7 ～ 1602 の VLAN が削除されます。

予約済み VLAN について

予約済み VLAN (3968～4095) に関する注意事項を次に示します。

- このソフトウェアは、内部 VLAN の使用を必要とするマルチキャストや診断などの機能用に、VLAN 番号のグループを割り当てます。デフォルトでは、このような内部使用のために 128 の予約済み VLAN (3968 ～ 4095) からなるブロックが割り当てられます。
- 予約済み VLAN の範囲は、`system vlan-id` で変更できます。 **vlan reserve** コマンドを使用します。これにより、異なる範囲の VLAN を予約済み VLAN として使用するように設定できます。選択した VLAN は、128 のグループで予約する必要があります。
 - VLAN 3968 ～ 4092 は他の目的で構成できます。
 - VLAN 4093～4095 は常に内部使用のために予約されており、他の目的には使用できません。

次の例を参考にしてください。

```
system vlan 400 reserve
```

VLAN 400-527を予約します。

新しい予約範囲は、実行コンフィギュレーションが保存され、デバイスがリロードされた後に有効になります。

- VLANs 4093 ~ 4095 は常に内部使用に予約されていて、その他の目的に使用できません。

この例では、コマンドの結果、VLAN 400~527が予約され、VLAN 4093~4095も予約されます。

- **no system vlan vlan-id reserve** コマンドは、デバイスのリロード後に、予約済みVLANの範囲をデフォルトの3968~4095の範囲に変更します。
- **show system vlan reserved** コマンドを使用し、コマンドを使用して、現在および将来の予約済みVLAN範囲の範囲を確認します。

VLAN 予約の例

次は、VLAN 予約（イメージのリロードの前後）の設定の例を示します。

```
*****
CONFIGURE NON-DEFAULT RANGE, "COPY R S" AND RELOAD
*****
switch(config)# system vlan 400 reserve
"vlan configuration 400-527" will be deleted automatically.
Vlans, SVIs and sub-interface encaps for vlans 400-527 need to be removed by the user.
Continue anyway? (y/n) [no] y
Note: After switch reload, VLANs 400-527 will be reserved for internal use.
      This requires copy running-config to startup-config before
      switch reload.  Creating VLANs within this range is not allowed.

switch(config)# show system vlan reserved

system current running vlan reservation: 3968-4095

system future running vlan reservation: 400-527

switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%

switch(config)# reload
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y

*****
AFTER RELOAD
*****

switch# show system vlan reserved

system current running vlan reservation: 400-527
```

VLAN の作成、削除、変更



Note デフォルトでは、すべての Cisco Nexus 9396 および Cisco Nexus 93128 ポートはレイヤ 2 ポートです。

デフォルトでは、すべての Cisco Nexus 9504 および Cisco Nexus 9508 ポートはレイヤ 3 ポートです。

VLAN には 1 ～ 3967 の番号が付けられます。スイッチ ポートとして設定したポートはすべて、レイヤ 2 デバイスとしてのスイッチの初回起動時に、デフォルト VLAN に割り当てられます。デフォルト VLAN (VLAN1) はデフォルト値だけを使用し、デフォルト VLAN でアクティビティの作成、削除、一時停止を行うことはできません。

VLAN は、番号を割り当てることによって作成します。作成した VLAN は削除したり、アクティブ ステートから一時停止ステートに移行したりできます。既存の VLAN ID を使用して VLAN を作成しようとする、デバイスで VLAN サブモードが開始されますが、同じ VLAN は再作成されません。

新規に作成した VLAN は、その VLAN にレイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。すべてのポートはデフォルトで VLAN1 に割り当てられます。

VLAN の範囲により、次のパラメータを VLAN 用に設定できます (デフォルト VLAN を除く)。

- VLAN 名
- VLAN ステート
- シャットダウンまたは非シャットダウン

最大 128 文字の VLAN ロング ネームを設定できます。VLAN ロング ネームを設定するには、VTP がトランスペアレント モードである必要があります。



Note VLAN アクセス ポートまたはトランク ポートとしてのポートの設定と、VLAN へのポートの割り当ての詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

特定の VLAN を削除すると、その VLAN に関連するポートは非アクティブになり、トラフィックは流れなくなります。トランク ポートから特定の VLAN を削除すると、その VLAN だけがシャットダウンし、トラフィックは引き続き、トランク ポート経由で他のすべての VLAN 上で転送されます。

ただし、削除した VLAN の VLAN とポートのマッピングはシステム上にすべて存続しているため、その VLAN を再イネーブル化または再作成すると、元のポート設定が自動的にその VLAN に戻されます。VLAN のスタティック MAC アドレスとエージングタイムは、VLAN を再イネーブル化しても復元されません。

**Note**

VLAN コンフィギュレーション サブモードで入力したコマンドはすぐに実行されません。変更を反映するには、VLAN コンフィギュレーション サブモードを終了する必要があります。

VLAN のハイ アベイラビリティ

このソフトウェアでは、コールドリブート時に、VLAN のステートフルおよびステートレスの両方の再起動で、ハイ アベイラビリティがサポートされます。ステートフルな再起動では、最大 3 回の再試行がサポートされます。再起動から 10 秒以内に 4 回以上の再試行を行うと、スーパーバイザ モジュールがリロードされます。

VLAN を使用しているときに、ソフトウェアのアップグレードまたはダウングレードをシームレスに実行できます。

**Note**

ハイ アベイラビリティ機能の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』を参照してください。

VLAN 設定の前提条件

VLAN には次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。
- VLAN を変更するには、その VLAN が作成されている必要があります。

VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項

VLAN 設定時のガイドラインと制限事項は次のとおりです。

- キーワードが付いている **show** コマンドはサポートされていません。 **internal**
- 1 つの VLAN または VLAN 範囲を設定できます。

多数の VLAN を設定する場合は、最初に **vlan** コマンドを使用して VLAN を作成します（たとえば、**vlan 200-300, 303-500**）。VLAN が正常に作成された後、これらの VLAN に順番に名前を付けるか設定します。

- 内部使用のために予約された VLAN グループ内の VLAN は、作成、変更、または削除することはできません。
- VLAN1 は、デフォルト VLAN です。この VLAN の作成、変更、または削除はできません。

- VLAN 1006 ～ 3967 は常にアクティブ ステートなので、常にイネーブルです。これらの VLAN のステートを一時停止またはシャットダウンすることはできません。
- スパニングツリー モードを変更すると、レイヤ 2 VLAN と同じ VLAN ID を共有するレイヤ 3 サブインターフェイス VLAN は、ハードウェアの再プログラミングの結果として発生するマイクロ秒のトラフィック ドロップの影響を受ける可能性があります。
- デフォルトで VLAN 3968 ～ 4095 は内部デバイス用に予約されています。
- Cisco NX-OS リリース 9.2(3) 以降では、VLAN を vn-segments を持つように設定できます。
- Cisco Nexus 9348GC-FX3PH スイッチには、ポート 41 ～ 48 が半二重であることによる機能制限があります。
- Cisco Nexus C93108TC-FX3 スイッチには、ポート 41 ～ 48 が半二重であることによる機能制限があります。
- QOS/ACL/SPANはFEX HIFではサポートされません。
- Cisco NX-OS リリース 9.3(9) 以降、vPC ピアリンク インターフェイスでは PVLAN 構成は許可されません。

VLAN のデフォルト設定

次の表に、VLAN パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 4: VLAN パラメータのデフォルト値

パラメータ	デフォルト
VLAN	有効
VLAN	VLAN1：スイッチポートとして設定したポートは、VLAN1 に割り当てられます。
VLAN ID	1
VLAN 名	• デフォルト VLAN (VLAN1) - default • 他のすべての VLAN : VLAN <i>vlan-id</i>
VLAN ステート	アクティブ
STP	イネーブル : Rapid PVST+ がイネーブル

パラメータ	デフォルト
VTP	ディセーブル
VTP バージョン	1

VLAN の設定



Note VLAN へのレイヤ 2 インターフェイスの割り当て（アクセスまたはトランク ポート）の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。デフォルトでは、すべてのインターフェイスが VLAN1 に割り当てられます。



Note Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能の Cisco NX-OS コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

VLAN の作成と削除（CLI バージョン）

デフォルトの VLAN およびデバイス用に内部的に割り当てられた VLAN 以外は、すべての VLAN を作成または削除できます。

VLAN を作成すると、その VLAN は自動的にアクティブ ステートになります。



Note VLAN を削除すると、その VLAN に関連するポートは非アクティブになります。したがって、廃棄されるトラフィック フローやパケットはありません。トランク ポートの場合、ポートはオープンしたまま、削除した VLAN を除く他のすべての VLAN からのトラフィックが引き続き転送されます。

作成する VLAN の範囲内に作成できない VLAN が含まれていると、作成できない VLAN がリストされたメッセージが戻されますが、指定範囲内の他の VLAN はすべて作成されます。



Note VLAN コンフィギュレーション サブモードで VLAN の作成と削除を行うこともできます。

SUMMARY STEPS

1. `config t`
2. `vlan {vlan-id | vlan-range}`
3. `exit`

4. (Optional) **show vlan**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan {vlan-id vlan-range} Example: <pre>switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#</pre>	VLAN または VLAN の範囲を作成します。割り当て済みの VLAN 番号を入力すると、その VLAN の VLAN コンフィギュレーションサブモードが開始されます。内部的に割り当てられている VLAN に割り当てられている番号を入力すると、エラーメッセージが返されます。VLAN の範囲を入力し、指定 VLAN の 1 つ以上が、内部的に割り当てられた VLAN の範囲外である場合、コマンドは範囲外の VLAN だけで有効になります。指定できる範囲は 2 ～ 3967 です。VLAN1 はデフォルト VLAN であり、作成や削除はできません。内部使用のために予約されている VLAN の作成や削除はできません。VLAN 範囲の詳細については、 VLAN の範囲 , on page 44 を参照してください。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config-vlan)# exit switch(config)#</pre>	VLAN モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show vlan Example: <pre>switch# show vlan</pre>	VLAN の情報およびステータスを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、15 ～ 20 の範囲で VLAN を作成する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# vlan 15-20
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

VLAN コンフィギュレーション サブモードの開始

VLAN の次のパラメータの設定または変更を行うには、VLAN コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

- 名前
- ステータス
- シャットダウン

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **vlan {vlan-id | vlan-range}**
3. **exit**
4. (Optional) **show vlan**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan {vlan-id vlan-range} Example: <pre>switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#</pre>	VLAN 設定サブモードにします。このサブモードでは、VLAN または VLAN 範囲に対して、名前の指定、ステータスの設定、ディセーブル化、およびシャットダウンを実行できます。 VLAN1 または内部的に割り当てられた VLAN に対しては、これらの値を変更できません。VLAN 範囲に関する詳細は、VLAN の範囲, on page 44 を参照してください。
ステップ 3	exit Example:	VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	switch(config-vlan)# exit switch(config)#	
ステップ 4	(Optional) show vlan Example: switch# show vlan	VLAN の情報およびステータスを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、VLAN コンフィギュレーション サブモードを開始して、終了する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# vlan 15
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

VLAN の設定

VLAN の次のパラメータの設定または変更を行うには、VLAN コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

- 名前
- ステータス
- シャットダウン



Note デフォルト VLAN または内部的に割り当てられた VLAN の作成、削除、変更はできません。また、一部の VLAN では変更できないパラメータがあります。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **vlan {vlan-id | vlan-range}**
3. **name vlan-name**
4. **state {active | suspend}**
5. **no shutdown**
6. **exit**
7. (Optional) **show vlan**

8. (Optional) **show vtp status**
9. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan {vlan-id vlan-range} Example: <pre>switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#</pre>	VLAN 設定サブモードにします。既存の VLAN ではない場合、指定した VLAN が作成され、VLAN コンフィギュレーション サブモードが開始されます。VLAN 範囲の詳細については、 VLAN の範囲, on page 44 を参照してください。
ステップ 3	name vlan-name Example: <pre>switch(config-vlan)# name accounting</pre>	VLAN に名前を付けます。32 文字までの英数字を入力して VLAN に名前を付けることができます。VLAN1 または内部的に割り当てられている VLAN の名前は変更できません。デフォルト値は VLANxxxx であり、xxxx は、VLAN ID 番号と等しい 4 桁の数字（先行ゼロも含む）を表します。 Note 128 文字の名前がサポートされます（VLAN ロングネーム）。
ステップ 4	state {active suspend} Example: <pre>switch(config-vlan)# state active</pre>	VLAN のステート（アクティブまたは一時停止）を設定します。VLAN ステートを一時停止にすると、その VLAN に関連付けられたポートが非アクティブになり、VLAN のトラフィック転送が停止します。デフォルト ステートは active です。デフォルト VLAN および VLAN 1006 ~ 3967 のステートを一時停止にすることはできません。
ステップ 5	no shutdown Example: <pre>switch(config-vlan)# no shutdown</pre>	VLAN をイネーブルにします。デフォルト値は no shutdown（イネーブル）です。デフォルト VLAN の VLAN1、または VLAN 1006 ~ 3967 はシャットダウンできません。
ステップ 6	exit Example: <pre>switch(config-vlan)# exit switch(config)#</pre>	VLAN コンフィギュレーションサブモードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	(Optional) show vlan Example: switch# show vlan	VLAN の情報およびステータスを表示します。
ステップ 8	(Optional) show vtp status Example: switch# show vtp status	VLAN トランキンングプロトコル (VTP) の情報およびステータスを表示します。
ステップ 9	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。 Note VLAN コンフィギュレーション サブモードで入力したコマンドはすぐに実行されません。変更を反映するには、VLAN コンフィギュレーションサブモードを終了する必要があります。

Example

次の例は、VLAN 5 のオプション パラメータを設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# name accounting
switch(config-vlan)# state active
switch(config-vlan)# no shutdown
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

VLAN 作成前の VLAN 設定

VLAN を作成する前に、VLAN を設定できます。この手順は、IGMP スヌーピング、VTP、および他の設定に使用されます。



(注) **show vlan** コマンドでは、**vlan** コマンドを使用してそれを作成しない限り、これらの VLAN は表示されません。

手順の概要

1. **config t**
2. **vlan configuration {vlan-id}**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan configuration {vlan-id} 例 : <pre>switch(config)# vlan configuration 20 switch(config-vlan-config)#</pre>	実際にこれらを作成しないで VLAN を設定できるようにします。

例

次に、これを作成する前に VLAN を設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# vlan configuration 20
switch(config-vlan-config)#
```

VLAN の長い名前のイネーブル化

最大 128 文字の VLAN ロング ネームを設定できます。



(注) タイミング (When) **system vlan long-name** Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチは VTP オフ モードで起動します。

VTP トランスペアレント モードの有効化:

1. VTP の無効化
2. 削除 **system vlan long-name** from the start-up configuration
3. VTP の再有効化

始める前に

VTP はトランスペアレントまたはオフ モードである必要があります。VTP は、クライアントまたはサーバ モードにすることはできません。VTP の詳細については、「[VTP の構成](#)」を参照してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **system vlan long-name**
3. (任意) **copy running-config startup-config**
4. **show running-config vlan**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	system vlan long-name 例 : <pre>switch(config)# system vlan long-name</pre>	128 文字までの VLAN 名をイネーブルにできます。 この機能をディセーブルにするには、このコマンドの no 形式を使用します。
ステップ 3	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。
ステップ 4	show running-config vlan 例 : <pre>switch(config)# show running-config vlan</pre>	システム VLAN のロング ネーム機能がイネーブルであることを確認します。

例

次に、VLAN ロング ネームをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system vlan long-name
switch(config)# copy running config startup config
switch(config)# show running-config vlan
```

トランク ポートでの内部 VLAN および外部 VLAN マッピングの設定

内部 VLAN および外部 VLAN からポートのローカル（変換先）VLAN への VLAN 変換を設定できます。

内部 VLAN および外部 VLAN マッピングに関する注意点

- VLAN 変換（マッピング）は、ネットワーク フォワーディング エンジン（NFE）を搭載した Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされます。、VLAN 変換は Cisco Nexus 9300-EX スイッチでサポートされます。
- 内部および外部 VLAN は、これらが設定されているポートのトランク許可リストに含めることはできません。

次に例を示します。

```
switchport vlan mapping 11 inner 12 111
switchport trunk allowed vlan 11-12,111 /**Not valid because 11 is outer VLAN and
12 is inner VLAN.***/
```

- 同じポート上で、2 つのマッピング（変換）設定に、同じ内容の外部（あるいはオリジナル）VLAN もしくは変換先 VLAN を含めることはできません。複数の内部 VLAN および外部 VLAN のマッピング設定については、同じ内部 VLAN を含めることができます。

次に例を示します。

```
switchport vlan mapping 101 inner 102 1001
switchport vlan mapping 101 inner 103 1002 /**Not valid because 101 is already
used as an original VLAN.***/
switchport vlan mapping 111 inner 104 1001 /**Not valid because 1001 is already
used as a translated VLAN.***/
switchport vlan mapping 106 inner 102 1003 /**Valid because inner vlan can be the
same.***/
```

- トランク ポートでのポート VLAN マッピングは、Network Forwarding Engine (NFE) 搭載の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ、Cisco Nexus 9200、9300-EX、9300-FX、および EX/FX ライン カード搭載の Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチでサポートされます。
- VLAN 変換は VXLAN 対応 VLAN ではサポートされません。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface type port**
3. **[no] switchport mode trunk**
4. **switchport vlan mapping enable**
5. **switchport vlan mapping outer-vlan-id inner inner-vlan-id translated-vlan-id**
6. （任意） **copy running-config startup-config**
7. （任意） **show interface [if-identifier] vlan mapping**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface <i>type port</i>	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	[no] switchport mode trunk	トランク コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switchport vlan mapping enable	スイッチ ポートでの VLAN 変換をイネーブルにします。VLAN 変換はデフォルトでディセーブルです。 (注) VLAN 変換を無効にするには、このコマンドの no 形式を使用します。
ステップ 5	switchport vlan mapping outer-vlan-id inner inner-vlan-id translated-vlan-id	内部 VLAN および外部 VLAN を他の VLAN に変換します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。 (注) スイッチ ポートが動作するトランク ポートになるまで、VLAN 変換設定は有効になりません。
ステップ 7	(任意) show interface [if-identifier] vlan mapping	インターフェイスの範囲または特定のインターフェイスについて、VLAN マッピング情報を表示します。

例

この例では、ダブル タグ VLAN トラフィック（内部 VLAN 12、外部 VLAN 11）から VLAN 111 への変換を設定する方法を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# switchport vlan mapping enable
switch(config-if)# switchport vlan mapping 11 inner 12 111
switch(config-if)# switchport trunk allowed vlan 101-170
switch(config-if)# no shutdown
```

```
switch(config-if)# show mac address-table dynamic vlan 111
```

Legend:

* - primary entry, G - Gateway MAC, (R) - Routed MAC, O - Overlay MAC
age - seconds since last seen, + - primary entry using vPC Peer-Link,
(T) - True, (F) - False

VLAN	MAC Address	Type	age	Secure	NTFY	Ports
* 111	0000.0092.0001	dynamic	0	F	F	nve1(100.100.100.254)
* 111	0000.0940.0001	dynamic	0	F	F	Eth1/1

VLAN の設定の確認

VLAN の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show running-config vlan <i>vlan-id</i>	VLAN 情報を表示します。
show vlan [all-ports brief id <i>vlan-id</i> name <i>name</i> dot1q tag native]	VLAN 情報を表示します。
show vlan summary	VLAN 情報の要約を表示します。
show vtp status	VTP 情報を表示します。

VLAN 統計情報の表示とクリア

VLAN の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
clear vlan [id <i>vlan-id</i>] counters	すべての VLAN または指定した VLAN のカウンタをクリアします。
show vlan counters	各 VLAN のレイヤ 2 パケット情報を表示します。

VLAN の設定例

次に、VLAN を作成して名前を指定し、ステートをアクティブにして、管理上のアップに設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vlan 10
switch(config-vlan)# name test
switch(config-vlan)# state active
switch(config-vlan)# no shutdown
```

```
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

VLAN に関する追加情報

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
NX-OS レイヤ 2 スイッチングの設定	『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS Layer 2 スイッチング設 定ガイド』
インターフェイス、VLAN インターフェイス、IP アドレス指 定、ポート チャネル	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
マルチキャスト ルーティング	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Multicast Routing Configuration Guide』
NX-OS の基礎	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
高可用性	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

標準

標準	タイト ル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、 既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-VLAN-MEMBERSHIP MIB には、次のものが含まれます。 • vmMembership Table • MIBvmMembershipSummaryTable • MIBvmMembershipSummaryTable	MIBを検索およびダウンロードするには、次の URL にアクセス。 https://cisco.github.io/cisco-mibs/supportlists/nexus9000/Nexus9000MIB



第 6 章

VTP の設定

- [VTP の概要 \(63 ページ\)](#)
- [VTP の設定に関する注意事項および制約事項 \(65 ページ\)](#)
- [デフォルト設定, on page 65](#)
- [VTP の設定, on page 66](#)

VTP の概要

サポートされている VTP は、VTP バージョン 1 および 2 です。



(注) 実際に VLAN を作成せずに VLAN を設定できます。詳細については、[VLAN 作成前の VLAN 設定 \(55 ページ\)](#) を参照してください。

VTP

VTP は、VTP ドメイン内の VLAN の追加、削除、名前変更を管理することで VLAN の一貫性を維持する、レイヤ 2 メッセージング プロトコルです。VTP ドメインは、同じ VTP ドメイン名を共有し、トランク インターフェイスを使用して接続される、1 つ以上のネットワーク装置で構成されます。各ネットワーク装置は、1 つの VTP ドメインだけに属することができます。

レイヤ 2 トランク インターフェイス、レイヤ 2 ポート チャネル、および仮想ポート チャネル (vPC) は、VTP 機能をサポートしています。

VTP は、デフォルトではデバイスでディセーブルになっています。VTP をイネーブルにして設定するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用します。VTP をディセーブルにすると、デバイスで VTP プロトコル パケットが中継されません。



Note VTP は Cisco Nexus 9000 シリーズ デバイスでトランスペアレント モードだけで動作し、デバイス全体に VTP ドメインを拡張できます。

デバイスが VTP トランスペアレント モードの場合、デバイスはトランク ポート上で受信したすべての VTP プロトコル パケットを他のすべてのトランク ポートに中継します。VTP トランスペアレント モードの VLAN を作成または変更するとき、それらの VLAN の変更は、ローカル デバイスだけに影響します。VTP トランスペアレント ネットワーク デバイスは、VLAN 設定をアドバタイズせず、受信したアドバタイズに基づいて同期化することはありません。



Note ネットワークで VTP がサポートされている場合、スイッチの相互接続に使用されるすべてのトランク ポートで VLAN 1 が必要です。これらのポートのいずれかから VLAN 1 をディセーブルにすると、VTP は正常に機能しなくなります。

VTP の概要

VTP は、各ルータまたは LAN デバイスがトランク ポートのフレームでアドバタイズメントを送信することを可能にします。これらのフレームは、すべてのネイバーデバイスで受信できるマルチキャストアドレスに送信されます。これらは通常のブリッジングの手順では転送されません。アドバタイズメントは、送信側デバイスの VTP 管理ドメイン、設定のリビジョン番号、認識している VLAN、既知の各 VLAN の特定のパラメータを示します。これらのアドバタイズメントの検知によって、同じ管理ドメイン内のすべてのデバイスは、送信デバイスで設定されている新しい VLAN について学習します。このプロセスは、管理ドメイン内の 1 台の装置だけに新しい VLAN を作成し、設定できます。またその後、同じ管理ドメイン内の他のすべてのデバイスによって情報が自動的に学習されます。

デバイスが VLAN について学習すると、デバイスはデフォルトでトランク ポートからその VLAN 上のすべてのフレームを受信し、必要に応じて、他のトランク ポートへそれらを転送します。このプロセスは、不要な VLAN のトラフィックがデバイスに送信されるのを防ぎます。

VTP は、Cisco Discovery Protocol (CDP) など他のプロセスで読み取ることができる共有ローカル データベースで、ドメインおよびモードに関する情報をパブリッシュします。

VTP モード

VTP は次のモードでサポートされます。

- **トランスペアレント**：他のすべてのトランク ポートにトランク ポート上で受信したすべての VTP プロトコル パケットを中継することが可能です。VTP トランスペアレント モードの VLAN を作成または変更するとき、それらの VLAN の変更は、ローカル デバイスだけに影響します。VTP トランスペアレント ネットワーク デバイスは、VLAN 設定をアドバタイズせず、受信したアドバタイズに基づいて同期化することはありません。

VTP がトランスペアレント モードの場合、最大 128 文字の VLAN ロング ネームを設定できます。

インターフェイス単位の VTP

VTP では、VTP トラフィックを制御するために、ポート単位で VTP プロトコルをイネーブル、またはディセーブルにすることができます。トランクがスイッチまたはエンドデバイスに接続されている場合、着信 VTP パケットをドロップし、この特定のトランクで VTP アドバタイズメントを防ぎます。デフォルトでは、VTP はすべてのスイッチ ポートでイネーブルになります。

VTP の設定に関する注意事項および制約事項

VTP 設定時の注意事項と制約事項は次のとおりです。

- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- SNMP では、VTP 機能がイネーブルかどうかは `vlanTrunkPortVtpEnabled` オブジェクトによって示されます。`vlanTrunkPortVtpEnabled` オブジェクトのステータスは、**show vtp trunk interface eth a/b** コマンドを使用します。
- VTP アドバタイズメントは、Cisco Nexus ファブリック エクステンダのポートからは送信されません。
- VTP プルーニングは、透過的なデバイスでは実行できません。VTP ドメインに透過的なデバイスがある場合は、VTP プルーニングを無効にする必要があります。ネイバー デバイスで VTP プルーニングが無効になっていない場合、Cisco Nexus デバイスは、Nexus を指すリンクで VLAN がプルーニング/無効になるため、ネイバー デバイスから MAC を学習しません。

デフォルト設定

次の表に、VTP パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 5: デフォルトの VTP パラメータ

パラメータ	デフォルト
VTP	ディセーブル
VTP モード	トランスペアレント
VTP ドメイン	空白
VTP バージョン	1
インターフェイス単位の VTP	有効 (Enabled)

VTP の設定

CiscoNexus 9000 デバイスで VTP を設定できます。



Note

VTP がネットワークのトランスペアレント モードで使用されている場合、スイッチの相互接続に使用されるすべてのトランク ポートで VLAN 1 が必要です。これらのポートのいずれかから VLAN 1 をディセーブルにすると、VTP はトランスペアレント モードで適切に機能しなくなります。



Note

VTP が機能するのは、トランスペアレント モードだけです。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **feature vtp**
3. **vtp domain** *domain-name*
4. **vtp version** {1 | 2}
5. **vtp file** *file-name*
6. **vtp password** *password-value*
7. **exit**
8. (Optional) **show vtp status**
9. (Optional) **show vtp counters**
10. (Optional) **show vtp interface**
11. (Optional) **show vtp password**
12. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	feature vtp Example: <pre>switch(config)# feature vtp switch(config)#</pre>	デバイスの VTP をイネーブルにします。デフォルトでは無効になっています。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	ntp domain <i>domain-name</i> Example: switch(config)# ntp domain accounting	このデバイスを追加する VTP ドメインの名前を指定します。デフォルトは空白です。
ステップ 4	ntp version {1 2} Example: switch(config)# ntp version 2	使用する VTP バージョンを設定します。デフォルトはバージョン 1 です。
ステップ 5	ntp file <i>file-name</i> Example: switch(config)# ntp file vtp.dat	VTP 設定を保存する IFS ファイルシステム ファイルの ASCII ファイル名を指定します。
ステップ 6	ntp password <i>password-value</i> Example: switch(config)# ntp password cisco	VTP 管理ドメイン用のパスワードを指定します。
ステップ 7	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーションサブモードを終了します。
ステップ 8	(Optional) show ntp status Example: switch# show ntp status	バージョン、モード、リビジョン番号など、デバイス上の VTP 設定に関する情報を表示します。
ステップ 9	(Optional) show ntp counters Example: switch# show ntp counters	デバイス上の VTP アドバタイズメントに関する統計情報を表示します。
ステップ 10	(Optional) show ntp interface Example: switch# show ntp interface	VTP-enabled インターフェイスのリストを表示します。
ステップ 11	(Optional) show ntp password Example: switch# show ntp password	管理 VTP ドメイン用のパスワードを表示します。
ステップ 12	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。



第 7 章

NX-OS を使用したプライベート VLAN の設定

- プライベート VLAN について, on page 69
- プライベート VLAN の前提条件, on page 78
- プライベート VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項 (79 ページ)
- プライベート VLAN のデフォルト設定, on page 82
- プライベート VLAN の設定, on page 83
- プライベート VLAN 設定の確認, on page 104
- プライベート VLAN の統計情報の表示とクリア, on page 104
- プライベート VLAN の設定例, on page 104
- プライベート VLAN の追加情報 (CLI バージョン) , on page 105

プライベート VLAN について

Cisco Nexus NX-OS 7.0(3)I1(2) 以降、プライベート VLAN 機能がサポートされています。



Note この機能を設定する前に、プライベート VLAN 機能をイネーブルにする必要があります。



Note レイヤ 2 ポートは、トランク ポート、アクセス ポート、またはプライベート VLAN ポートとして機能します。

同様のシステム間で直接通信する必要がない特定の状況では、プライベート VLAN により、レイヤ 2 レベルの保護を強化できます。プライベート VLAN は、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の関連付けです。

プライマリ VLAN は、セカンダリ VLAN を関連付けるブロードキャスト ドメインを定義します。セカンダリ VLAN は、独立 VLAN またはコミュニティ VLAN のいずれかの場合があります。独立 VLAN 上のホストは、プライマリ VLAN 内で関連付けられた無差別ポートとだけ通

信します。コミュニティ VLAN 上のホストは、同じコミュニティ VLAN 上のホスト間および関連付けられた無差別ポートとだけ通信し、独立ポートまたは他のコミュニティ VLAN 内のポートとは通信しません。

統合スイッチングおよびルーティング機能を使用するコンフィギュレーションでは、各プライベート VLAN に単一のレイヤ 3 VLAN ネットワーク インターフェイスを割り当てることにより、ルーティングを提供できます。VLAN ネットワーク インターフェイスは、プライマリ VLAN 用に作成します。このようなコンフィギュレーションでは、セカンダリ VLAN はすべて、プライマリ VLAN 上の VLAN ネットワーク インターフェイスとのマッピングにより、レイヤ 3 でのみ通信します。セカンダリ VLAN 上の既存の VLAN ネットワーク インターフェイスは、すべてサービス停止状態になります。

プライベート VLAN の概要

デバイスでプライベート VLAN 機能を適用するには、プライベート VLAN をイネーブルにする必要があります。

プライベート VLAN モードで動作しているポートがデバイスに設定されている場合は、プライベート VLAN をディセーブルにすることはできません。



Note 特定の VLAN をプライマリまたはセカンダリのどちらかのプライベート VLAN として設定するには、事前に VLAN を作成しておく必要があります。

プライベート VLAN のプライマリ VLAN とセカンダリ VLAN

プライベート VLAN 機能では、VLAN の使用時にユーザが直面する 2 つの問題に対処できます。

- 各 VDC は、最大 4096 の VLAN をサポートします。各カスタマーに 1 つの VLAN を割り当てると、サービス プロバイダーがサポートできるカスタマー数は制限されます。
- IP ルーティングをイネーブルにするには、各 VLAN にサブネット アドレス空間またはアドレス ブロックを割り当てます。これにより未使用の IP アドレスが無駄になり、IP アドレスの管理に問題が生じます。

プライベート VLAN を使用することにより、スケーラビリティの問題が解決され、IP アドレスの管理が容易になり、カスタマーにレイヤ 2 セキュリティが提供されます。

プライベート VLAN の機能は、VLAN のレイヤ 2 ブロードキャスト ドメインをサブドメインに分割できます。サブドメインは、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN で構成されるプライベート VLAN のペアで表されます。プライベート VLAN ドメインには複数のプライベート VLAN のペアを設定でき、それぞれのペアを各サブドメインに割り当てることができます。プライベート VLAN ドメイン内のすべての VLAN ペアは、同じプライマリ VLAN を共有します。セカンダリ VLAN ID は、各サブドメインの区別に使用されます。



Note プライベート VLAN ドメインには、プライマリ VLAN が 1 つのみ含まれています。

セカンダリ VLAN は、同じプライベート VLAN 内のポートをレイヤ 2 で分離します。プライマリ VLAN 内のセカンダリ VLAN には、次の 2 つのタイプがあります。

- 独立 VLAN : 独立 VLAN 内のポートは、レイヤ 2 レベルでは相互に通信できません。
- コミュニティ VLAN : コミュニティ VLAN 内のポートは相互に通信できますが、レイヤ 2 レベルの他のコミュニティ VLAN 内または独立 VLAN 内のポートとは通信できません。

プライベート VLAN ポート



Note コミュニティプライベート VLAN および独立プライベート VLAN のポートは、いずれも PVLAN ホストポートというラベルが付けられます。PVLAN ホストポートは、関連付けられているセカンダリ VLAN のタイプによって、コミュニティ PVLAN ポートまたは独立 PVLAN ポートのどちらかになります。

プライベート VLAN ポートのタイプは、次のとおりです。

- 無差別ポート : 無差別ポートは、プライマリ VLAN に属します。無差別ポートは、無差別ポートとアソシエートされているセカンダリ VLAN に属し、プライマリ VLAN とアソシエートされている、すべてのインターフェイスと通信でき、この通信可能なインターフェイスには、コミュニティポートと独立ホストポートも含まれます。プライマリ VLAN には、複数の無差別ポートを含めることができます。各無差別ポートには、ポートにアソシエートされている、複数のセカンダリ VLAN を含めることができ、また、セカンダリ VLAN を含めないこともできます。無差別ポートとセカンダリ VLAN が同じプライマリ VLAN にある限り、セカンダリ VLAN は、複数の無差別ポートとアソシエートすることができます。このアソシエーションは、ロードバランシングまたは冗長性のために使用することもできます。セカンダリ VLAN を無差別ポートに関連付けないこともできますが、その場合、セカンダリ VLAN はレイヤ 3 インターフェイスと通信できません。



Note ベストプラクティスとして、プライマリのすべてのセカンダリポートをマッピングして、トラフィックの損失を最小限に抑える必要があります。

- 無差別トランク : 複数のプライマリ VLAN のトラフィックを伝送するように無差別トランクポートを設定できます。プライベート VLAN のプライマリ VLAN およびすべてまたは選択した関連付けられた VLAN を無差別トランクポートにマップします。各プライマリ VLAN と関連付けられた 1 つのセカンダリ VLAN はプライベート VLAN のペアとなります。また、各無差別トランクポートに最大 16 のプライベート VLAN のペアを設定できます。



Note プライマリ プライベート VLAN に加え、標準の VLAN でもプライベート VLAN 無差別トランク ポートでトラフィックが伝送されます。

- 独立ポート：独立ポートは、セカンダリ独立 VLAN に属するホストポートです。このポートは同一プライベート VLAN ドメイン内のその他のポートからレイヤ 2 で完全に分離されていますが、関連付けられた無差別ポートとは通信できます。プライベート VLAN は、無差別ポートからのトラフィックを除き、独立ポート宛のトラフィックをすべてブロックします。独立ポートから受信されたトラフィックは、無差別ポートにだけ転送されます。特定の独立 VLAN に複数の独立ポートを設定し、その独立 VLAN 内で各ポートを他のすべてのポートから完全に分離できます。
- 独立トランクまたはセカンダリ トランク：複数の独立 VLAN のトラフィックを伝送するように独立トランク ポートを設定できます。独立トランク ポートの各セカンダリ VLAN は、別々のプライマリ VLAN に関連付ける必要があります。同じプライマリ VLAN に関連付けられた 2 つのセカンダリ VLAN は、1 つの独立トランク ポートにはできません。各プライマリ VLAN と関連付けられた 1 つのセカンダリ VLAN はプライベート VLAN のペアとなります。また、各独立トランク ポートに最大 16 のプライベート VLAN のペアを設定できます。



Note セカンダリ プライベート VLAN に加え、標準の VLAN でもプライベート VLAN 独立トランク ポートでトラフィックが伝送されます。

- コミュニティ ポート：コミュニティ ポートは、1 つのコミュニティ セカンダリ VLAN に属するホストポートです。コミュニティ ポートは、同じコミュニティ VLAN にある他のポートおよびアソシエートされている無差別ポートと通信します。これらのインターフェイスは、他のコミュニティにある他のすべてのインターフェイスおよびプライベート VLAN ドメイン内のすべての独立ポートから、レイヤ 2 で分離されています。



Note トランクは、無差別、独立、およびコミュニティの各ポート間のトラフィックを伝送する VLAN をサポートできるので、独立ポートとコミュニティポートのトラフィックはトランクインターフェイスを経由してデバイスと送受信されることがあります。

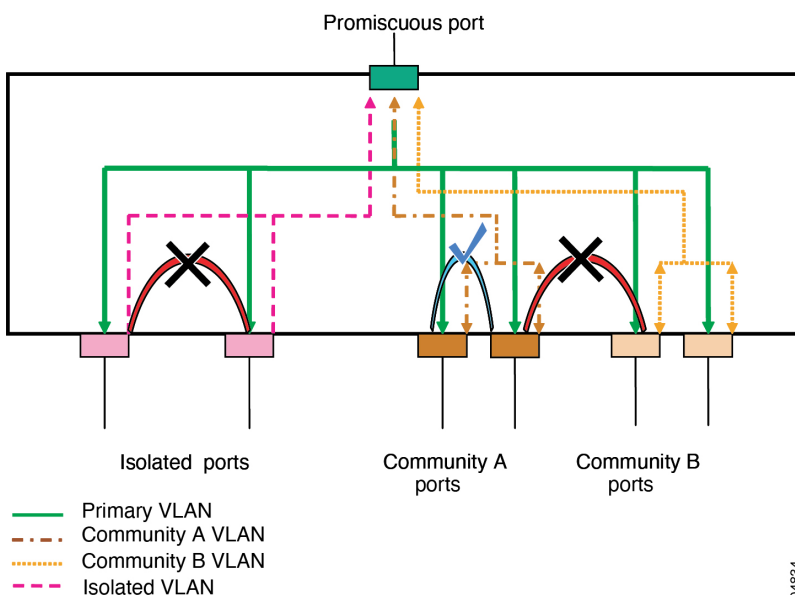
プライマリ、独立、およびコミュニティ プライベート VLAN

プライマリ VLAN にはレイヤ 3 ゲートウェイがあるので、プライベート VLAN の外部と通信するには、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付けます。プライマリ VLAN および 2 種類のセカンダリ VLAN（独立 VLAN およびコミュニティ VLAN）には、次の特性があります。

- **プライマリ VLAN** : プライマリ VLAN は、無差別ポートから（独立およびコミュニティ）ホスト ポートおよび他の無差別ポートへのトラフィックを伝送します。
- **独立 VLAN** : 独立 VLAN は、ホストから無差別ポートおよびレイヤ 3 ゲートウェイへの単方向アップストリーム トラフィックを伝送するセカンダリ VLAN です。プライマリ VLAN には 1 つの独立 VLAN を設定できます。また、各独立 VLAN に複数の独立ポートを設定し、各独立ポートからのトラフィックを完全に分離することもできます。
- **コミュニティ VLAN** : コミュニティ VLAN は、アップストリーム トラフィックをコミュニティポートから無差別ポートゲートウェイおよび同じコミュニティ内の他のホストポートに伝送するセカンダリ VLAN です。プライベート VLAN には、複数のコミュニティ VLAN を設定できます。1 つのコミュニティ内のポートは相互に通信できますが、これらのポートは、他のコミュニティにあるポートとも、プライベート VLAN にある独立 VLAN とも、通信できません。

Figure 3: プライベート VLAN のレイヤ 2 トラフィック フロー

次の図に、プライマリまたはプライベート VLAN 内のレイヤ 2 トラフィック フロー、および VLAN のタイプとポートのタイプを示します。



Note

プライベート VLAN のトラフィック フローは、ホスト ポートから無差別ポートへの単方向です。無差別ポートから出力されるトラフィックは、標準 VLAN 内のトラフィックと同様に処理され、関連付けられたセカンダリ VLAN でトラフィックが分離されることはありません。

無差別ポートは 1 つのプライマリ VLAN の専用ポートになりますが、複数の独立 VLAN および複数のコミュニティ VLAN で使用できます(レイヤ 3 ゲートウェイは、無差別ポートを介してデバイスに接続されます。) 無差別ポートでは、広範囲なデバイスをプライベート VLAN のアクセス ポイントとして接続できます。たとえば、すべてのプライベート VLAN サーバーを

管理ワークステーションから監視したりバックアップしたりするのに、無差別ポートを使用できます。



Note プライベート VLAN の無差別および独立トランク ポートを設定できます。これらの無差別トランク ポートと独立トランク ポートは、標準の VLAN に加え、複数のプライマリおよびセカンダリ VLAN のトラフィックを伝送できます。

プライマリ VLAN には複数の無差別ポートを設定できますが、各プライマリ VLAN に設定できるレイヤ 3 ゲートウェイは 1 つだけです。

スイッチング環境では、個々のエンドステーションに、または共通グループのエンドステーションに、個別のプライベート VLAN や、関連する IP サブネットを割り当てることができます。エンドステーションはデフォルトゲートウェイとの通信を行うだけで、プライベート VLAN の外部と通信することができます。



Note レイヤ 3 ゲートウェイを設定するには、VLAN インターフェイス機能をイネーブルにしておく必要があります。VLAN ネットワーク インターフェイスと IP アドレス設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の関連付け

セカンダリ VLAN 内のホスト ポートでプライベート VLAN 外と通信するには、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付ける必要があります。関連付けが正常に動作していない場合、セカンダリ VLAN のホスト ポート（独立ポートおよびコミュニティ ポート）はダウンステートになります。



Note セカンダリ VLAN は、1 つのプライマリ VLAN のみにアソシエートすることができます。

アソシエーションの操作を可能にするには、次の条件を満たす必要があります。

- プライマリ VLAN が存在する。
- セカンダリ VLAN が存在する。
- プライマリ VLAN がプライマリ VLAN として設定されている。
- セカンダリ VLAN が、独立 VLAN またはコミュニティ VLAN として設定されている。



Note 関連付けが動作していることを確認するには、**show** コマンドの出力を調べます。関連付けが動作していなくても、エラー メッセージは発行されません

プライマリ VLAN またはセカンダリ VLAN を削除すると、その VLAN に関連付けされたポートは非アクティブになります。指定の VLAN をプライベート VLAN モードに再変換すると、元のアソシエーションが復元されます。

関連付けがプライベート VLAN トランク ポートで動作していない場合、ポート全体はダウンせずに、その VLAN だけがダウンします。

no private-vlan コマンドを入力すると、VLAN は通常の VLAN モードに戻ります。その VLAN 上の関連付けはすべて一時停止されますが、インターフェイスはプライベート VLAN モードのままになります。

プライマリ VLAN に対して **no vlan** コマンドを入力すると、その VLAN に関連付けされたすべてのプライベート VLAN は失われます。ただし、セカンダリ VLAN に対して **no vlan** コマンドを入力した場合、その VLAN とプライベート VLAN の関連付けは一時停止します。この VLAN を再作成してセカンダリ VLAN として設定すると元に戻ります。

**Note**

この動作は、Catalyst デバイスの動作と異なります。

**Note**

(**no private-vlan primary** コマンドを発行して) プライマリ VLAN のタイプを通常/ユーザ VLAN に変更すると、そのプライマリ VLAN の下のすべてのアソシエーションが動作不能になります。ただし、同じ VLAN のタイプを通常/ユーザ VLAN からプライマリ VLAN に変更した場合、タイプ変更後にプライマリ VLAN で再設定されない限り、プライマリ VLAN でのアソシエーションは引き続き動作しません。

セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN の関連付けを変更するには、現在の関連付けを削除してから目的の関連付けを追加します。

プライベート VLAN 内のブロードキャストトラフィック

プライベート VLAN にあるポートからのブロードキャストトラフィックは、次のように流れます。

- ブロードキャストトラフィックは、すべての無差別ポートからプライマリ VLAN 内のすべてのポートに流れます。このブロードキャストトラフィックは、プライベート VLAN パラメータで設定されていないポートを含め、プライマリ VLAN 内のすべてのポートに配信されます。
- すべての独立ポートからのブロードキャストトラフィックは、その独立ポートに関連付けられているプライマリ VLAN の無差別ポートにだけ配信されます。
- コミュニティポートからのブロードキャストトラフィックは、そのポートのコミュニティ内のすべてのポート、およびそのコミュニティポートに関連付けられているすべての無差別ポートに配信されます。このブロードキャストパケットは、プライマリ VLAN 内の他のコミュニティまたは独立ポートには配信されません。

プライベート VLAN ポートの分離

プライベート VLAN を使用すると、次のように、エンドステーションへのアクセスを制御できます。

- エンドステーションに接続されているインターフェイスを選択して独立ポートとして設定し、レイヤ2の通信をしないようにします。たとえば、エンドステーションがサーバの場合、この設定によりサーバ間のレイヤ2通信ができなくなります。
- デフォルト ゲートウェイおよび選択したエンドステーション（バックアップ サーバーなど）に接続されているインターフェイスを無差別ポートとして設定し、すべてのエンドステーションがデフォルト ゲートウェイにアクセスできるようにします。

プライベート VLAN および VLAN インターフェイス

レイヤ2 VLAN への VLAN インターフェイスは、スイッチ仮想インターフェイス（SVI）とも呼ばれます。レイヤ3 デバイスは、セカンダリ VLAN ではなく、プライマリ VLAN だけを介してプライベート VLAN と通信します。

VLAN ネットワーク インターフェイスは、プライマリ VLAN だけに対して設定します。セカンダリ VLAN には VLAN インターフェイスを設定しないでください。VLAN がセカンダリ VLAN として設定されている場合、セカンダリ VLAN の VLAN ネットワーク インターフェイスは非アクティブになります。VLAN インターフェイスの設定が正しくない場合、次のような状況になります。

- アクティブな VLAN ネットワーク インターフェイスが設定された VLAN をセカンダリ VLAN として設定しようとする、VLAN インターフェイスをディセーブルにするまでは、設定が許可されません。
- セカンダリ VLAN として設定されている VLAN 上で VLAN ネットワーク インターフェイスを作成してイネーブルにしようとする、その VLAN インターフェイスはディセーブルのままで、システムからエラーが返されます。

プライマリ VLAN がセカンダリ VLAN に関連付けられ、マッピングされている場合、プライマリ VLAN 上のすべての設定がセカンダリ VLAN に伝播されます。たとえば、プライマリ VLAN 上の VLAN ネットワーク インターフェイスに IP サブネットを割り当てると、このサブネットはプライベート VLAN 全体の IP サブネット アドレスになります。



Note VLAN インターフェイスを設定するには、VLAN インターフェイス機能をイネーブルにしておく必要があります。VLAN インターフェイスおよび IP アドレスの設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

複数のデバイスにまたがるプライベート VLAN

複数のデバイスにわたるようにプライベート VLAN を拡張するには、プライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN を、プライベート VLAN をサポートする他のデバイス

にトランッキングします。プライベート VLAN 設定のセキュリティを保持して、プライベート VLAN として設定された VLAN が他の目的に使用されないようにするには、プライベート VLAN ポートが設定されていないデバイスを含め、すべての中間デバイスにプライベート VLAN を設定します。

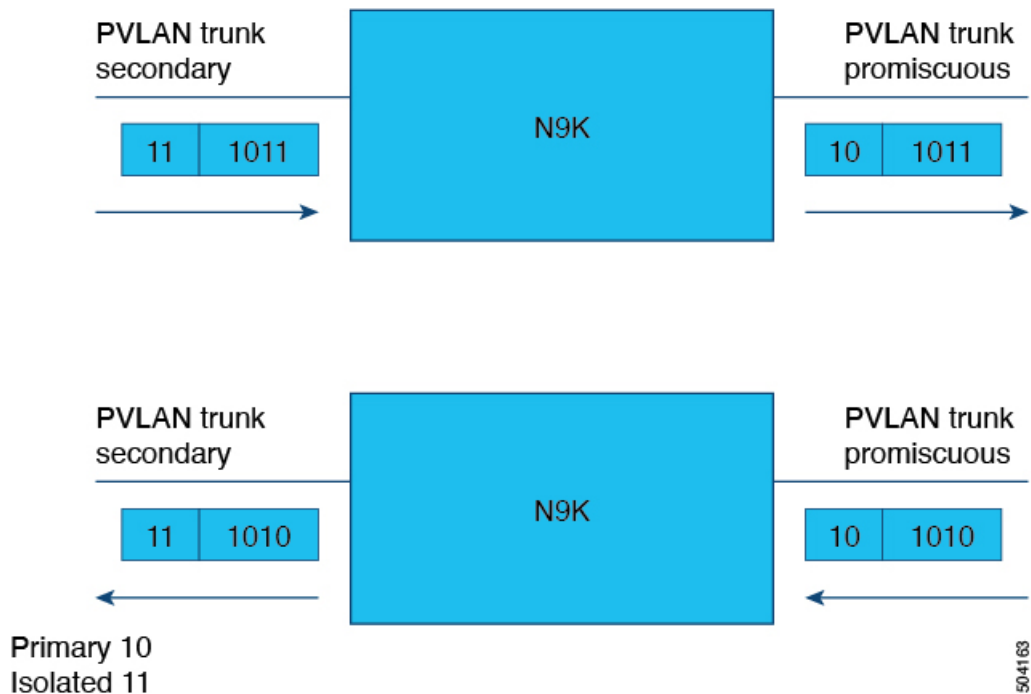
内部 VLAN タグを保持するプライベート VLAN

Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F 以降、グローバル **system dot1q-tunnel transit <vlan>** を構成している場合トランジット ボックスとして機能するサポートされている Cisco Nexus スイッチでコマンドを実行すると、2 つ以上のタグを持つプライベート VLAN トランク ポートに着信するパケットは保持され、内部タグを削除せずに送信されます。このコマンドの詳細については、cisco.com の関連リリースの『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。



(注) PVLAN と QinQ が同じポートで設定されている場合、内部タグの保存は機能しません。

次の図は、パケットが PVLAN セカンダリ トランクから PVLAN 無差別トランクに移動したり、その逆に移動したりするときの、サポートされている Cisco Nexus スイッチでの内部タグの保持を示しています。



サンプル設定を次に示します。

```
vlan 10
private-vlan primary
private-vlan association 11-12
vlan 11
private-vlan isolated
```

```

vlan 12
private-vlan community

interface Ethernet1/1
switchport
switchport mode private-vlan trunk secondary
switchport private-vlan association trunk 10 11
no shutdown

interface Ethernet1/2
switchport
switchport mode private-vlan trunk promiscuous
switchport private-vlan mapping trunk 10 11-12
no shutdown

(config)# system dot1q-tunnel transit vlan 10,11

```

FEXホストインターフェイスポート上のプライベートVLAN

7.0 (3) I2 (1) 以降、Cisco Nexus NX-OSは、Cisco Nexus 2000ファブリックエクステンダのホスト側ポート（FEX HIFポート）でプライベートVLAN（PVLAN）をサポートします。

PVLANは、単一接続ホストおよび単一接続FEX HIF設定でサポートされます。



(注) FEX HIF PC / VPC（ポートチャネル/仮想ポートチャネル）およびFEX AA（アクティブ/アクティブ）設定はサポートされていません。

プライベート VLAN のハイ アベイラビリティ

このソフトウェアは、コールドリブート時に、プライベート VLAN のステートフルおよびステートレスの両方の再起動において、ハイアベイラビリティをサポートしています。ステートフルな再起動では、最大 3 回の再試行がサポートされます。再起動から 10 秒以内に 4 回以上の再試行を行うと、スーパーバイザ モジュールがリロードされます。



Note プライベート VLAN が設定されている場合（7.0 (3) I1 (2) 以前の場合）、Cisco NX-OS の以前のバージョンへのダウングレードはサポートされていません。



Note ハイアベイラビリティ機能、の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』を参照してください。

プライベート VLAN の前提条件

プライベート VLAN には次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。
- プライベート VLAN 機能をイネーブルにする必要があります。

プライベート VLAN の設定に関するガイドラインおよび制約事項

プライベート VLAN 設定時のガイドラインと制約事項 PVLAN は次のとおりです。

- 無差別モードで vPC ポートチャネルの PVLAN マッピングを変更すると、vPC セカンダリの vPC PO メンバーがフラップします。
- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- デバイスで PVLAN 機能を適用できるようにするには、あらかじめ PVLAN をイネーブルにしておく必要があります。
- PVLAN は、これらのスイッチの vPC およびポート チャネルでサポートされています。
 - Cisco Nexus 9200 シリーズ
 - Cisco Nexus 9300、9300-EX、9300-FX、9300-FX2 および 9300-FX3 シリーズ スイッチ
 - Cisco Nexus 9500 シリーズ スイッチ (N9K-X9432C-S 以外のライン カードを搭載したもの)

PVLAN は、これらのスイッチの vPC およびポート チャネルではサポートされません。

- Cisco Nexus 3232C および 3264Q スイッチ
- デバイスでこの機能を適用するには、VLAN インターフェイス機能をイネーブルにする必要があります。
- セカンダリ VLAN を設定する前に、セカンダリ VLAN として設定するすべての VLAN の VLAN ネットワーク インターフェイスをシャットダウンします。
- スタティック MAC が通常の VLAN で作成され、その VLAN がセカンダリ VLAN に変換されると、Cisco NX-OS はセカンダリ VLAN で設定された MAC をスタティック MAC として維持します。
- PVLAN は、次のように PVLAN ポート モードをサポートします。
 - プロミスキヤス
 - 無差別トランク
 - ホストを分離する
 - 独立ホストトランク。
 - コミュニティホスト。

- Cisco NX-OS リリース 9.2(1) 以降、PVLAN は VXLAN をサポートします。
- プライベート VLAN は、ポート チャネルのポート モードをサポートします。
- プライベート VLAN は、仮想ポートチャネル (vPC) インターフェイスのポート モードをサポートを提供します。
- PVLAN無差別トランクまたはPVLAN独立トランクを設定する場合は、IDで指定されたリストで非PVLANを許可することを推奨します。 **switchport private-vlan trunk allowed** コマンドを使用します。PVLANは、PVLANトランクモードに応じてマッピングまたは関連付けられます。



(注) 2 番目のスイッチを無差別または隔離された PVLAN トランクに接続することはできません。PVLAN無差別トランクまたはPVLAN 隔離トランクは、ホストスイッチでのみサポートされます。

- **system private-vlan fex trunk** コマンドは、Cisco Nexus 9300 -FX、-FX2、-FX3 プラットフォーム スイッチでサポートされていません。次の PVLAN モードは、シングルホーム FEX 構成の FEX ポートおよびポート チャネルでのみサポートされます (AA または ST vPC モードではサポートされません)。

- Isolated host
- Community host
- Isolated trunk

これらのモードは、シングルホーム FEX 構成の FEX ポートおよびポート チャネルでのみサポートされます (AA または ST vPC モードではサポートされません)。

- PVLANはPACLおよびRACLをサポートします。
- PVLANは次のようにSVIをサポートします。
 - プライマリ VLAN 上の SVI。
 - SVI の プライマリおよびセカンダリ IP アドレス。
 - プライマリ SVI の HSRP。
- PVLANはレイヤ2転送をサポートします。
- PVLANは次のようにSTPをサポートします。
 - RSTP
 - MST
- PVLANは、通常のトランクポートを介してスイッチ間でサポートされます。
- PVLANは、Cisco Nexus 9396PQおよび93128TXスイッチの10Gポートでサポートされます。

- PVLAN設定は、Cisco Nexus 9300シリーズスイッチのALEポートではサポートされません。
- PVLANポートモードは、Cisco Nexus 3164Qスイッチではサポートされていません。
- Network Forwarding Engine (NFE) では、PVLANはブレイクアウトをサポートしません。
- PVLANは、vPCまたはポートチャネルFEXポートではサポートされません。
- PVLANは、IPマルチキャストまたはIGMPスヌーピングをサポートしません。
- Cisco NX-OSリリース9.3 (5) 以降、PVLANはDHCPスヌーピングをサポートします。
- Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、PVLAN は N9K-C93180YC-FX3S プラットフォーム スイッチでサポートされています。
- Cisco NX-OS リリース 9.3(9) 以降、vPC ピアリンク インターフェイスでは PVLAN 設定は許可されません。
- PVLANはPVLAN QoSをサポートしません。
- PVLANはVACLをサポートしません。
- PVLANはVTPをサポートしません。
- PVLANはトンネルをサポートしません。
- 送信元がPVLAN VLANの場合、PVLANはSPANをサポートしません。
- PVLAN の一部になるように共有インターフェイスを設定できません。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。
- Cisco NX-OS CLIでは、PVLANグループごとに複数の独立VLAN設定を設定できますが、このような設定はサポートされていません。PVLANグループには、最大で1つの独立VLANを設定できます。
- Cisco NX-OS Release 7.0 (3) I5 (1) 以降では、VLANでのPVLANアソシエーションはサポートされていません。
- このコマンドにより、PVLANでのアソシエーションが非アクティブになります。**no private-vlan primary** 後続のコマンドを発行しても、PVLANでのアソシエーションは動作可能になりません。**private-vlan primary** PVLANで再度アソシエーションを適用する必要があります。
- プライベートポートモードを非PVLANポートモードに変更するには、**default interface** コマンドを入力し、インターフェイスで非PVLANポートモードを設定します。
- PVLAN ホスト ポートおよび通常のトランクの MAC アドレス学習は、プライマリ VLANで行われます。通常のトランクの場合、パケットはセカンダリ VLAN を使用して交換されますが、MAC 学習は引き続きプライマリ VLAN で実施されます。
- PVLAN は、N9K-X9636C-R、N9K-X9636Q-R、N9K-X9636C-RX ライン カードを搭載した Cisco Nexus 9500 Series スイッチではサポートされていません。

- Cisco NX-OS リリース 10.1 (2) 以降では、vPC 孤立ポートでの PVLAN と portSec 機能の組み合わせには、ピアとトリガー間での動的な Mac 同期に制限があります。
- Cisco NX-OS Release 10.2(2)F 以降、次の機能が Cisco N9K-9332D-GX2B プラットフォームスイッチでサポートされます。
 - PVLAN および Flex Link
 - VPC
 - 選択的 QinQ
 - マルチプル プロバイダ VLAN を装備した選択的 QinQ
- Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F 以降では、グローバル **system dot1q-tunnel transit** コマンドがトランジットボックスとして機能する Nexus スイッチで設定されている場合、パケットが 2 つ以上のタグで着信すると、内部 VLAN を持つプライベート VLAN タグ保存機能により、PVLAN の内部タグを保存できます。この機能は、EX、FX、FX2、FX3、GX、および GX2B ベースの Cisco Nexus 9000 シリーズ TOR スイッチでのみサポートされています。
- PVLAN と Q-in-Q が同じポートで設定されている場合、内部タグの保存は機能しません。
- Cisco NX-OS リリース 10.3(3)F 以降、IPv6 アンダーレイは、Cisco Nexus 9300-EX/FX/FX2/FX3/GX/GX2 スイッチおよび 9700-EX/FX/GX ラインカードを搭載した Cisco Nexus 9500 スイッチにおいて、VXLAN EVPN の PVLAN でサポートされます。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(2)F 以降では、2 番目のスイッチを無差別トランクポートまたは隔離 PVLAN トランクポートに接続できます。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(2)F 以降、PVLAN は Cisco Nexus C93108TC-FX3 スイッチではサポートされます。

プライベート VLAN のデフォルト設定

次の表に、プライベート VLAN のデフォルト設定を示します。

Table 6: プライベート VLAN のデフォルト設定

パラメータ	デフォルト
プライベート VLAN	無効化

プライベート VLAN の設定

指定した VLAN をプライベート VLAN として割り当てる前に、VLAN を作成しておく必要があります。

VLAN インターフェイスへの IP アドレスの割り当ての詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。



Note Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能の Cisco NX-OS コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

プライベート VLAN のイネーブル化（CLI バージョン）

プライベート VLAN 機能を使用するには、デバイス上でプライベート VLAN をイネーブルにする必要があります。



Note プライベート VLAN コマンドは、プライベート VLAN 機能をイネーブルにするまで表示されません。

SUMMARY STEPS

1. `config t`
2. `feature private-vlan`
3. `exit`
4. (Optional) `copy running-config startup-config`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	feature private-vlan Example: <pre>switch(config)# feature private-vlan switch(config)#</pre>	デバイス上でプライベート VLAN 機能をイネーブルにします。 Note

	Command or Action	Purpose
		no feature private-vlan コマンドを使用してプライベート VLAN 機能をディセーブルにする前に、PVLAN 設定を完全に削除する必要があります。以前のソフトウェアリリースでは、 no feature private-vlan コマンドを適用する前に、すべての PVLAN ポートを動作上ダウン状態にする必要があります。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイス上でプライベート VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature private-vlan
switch(config)#
```

プライベート VLAN としての VLAN の設定 (CLI バージョン)



Note VLAN をセカンダリ VLAN (つまり、コミュニティ VLAN または独立 VLAN のいずれか) として設定する前に、まず VLAN ネットワーク インターフェイスをシャットダウンする必要があります。

VLAN は、プライベート VLAN として設定できます。

プライベート VLAN を作成するには、最初に VLAN を作成して、その VLAN をプライベート VLAN として設定します。

プライベート VLAN 内で、プライマリ VLAN、コミュニティ VLAN、または独立 VLAN として使用するすべての VLAN を作成します。そのあとで、複数の独立 VLAN および複数のコミュニティ VLAN を 1 つのプライマリ VLAN に関連付けます。複数のプライマリ VLAN と関連付けを設定できます。つまり、複数のプライベート VLAN を設定できます。

プライマリ VLAN またはセカンダリ VLAN を削除すると、その VLAN に関連付けされたポートは非アクティブになります。

プライベート VLAN トラック ポート上でセカンダリ VLAN またはプライマリ VLAN のいずれかを削除した場合、その特定の VLAN だけが非アクティブになり、トランク ポートはアップしたままです。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **vlan {vlan-id | vlan-range}**
3. **[no] private-vlan {community | isolated | primary}**
4. **exit**
5. (Optional) **show vlan private-vlan [type]**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan {vlan-id vlan-range} Example: <pre>switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#</pre>	VLAN 設定サブモードにします。
ステップ 3	[no] private-vlan {community isolated primary} Example: <pre>switch(config-vlan)# private-vlan primary</pre>	VLAN を、コミュニティ VLAN、独立 VLAN、またはプライマリ プライベート VLAN として設定します。プライベート VLAN には、1 つのプライマリ VLAN を設定する必要があります。複数のコミュニティ VLAN と独立 VLAN を設定することができます。 または 指定した VLAN からプライベート VLAN の設定を削除し、通常の VLAN モードに戻します。プライマリ VLAN またはセカンダリ VLAN を削除すると、その VLAN に関連付けされたポートは非アクティブになります。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-vlan)# exit switch(config)#</pre>	VLAN コンフィギュレーションサブモードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) show vlan private-vlan [type] Example: switch# show vlan private-vlan	プライベート VLAN の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 5 をプライマリ VLAN としてプライベート VLAN に割り当てる方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# private-vlan primary
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

セカンダリ VLAN とプライマリ プライベート VLAN の関連付け (CLI バージョン)

セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付けるときは、次の注意事項に従ってください。

- **secondary-vlan-list** パラメータには、スペースを含めないでください。カンマで区切った複数の項目を含めることができます。各項目は、単一のセカンダリ VLAN ID、またはセカンダリ VLAN ID をハイフンでつないだ範囲にできます。
- **secondary-vlan-list** パラメータには、複数のコミュニティ VLAN ID と独立 VLAN ID を含めることができます。
- **secondary-vlan-list** を入力するか、**add** キーワード **secondary-vlan-list** を追加して、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の関連付けを行います。
- **remove** を入力します キーワード **secondary-vlan-list** を削除して、セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN との関連付けをクリアします。
- セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN とのアソシエーションを変更するには、既存のアソシエーションを削除し、次に必要なアソシエーションを追加します。

プライマリ VLAN またはセカンダリ VLAN を削除すると、その VLAN に関連付けされたポートは非アクティブになります。

no private-vlan コマンド、VLAN は通常の VLAN モードに戻ります。その VLAN 上の関連付けはすべて一時停止されますが、インターフェイスはプライベート VLAN モードのままになります。

指定の VLAN をプライベート VLAN モードに再変換すると、元のアソシエーションが復元されます。

no vlan コマンドは、プライマリ VLAN に対して、その VLAN に関連付けされているすべてのプライベート VLAN が失われます。ただし、セカンダリ VLAN に対して **no vlan** コマンドを入力した場合、その VLAN とプライベート VLAN の関連付けは一時停止します。この VLAN を再作成して以前のセカンダリ VLAN として設定すると元に戻ります。

Before you begin

プライベート VLAN 機能がイネーブルであることを確認してください。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **vlan primary-vlan-id**
3. **[no] private-vlan association {[add] secondary-vlan-list | remove secondary-vlan-list}**
4. **exit**
5. (Optional) **show vlan private-vlan [type]**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	vlan primary-vlan-id Example: switch(config)# vlan 5 switch(config-vlan)#	プライベート VLAN の設定作業を行うプライマリ VLAN の番号を入力します。
ステップ 3	[no] private-vlan association {[add] secondary-vlan-list remove secondary-vlan-list} Example: switch(config-vlan)# private-vlan association 100-105,109	コマンドの 1 つの形式を使用して、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付けます。 または プライマリ VLAN からすべての関連付けを削除し、通常の VLAN モードに戻します。

プライマリ VLAN の VLAN インターフェイスへのセカンダリ VLAN のマッピング (CLI バージョン)

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-vlan)# exit switch(config)#</pre>	VLAN コンフィギュレーションサブモードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show vlan private-vlan [type] Example: <pre>switch# show vlan private-vlan</pre>	プライベート VLAN の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、コミュニティ VLAN 100 ～ 105 および独立 VLAN 109 をプライマリ VLAN 5 に関連付ける例を示します。

```
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# private-vlan association 100-105, 109
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

プライマリ VLAN の VLAN インターフェイスへのセカンダリ VLAN のマッピング (CLI バージョン)



Note プライベート VLAN のプライマリ VLAN の VLAN インターフェイスへの IP アドレスの割り当ての詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

セカンダリ VLAN を、プライマリ VLAN の VLAN インターフェイスにマッピングします。独立 VLAN およびコミュニティ VLAN は、ともにセカンダリ VLAN と呼ばれます。プライベート VLAN の入力トラフィックをレイヤ 3 で処理するには、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN の VLAN ネットワーク インターフェイスにマッピングします。



Note VLAN ネットワーク インターフェイスを設定する前に、VLAN ネットワーク インターフェイスをイネーブルにする必要があります。プライマリ VLAN に関連付けられたコミュニティ VLAN または独立 VLAN 上の VLAN ネットワーク インターフェイスは、アウトオブサービスになります。稼働するのは、プライマリ VLAN 上の VLAN ネットワーク インターフェイスだけです。

Before you begin

- プライベート VLAN 機能をイネーブルにする。
- VLAN インターフェイス機能をイネーブルにする。
- セカンダリ VLAN のマッピング先となる正しいプライマリ VLAN レイヤ 3 インターフェイスで作業をしていること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface vlan *primary-vlan-ID***
3. **[no] private-vlan mapping {[add] *secondary-vlan-list* | remove *secondary-vlan-list*}**
4. **exit**
5. (Optional) **show interface vlan *primary-vlan-id* private-vlan mapping**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface vlan <i>primary-vlan-ID</i> Example: <pre>switch(config)# interface vlan 5 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN の設定作業を行うプライマリ VLAN の番号を入力します。プライマリ VLAN のインターフェイス コンフィギュレーション モードが開始されます。
ステップ 3	[no] private-vlan mapping {[add] <i>secondary-vlan-list</i> remove <i>secondary-vlan-list</i>} Example: <pre>switch(config-if)# private-vlan mapping 100-105, 109</pre>	セカンダリ VLAN を、プライマリ VLAN の SVI またはレイヤ 3 インターフェイスにマッピングします。これにより、プライベート VLAN 入力トラフィックのレイヤ 3 スイッチングが可能になります。 または セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN 間のレイヤ 3 インターフェイスへのマッピングを消去します。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) show interface vlan primary-vlan-id private-vlan mapping Example: <pre>switch(config)# show interface vlan 101 private-vlan mapping</pre>	インターフェイスのプライベート VLAN 情報を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、セカンダリ VLAN 100 ~ 105 および 109 を、プライマリ VLAN 5 のレイヤ 3 インターフェイスにマッピングする例を示します。

```
switch #config t
switch(config)# interface vlan 5
switch(config-if)# private-vlan mapping 100-105, 109
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN のホスト ポートとして設定できます。プライベート VLAN では、ホスト ポートがセカンダリ VLAN の一部です。セカンダリ VLAN は、コミュニティ VLAN または独立 VLAN のいずれかです。



Note ホスト ポートとして設定されているすべてのインターフェイスで、BPDU ガードをイネーブルにすることを推奨します。

次に、ホスト ポートを、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の両方にアソシエートします。

Before you begin

プライベート VLAN 機能がイネーブルであることを確認してください。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **switchport mode private-vlan host**

4. **[no] switchport private-vlan host-association** {primary-vlan-id} {secondary-vlan-id}
5. **exit**
6. (Optional) **show interface switchport**
7. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 2/1 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN ホスト ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。
ステップ 3	switchport mode private-vlan host Example: <pre>switch(config-if)# switchport mode private-vlan host switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN のホスト ポートとして設定します。
ステップ 4	[no] switchport private-vlan host-association {primary-vlan-id} {secondary-vlan-id} Example: <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 10 50</pre>	レイヤ 2 ホスト ポートを、プライベート VLAN のプライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN に関連付けます。セカンダリ VLAN は、独立 VLAN またはコミュニティ VLAN のいずれかとして設定できます。 または プライベート VLAN のアソシエーションをポートから削除します。
ステップ 5	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(Optional) show interface switchport Example: <pre>switch# show interface switchport</pre>	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 7	(Optional) copy running-config startup-config Example:	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

	Command or Action	Purpose
	switch(config)# copy running-config startup-config	

Example

次に、レイヤ 2 ポート 2/1 をプライベート VLAN のホスト ポートとして設定し、プライマリ VLAN 10 およびセカンダリ VLAN 50 に関連付ける例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 10 50
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

プライベート VLAN 独立トランク ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN 独立トランク ポートとして設定できます。これらの独立トランク ポートは、複数のセカンダリ VLAN と通常の VLAN のトラフィックを伝送します。



(注) プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN は、プライベート VLAN 独立トランク ポート上で動作可能になる前に関連付ける必要があります。

始める前に

プライベート VLAN 機能がイネーブルであることを確認してください。

手順の概要

1. **config t**
2. **interface {type slot/port}**
3. **switchport**
4. **switchport mode private-vlan trunk secondary**
5. (任意) **switchport private-vlan trunk native vlan vlan-id**
6. **switchport private-vlan trunk allowed vlan {add vlan-list | all | except vlan-list | none | remove vlan-list}**
7. **[no] switchport private-vlan association trunk {primary-vlan-id [secondary-vlan-id]}**
8. **exit**
9. (任意) **show interface switchport**
10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface {type slot/port} 例 : <pre>switch(config)# interface ethernet 2/11 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 独立トランク ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。
ステップ 3	switchport 例 : <pre>switch(config-if)# switchport switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートをスイッチ ポートとして設定します。
ステップ 4	switchport mode private-vlan trunk secondary 例 : <pre>switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートを、複数の独立 VLAN のトラフィックを伝送する独立トランク ポートとして設定します。 (注) コミュニティ VLAN は独立トランク ポートにはできません。
ステップ 5	(任意) switchport private-vlan trunk native vlan vlan-id 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 5</pre>	802.1Q トランクのネイティブ VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。デフォルト値は 1 です。 (注) プライベート VLAN を独立トランク ポートのネイティブ VLAN として使用している場合は、セカンダリ VLAN または標準 VLAN の値を入力する必要があります。プライマリ VLAN をネイティブ VLAN として設定することはできません。
ステップ 6	switchport private-vlan trunk allowed vlan {add vlan-list all except vlan-list none remove vlan-list} 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan add 1 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 独立トランク インターフェイスの許容 VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。 プライベート プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN を独立トランク ポートにマッピングすると、すべてのプライマリ VLAN がこのポートの許可される VLAN リストに自動的に追加されます。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) ネイティブ VLAN が許可される VLAN リストに含まれていることを確認します。このコマンドでは、デフォルトでこのインターフェイス上の VLAN が許可されないため、ネイティブ VLAN トラフィックを通過させるには、ネイティブ VLAN を許可される VLAN として設定する必要があります（関連する VLAN として追加済みでない場合）。
ステップ 7	[no] switchport private-vlan association trunk {primary-vlan-id [secondary-vlan-id]} 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 10 101 switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 独立トランク ポートを、プライベート VLAN のプライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN に関連付けます。セカンダリ VLAN は独立 VLAN である必要があります。各独立トランク ポートに対し、最大 16 個のプライベート VLAN のプライマリとセカンダリのペアに関連付けられます。作業中のプライマリ VLAN とセカンダリ VLAN のペアごとに、コマンドを再入力する必要があります。 (注) 独立トランク ポートの各セカンダリ VLAN は、別々のプライマリ VLAN に関連付ける必要があります。同じプライマリ VLAN に関連付けられた 2 つの独立 VLAN を、プライベート VLAN 独立トランク ポートに接続することはできません。これを行った場合、最新のエントリが前のエントリを上書きします。 または プライベート VLAN 独立トランク ポートからプライベート VLAN の関連付けを削除します。
ステップ 8	exit 例 : <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(任意) show interface switchport 例 : <pre>switch# show interface switchport</pre>	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 10	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

例

次に、レイヤ 2 ポート 2/1 を、3 つの異なるプライマリ VLAN と関連セカンダリ VLAN に関連付けられたプライベート VLAN 独立トランク ポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk
switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan add 1
switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 10 101
switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 20 201
switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 30 102
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

プライベート VLAN 無差別ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN の無差別ポートとして設定し、その無差別ポートをプライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN に関連付けることができます。

Before you begin

プライベート VLAN 機能がイネーブルであることを確認してください。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface {type slot/port}**
3. **switchport mode private-vlan promiscuous**
4. **[no] switchport private-vlan mapping {primary-vlan-id} {secondary-vlan-list | add secondary-vlan-list | remove secondary-vlan-list}**
5. **exit**
6. (Optional) **show interface switchport**
7. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	interface {type slot/port} Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 2/1 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 無差別ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。
ステップ 3	switchport mode private-vlan promiscuous Example: <pre>switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous</pre>	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN の無差別ポートとして設定します。
ステップ 4	[no] switchport private-vlan mapping {primary-vlan-id} {secondary-vlan-list add secondary-vlan-list remove secondary-vlan-list} Example: <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 10 50</pre>	レイヤ 2 ポートを無差別ポートとして設定し、このポートをプライマリ VLAN および選択したセカンダリ VLAN のリストに関連付けます。セカンダリ VLAN は、独立 VLAN またはコミュニティ VLAN のいずれかとして設定できます。 または プライベート VLAN から、マッピングをクリアします。
ステップ 5	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(Optional) show interface switchport Example: <pre>switch# show interface switchport</pre>	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 7	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、レイヤ 2 ポート 2/1 を無差別ポートとして設定し、プライマリ VLAN 10 とセカンダリ独立 VLAN 50 に関連付ける例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 10 50
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

プライベート VLAN 無差別トランク ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN の無差別トランク ポートとして設定し、その無差別トランク ポートを複数のプライマリ VLAN に関連付けることができます。これらの無差別トランク ポートは、複数のプライマリ VLAN と通常の VLAN のトラフィックを伝送します。



(注) プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN は、プライベート VLAN 無差別トランク ポート上で動作可能になる前に関連付ける必要があります。

始める前に

プライベート VLAN 機能がイネーブルであることを確認してください。

手順の概要

1. **config t**
2. **interface {type slot/port}**
3. **switchport**
4. **switchport mode private-vlan trunk promiscuous**
5. (任意) **switchport private-vlan trunk native vlan vlan-id**
6. **switchport mode private-vlan trunk allowed vlan {add vlan-list | all | except vlan-list | none | remove vlan-list}**
7. **[no]switchport private-vlan mapping trunk primary-vlan-id [secondary-vlan-id] {add secondary-vlan-list | remove secondary-vlan-id}**
8. **exit**
9. (任意) **show interface switchport**
10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface {type slot/port} 例 :	プライベート VLAN 無差別トランク ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。

プライベート VLAN 無差別トランク ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# interface ethernet 2/1 switch(config-if)#</pre>	
ステップ 3	switchport 例 : <pre>switch(config-if)# switchport switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートをスイッチ ポートとして設定します。
ステップ 4	switchport mode private-vlan trunk promiscuous 例 : <pre>switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートを、複数のプライベート VLAN と通常の VLAN のトラフィックを伝送するための無差別トランク ポートとして設定します。
ステップ 5	(任意) switchport private-vlan trunk native vlan vlan-id 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 5</pre>	802.1Q トランクのネイティブ VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。デフォルト値は 1 です。 (注) プライベート VLAN を無差別トランク ポートのネイティブ VLAN として使用している場合は、プライマリ VLAN または標準 VLAN の値を入力する必要があります。セカンダリ VLAN をネイティブ VLAN として設定することはできません。
ステップ 6	switchport mode private-vlan trunk allowed vlan {add vlan-list all except vlan-list none remove vlan-list} 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan add 1 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 無差別トランク インターフェイスの許可 VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。 プライベート プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN を無差別トランク ポートにマッピングすると、すべてのプライマリ VLAN がこのポートの許可される VLAN リストに自動的に追加されます。 (注) ネイティブ VLAN が許可される VLAN リストに含まれていることを確認します。このコマンドでは、デフォルトでこのインターフェイス上の VLAN が許可されないため、ネイティブ VLAN トラフィックを通過させるには、ネイティブ VLAN を許可される VLAN として設定する必要があります (関連する VLAN として追加済みでない場合)。
ステップ 7	[no]switchport private-vlan mapping trunk primary-vlan-id [secondary-vlan-id] {add secondary-vlan-list remove secondary-vlan-id} 例 :	無差別トランク ポートと、プライマリ VLAN および選択した関連するセカンダリ VLAN のリストをマッピングするかマッピングを削除します。セカンダリ VLAN は、独立 VLAN またはコミュニティ

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 4 5 switch(config-if)#</pre>	VLAN のいずれかとして設定できます。トラフィックを通過させるには、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN の間のプライベート VLAN の関連付けが動作する必要があります。各無差別トランク ポートに対し、最大 16 個のプライベート VLAN のプライマリとセカンダリのペアをマッピングできます。作業しているプライマリ VLAN それぞれに対してコマンドを再入力する必要があります。 または インターフェイスからプライベート VLAN 無差別トランク マッピングを削除します。
ステップ 8	exit 例 : <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(任意) show interface switchport 例 : <pre>switch# show interface switchport</pre>	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 10	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

例

次に、レイヤ 2 ポート 2/1 を、2 つのプライマリ VLAN とそれに関連するセカンダリ VLAN に関連付けられた無差別トランク ポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous
switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan add 1
switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 10 20
switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 11 21
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

FEX トランクでの PVLAN の有効化

デフォルトでは、PVLAN は非 PVLAN FEX トランクでダウンしています。次のグローバル設定では、非 PVLAN FEX トランクで PVLAN を起動できます。



(注) FEX トランク上の PVLAN は、リーフ スパイン エンジン (LSE) を使用する FEX ではサポートされません。

手順の概要

1. [no] system private-vlan fex trunk

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] system private-vlan fex trunk 例 : switch(config)# system private-vlan fex trunk	FEX トランクの PVLAN 設定を有効にします。

プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 FEX インターフェイスの設定

次に、PVLANホストモードとホストアソシエーションPVLANペアを設定します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *type slot/port*
3. **switchport mode private-vlan host**
4. **[no] switchport private-vlan host-association** *{primary-vlan-id} {secondary-vlan-id}*
5. **exit**
6. (Optional) **show interface switchport**
7. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: switch(config)# interface ethernet 110/1/1 switch(config-if)#	プライベート VLAN ホスト ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。
ステップ 3	switchport mode private-vlan host Example: switch(config-if)# switchport mode private-vlan host switch(config-if)#	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN のホスト ポートとして設定します。
ステップ 4	[no] switchport private-vlan host-association {primary-vlan-id} {secondary-vlan-id} Example: switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 10 50	プライマリ VLAN および関連付けられたセカンダリ VLAN のポートでホストアソシエーション PVLAN ペアを設定します。
ステップ 5	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(Optional) show interface switchport Example: switch# show interface switchport	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 7	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

プライベート VLAN 独立トランク ポートとしてのレイヤ 2 FEX インターフェイスの設定

次に、分離トランクポートとホスト関連付け PVLAN ペアを設定します。

手順の概要

1. **config t**
2. **interface** {type slot/port}
3. **switchport**
4. **switchport mode private-vlan trunk secondary**
5. (任意) **switchport private-vlan trunk native vlan** vlan-id
6. **switchport private-vlan trunk allowed vlan** {add vlan-list | all | except vlan-list | none | remove vlan-list}
7. [no] **switchport private-vlan association trunk** {primary-vlan-id [secondary-vlan-id]}
8. **exit**
9. (任意) **show interface switchport**
10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config t 例 : <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface {type slot/port} 例 : <pre>switch(config)# interface ethernet 2/11 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 独立トランク ポートとして設定するレイヤ 2 ポートを選択します。
ステップ 3	switchport 例 : <pre>switch(config-if)# switchport switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートをスイッチ ポートとして設定します。
ステップ 4	switchport mode private-vlan trunk secondary 例 : <pre>switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary switch(config-if)#</pre>	レイヤ 2 ポートを、複数の独立 VLAN のトラフィックを送送する独立トランク ポートとして設定します。 (注) コミュニティ VLAN は独立トランク ポートにはできません。
ステップ 5	(任意) switchport private-vlan trunk native vlan vlan-id 例 :	802.1Q トランクのネイティブ VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。デフォルト値は 1 です。 (注)

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 5</pre>	プライベート VLAN を独立トランク ポートのネイティブ VLAN として使用している場合は、セカンダリ VLAN または標準 VLAN の値を入力する必要があります。プライマリ VLAN をネイティブ VLAN として設定することはできません。
ステップ 6	switchport private-vlan trunk allowed vlan {add vlan-list all except vlan-list none remove vlan-list} 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan add 1 switch(config-if)#</pre>	プライベート VLAN 独立トランク インターフェイスの許容 VLAN を設定します。有効値の範囲は 1 ～ 3968 および 4048 ～ 4093 です。 プライベート プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN を独立トランク ポートにマッピングすると、すべてのプライマリ VLAN がこのポートの許可される VLAN リストに自動的に追加されます。 (注) ネイティブ VLAN が許可される VLAN リストに含まれていることを確認します。このコマンドでは、デフォルトでこのインターフェイス上の VLAN が許可されないため、ネイティブ VLAN トラフィックを通過させるには、ネイティブ VLAN を許可される VLAN として設定する必要があります (関連する VLAN として追加済みでない場合)。
ステップ 7	[no] switchport private-vlan association trunk {primary-vlan-id [secondary-vlan-id]} 例 : <pre>switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 10 101 switch(config-if)#</pre>	プライマリ VLAN 用にポート上に独立トランク PVLAN ペア、および関連付けられたセカンダリ VLAN を設定します。セカンダリ VLAN は独立 VLAN である必要があります。
ステップ 8	exit 例 : <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(任意) show interface switchport 例 : <pre>switch# show interface switchport</pre>	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 10	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

プライベート VLAN 設定の確認

プライベート VLAN の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show running-config vlan <i>vlan-id</i>	VLAN 情報を表示します。
show vlan private-vlan [<i>type</i>]	プライベート VLAN に関する情報を表示します。
show interface private-vlan mapping	プライベート VLAN マッピングのインターフェイスの情報を表示します。
show interface vlan <i>primary-vlan-id</i> private-vlan mapping	プライベート VLAN マッピングのインターフェイスの情報を表示します。
show interface switchport	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。

プライベート VLAN の統計情報の表示とクリア

プライベート VLAN の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
clear vlan [<i>id vlan-id</i>] counters	すべての VLAN または指定した VLAN のカウンタをクリアします。
show vlan counters	各 VLAN のレイヤ 2 パケット情報を表示します。

プライベート VLAN の設定例

次に、3 種類のプライベート VLAN を作成し、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付け、プライベート VLAN のホスト ポートと無差別ポートを作成して適正な VLAN に関連付け、VLAN インターフェイスまたは SVI を作成して、プライマリ VLAN がネットワーク全体と通信できるように設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vlan 2
switch(config-vlan)# private-vlan primary
```

```
switch(config-vlan)# exit
switch(config)# vlan 3
switch(config-vlan)# private-vlan community
switch(config-vlan)# exit
switch(config)# vlan 4
switch(config-vlan)# private-vlan isolated
switch(config-vlan)# exit

switch(config)# vlan 2
switch(config-vlan)# private-vlan association 3,4
switch(config-vlan)# exit

switch(config)# interface ethernet 1/11
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface ethernet 1/12
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
switch(config-if)# exit

switch(config)# interface ethernet 1/11
switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 2 3
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface ethernet 1/12
switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 2 3,4
switch(config-if)# exit

switch(config)# interface vlan 2
switch(config-vlan)# private-vlan mapping 3,4
switch(config-vlan)# exit
switch(config)#
```

プライベート VLAN の追加情報 (CLI バージョン)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
VLAN インターフェイス、IP アドレス指定	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
スタティック MAC アドレス、セキュリティ	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』
Cisco NX-OS の基礎	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
高可用性	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

関連項目	マニュアル タイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』
リリースノート	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Release Notes』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
• CISCO-PRIVATE-VLAN-MIB	詳細については、 ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/nexus9000/Nexus9000MIBSupportList.html を参照してください。



第 8 章

スイッチング モードの設定

- [スイッチング モードに関する情報 \(107 ページ\)](#)
- [スイッチング モードに関するガイドラインと制限事項 \(108 ページ\)](#)
- [スイッチング モードのデフォルト設定 \(108 ページ\)](#)
- [スイッチング モードの設定 \(109 ページ\)](#)

スイッチング モードに関する情報

スイッチング モードは、スイッチがパケット ヘッダーの宛先の詳細を読み取ったらすぐにフレーム転送を開始するか、またはフレーム全体を受信して、巡回冗長検査 (CRC) でエラーをチェックしてからネットワークへのフレーム転送を開始するかを決定します。

スイッチングモードは、ハードウェアを介してスイッチまたはルーティングされるすべてのパケットに適用され、リブートや再起動後も永続的に保存できます。

スイッチは、次のスイッチング モードのいずれかで動作します。

カットスルー スwitchング モード

カットスルー スwitchング モードはデフォルトでイネーブルになっています。カットスルー スwitchング モードで動作するスイッチは、パケット ヘッダーの宛先の詳細を読み取ったらすぐにフレームの転送を開始します。カットスルーモードのスイッチは、フレーム全体の受信を完了する前にデータを転送します。

カットスルー モードのスイッチング速度は、Store-and-Forward スwitchング モードのスイッチング速度より速くなります。

Store-and-Forward スwitchング モード

Store-and-Forward スwitchングがイネーブルの場合、スイッチは各フレームの巡回冗長検査 (CRC) エラーをチェックしてから、ネットワークにフレームを転送します。各フレームは、フレーム全体を受信してチェックされるまで保存されます。

フレーム全体を受信してチェックされるまでフレームの転送は待ち状態になるため、Store-and-Forward スwitchングモードのスイッチング速度は、カットスルー スwitchングモードのスイッチング速度より遅くなります。

スイッチングモードに関するガイドラインと制限事項

各スイッチングモードについて、次のガイドラインおよび制約事項を考慮してください。

カットスルー スwitchングモードに関するガイドラインおよび制約事項

- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- カットスルースイッチでFCSエラーが検出された場合でも、FCSエラーパケットがドロップされないことがあります。出力ポートからのパケット送信がすでに進行中である場合です。すでに出力ポートから送信されたCRCパケットをカットスルースイッチが検出すると、パケットのCRCフィールドがストンプされ、通常は出力インターフェイスで出力エラーとしてマークされます。パケットは、次のストアアンドフォワードネットワークノードでドロップされますが、経路上のすべてのノードもカットスルースイッチングを行っている場合には、接続先に配信されます。
- FCSエラーがあるパケットは、SPANが設定されている場合はミラーリングされません。

Store-and-Forward スwitchングモードに関するガイドラインおよび制約事項

- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- FCSエラーがあるパケットはドロップされます。
- FCSエラーがあるパケットは、SPANが設定されている場合はミラーリングされません。
- CPUポートは、常にStore-and-Forwardモードで動作します。CPUに転送されたFCSエラーがあるパケットはすべてドロップされます。
- Store-and-Forwardモードでは、ポートがオーバーサブスクライブされていて、入力レートが出力ポートのスイッチング容量を超えていることをスイッチが確認するとそのポートが自動的にアクティブになります。たとえば、ポートの入力レートが10ギガビットで、出力ポートのスイッチング容量が1ギガビットの場合です。



(注) グローバルコンフィギュレーションは、Store-and-Forwardモードがオーバーサブスクライブポートに対してアクティブになっていても、変更されません。

スイッチングモードのデフォルト設定

カットスルー スwitchングは、デフォルトでイネーブルになっています。

スイッチングモードの設定

Store-and-Forward スイッチングのイネーブル化



(注) Store-and-Forward スイッチングモードをイネーブルにすると、ポート間のスイッチングの遅延に影響を及ぼすことがあります。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config) # **switching-mode store-forward**
3. (任意) switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # switching-mode store-forward	Store-and-Forward スイッチングモードをイネーブルにします。
ステップ 3	(任意) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、Store-and-Forward スイッチングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # switching-mode store-forward
switch(config) #
```

カットスルー スwitchングの再イネーブル化

カットスルー スwitchングは、デフォルトでイネーブルになっています。カットスルー スwitchングを再イネーブル化するには、**no switching-mode store-forward** 形式で使します。コマンドを使します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config) # **no switching-mode store-forward**
3. (任意) switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # no switching-mode store-forward	Store-and-Forward スwitchング モードをディセーブルにします。カットスルー スwitchング モードをイネーブルにします。
ステップ 3	(任意) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、カットスルー スwitchングを再度イネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no switching-mode store-forward
switch(config) #
```



(注) コマンド **no switching-mode store-forward** は、Cisco Nexus 9800 シリーズ スイッチではサポートされていません。このプラットフォームではカットスルー モードが使用できないためです。



第 9 章

Cisco NX-OS を使用した Rapid PVST+ の設定

- [Rapid PVST+ について, on page 111](#)
- [Rapid PVST+ を設定するための前提条件, on page 130](#)
- [Rapid PVST+ の設定に関するガイドラインおよび制約事項 \(130 ページ\)](#)
- [Rapid PVST+ のデフォルト設定, on page 131](#)
- [Rapid PVST+ の設定, on page 132](#)
- [Rapid PVST+ の設定の確認, on page 150](#)
- [Rapid PVST+ 統計情報の表示およびクリア \(CLI バージョン\) , on page 150](#)
- [Rapid PVST+ の設定例, on page 150](#)
- [Rapid PVST+ の追加情報 \(CLI バージョン\) , on page 151](#)

Rapid PVST+ について



Note レイヤ 2 インターフェイスの作成の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。

スパニングツリープロトコル (STP) は、ネットワークのレイヤ 2 でループのないネットワークを実現するために実装されました。RapidPVST+は、VLAN ごとにスパニングツリートポロジを 1 つ作成することができる、STP の更新版です。デバイスのデフォルト STP モードは Rapid PVST+ です。



Note このマニュアルでは、IEEE 802.1w および IEEE 802.1s を指す用語として、「スパニングツリー」を使用します。このマニュアルで IEEE 802.1D STP に関して説明する場合は、具体的に 802.1D と表記されます。



Note Rapid PVST+ はデフォルトの STP モードです。

Rapid PVST+ プロトコルは、VLAN 単位で実装される IEEE 802.1w 標準（高速スパンニングツリープロトコル（RSTP））です。Rapid PVST+ は、個別の VLAN でなく、すべての VLAN に対応する単一の STP インスタンスが規定された IEEE 802.1Q VLAN 標準と相互運用されます。

デバイスのデフォルト VLAN（VLAN1）および新規作成されたすべての VLAN では、Rapid PVST+ がデフォルトでイネーブルです。Rapid PVST+ はレガシー IEEE 802.1D STP が稼働するデバイスと相互運用されます。

RSTP は、元の STP 規格 802.1D の拡張版で、より高速な収束が可能です。



Note デバイスは、Rapid PVST+ に対して中断のない完全アップグレードをサポートしています。中断のない完全アップグレードの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』を参照してください。

STP

STP は、ネットワークのループを排除しながらパスの冗長性を実現する、レイヤ 2 リンク管理プロトコルです。

STP の概要

レイヤ 2 イーサネット ネットワークが正常に動作するには、2 つの端末間で存在できるアクティブ パスは 1 つだけです。STP の動作はエンドステーションに対してトランスペアレントなので、単一の LAN セグメントに接続されているのか、それとも複数セグメントからなるスイッチド LAN に接続されているのかを、エンドステーションが検知することはできません。

フォールトトレラントなインターネットワークを作成する場合、ネットワーク上のすべてのノード間にループフリーパスを構築する必要があります。STP アルゴリズムは、スイッチドレイヤ 2 ネットワーク上で最良のループフリーパスを算出します。レイヤ 2 LAN ポートは STP フレーム（ブリッジプロトコルデータユニット（BPDU））を一定の時間間隔で送受信します。ネットワークデバイスは、これらのフレームを転送せずに、フレームを使用してループフリーパスを構築します。

エンドステーション間に複数のアクティブパスがあると、ネットワーク内でループが発生する原因になります。ネットワークにループが存在する場合、エンドステーションが重複したメッセージを受信したり、ネットワークデバイスが複数のレイヤ 2 LAN ポート上でエンドステーション MAC アドレスを学習したりする可能性があります。

STP は、ルートブリッジおよびそのルートからレイヤ 2 ネットワーク上のすべてのネットワークデバイスへのループフリーパスを備えたツリーを定義します。STP は冗長データパスを強制的にブロック状態にします。スパンニングツリーのネットワークセグメントに障害が発生した

場合、冗長パスがあると、STP アルゴリズムにより、スパニングツリー トポロジが再計算され、ブロックされたパスがアクティブになります。

ネットワーク デバイス上の 2 つのレイヤ 2 LAN ポートがループの一部になっている場合、デバイス上のどちらのポートがフォワーディングステートになり、どちらのポートがブロッキングステートになるかは、STP ポートプライオリティおよびポートパスコストの設定によって決まります。STP のポートプライオリティ値は、その場所でポートがトラフィックを送受信する場合の効率を示します。STP ポートパスコスト値は、メディア速度から算出されます。

トポロジの作成方法

スパニングツリーに参加している LAN 内のすべてのデバイスは、BPDU を交換して、ネットワーク内の他のスイッチに関する情報を収集します。この BPDU の交換により、次のアクションが発生します。

- そのスパニングツリー ネットワーク トポロジでルート スイッチが 1 台選択されます。
- LAN セグメントごとに指定スイッチが 1 台選定されます。
- 冗長スイッチ ポートをバックアップステートにすることにより、スイッチドネットワーク上のループが排除されます。スイッチドネットワーク内のどの場所からも、ルート デバイスに到達するために必要でないパスは、すべて STP ブロックステートになります。

アクティブなスイッチドネットワーク上のトポロジは、次の情報によって決定されます。

- 各デバイスに対応付けられた一意のデバイス ID (デバイスの MAC アドレス)
- 各スイッチ ポートに対応付けられたルートへのパスコスト
- 各スイッチ ポートに対応付けられたポート ID

スイッチドネットワークでは、ルートスイッチが論理的にスパニングツリー トポロジの中心になります。STP は BPDU を使用して、スイッチドネットワークのルートスイッチおよびルートポートを選定します。



Note

mac-address bpdu source version 2 STP が新しいシスコの MAC アドレス (00:26:0b:xx:xx:xx) を、vPC ポートで生成される BPDU の発信元アドレスとして使用できるようになります。

このコマンドを適用するには、両方の vPC ピア スイッチまたはピアの設定が同一である必要があります。

STP 不整合に起因するトラフィックの中断を最小限に抑えるため、このコマンドを実行する前に、エッジデバイスの EtherChannel ガードをディセーブルにすることを強くお勧めします。両方のピアの更新後に、EtherChannel ガードを再びイネーブルにします。

ブリッジ ID

各ネットワーク装置上の各 VLAN には、一意の 64 ビットブリッジ ID が設定されています。ブリッジ ID はブリッジプライオリティ値、拡張システム ID（IEEE 802.1t）、および STP MAC アドレス割り当てで構成されています。

ブリッジ プライオリティ値

拡張システム ID がイネーブルの場合、ブリッジ プライオリティは 4 ビット値です。

デバイスのブリッジ ID（ルートブリッジの ID を判別するためにスパニングツリー アルゴリズムで使用され、最小値が優先される）に指定できるのは、4096 の倍数だけです。



Note このデバイスでは、拡張システム ID は常にイネーブルです。拡張システム ID をディセーブルにできません。

拡張システム ID を伴わない

デバイスでは常に 12 ビット拡張システム ID が使用されます。

Figure 4: 拡張システム ID が指定されたブリッジ ID

次の図に、ブリッジ ID の一部である 12 ビット拡張システム ID フィールドを示します。



次の表に、拡張システム ID がどのようにブリッジ ID と組み合わせられて、VLAN 固有の識別子として機能するかを示します。

Table 7: 拡張システム ID をイネーブルにしたブリッジ プライオリティ値および拡張システム ID

ブリッジ プライオリティ 値				拡張システム ID（VLAN ID と同設定）											
ビット 16	ビット 15	ビット 14	ビット 13	ビット 12	ビット 11	ビット 10	ビット 9	ビット 8	ビット 7	ビット 6	ビット 5	ビット 4	ビット 3	ビット 2	ビット 1
32768	16384	8192	4096	2048	1024	512	256	128	64	32	16	8	4	2	1

STP MAC アドレス割り当て



Note デバイスでは常に MAC アドレス リダクションがイネーブルです。

デバイスでは常に MAC アドレス リダクションがイネーブルであるため、不要なルートブリッジの選定を防止して、スパニングツリートポロジの問題を防ぐには、その他のすべてのレイヤ 2 接続ネットワーク装置でも MAC アドレス リダクションをイネーブルにする必要があります。

MAC アドレス リダクションをイネーブルにすると、ルートブリッジプライオリティは、4096 + VLAN ID の倍数となります。デバイスのブリッジ ID（ルートブリッジの ID を判別するためにスパンニングツリー アルゴリズムで使用され、最小値が優先される）に指定できるのは、4096 の倍数だけです。指定できるのは次の値だけです。

- 0
- 4096
- 8192
- 12288
- 16384
- 20480
- 24576
- 28672
- 32768
- 36864
- 40960
- 45056
- 49152
- 53248
- 57344
- 61440

STP は、拡張システム ID および MAC アドレスを使用して、VLAN ごとにブリッジ ID を一意にします。

**Note**

同じスパンニングツリー ドメイン内の別のブリッジで MAC アドレス リダクション機能が稼働していない場合、ブリッジ ID により細かい値を選択できるため、そのブリッジがルートブリッジの所有権を取得する可能性があります。

BPDU

ネットワーク装置は STP インスタンス全体に BPDU を送信します。各ネットワーク デバイスはコンフィギュレーション BPDU を送信して、スパンニングツリー トポロジを伝達および計算します。各コンフィギュレーション BPDU に含まれる最小限の情報は、次のとおりです。

- 送信側ネットワーク デバイスがルートブリッジになると見なしているネットワーク デバイスの固有のブリッジ ID
- ルートまでの STP パス コスト

- 送信側ブリッジのブリッジ ID
- メッセージ経過時間
- 送信側ポートの ID
- Hello タイマー、転送遅延タイマー、最大エージング タイム プロトコル タイマー
- STP 拡張プロトコルの追加情報

ネットワーク装置が Rapid PVST+ BPDU フレームを送信すると、そのフレームが伝送される VLAN に接続されたすべてのネットワーク装置が BPDU を受信します。ネットワーク装置が BPDU を受信しても、フレームは転送されません。代わりに、フレームに含まれる情報を使用して BPDU が計算されます。トポロジが変更されると、ネットワーク装置は BPDU 交換を開始します。

BPDU 交換によって次の処理が行われます。

- 1 つのネットワーク デバイスがルートブリッジとして選定されます。
- パス コストに基づいて、各ネットワーク デバイスのルートブリッジまでの最短距離が計算されます。
- LAN セグメントごとに指定ブリッジが選択されます。このネットワーク装置はルートブリッジに最も近いネットワーク装置であり、このネットワーク装置を経由してルートにフレームが転送されます。
- ルート ポートが選定されます。このポートにより、ブリッジからルートブリッジまでの最適パスが提供されます。
- スパニングツリーに含まれるポートが選択されます。

ルートブリッジの選定

VLAN ごとに、最小の数値 ID を持つネットワーク デバイスが、ルートブリッジとして選定されます。すべてのネットワーク デバイスがデフォルトプライオリティ (32768) に設定されている場合は、VLAN 内で最小の MAC アドレスを持つネットワーク デバイスがルートブリッジになります。ブリッジプライオリティ値はブリッジ ID の最上位ビットを占めます。

ブリッジプライオリティ値を変更すると、デバイスがルートブリッジとして選出される可能性が変わります。小さい値を設定するほどその可能性が大きくなり、大きい値を設定するほどその可能性は小さくなります。

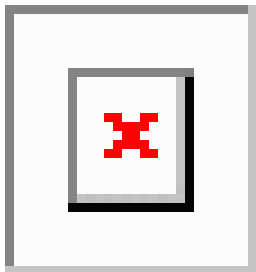
STP ルートブリッジは、レイヤ 2 ネットワークにおける各スパニングツリー トポロジの論理上の中心です。レイヤ 2 ネットワーク内のどの場所からでも、ルートブリッジに到達するために必要でないパスは、すべて STP ブロッキング モードになります。

BPDU には、送信側ブリッジおよびそのポートについて、ブリッジおよび MAC アドレス、ブリッジプライオリティ、ポートプライオリティ、パス コストなどの情報が含まれます。STP はこの情報を使用して STP インスタンスのルートブリッジを選定し、ルートブリッジへのルートポートを選定し、各レイヤ 2 セグメントの指定ポートを判別します。

スパニングツリー トポロジの作成

最適なネットワーク デバイスがルートブリッジになるように、デバイスの数値を下げることで、ルートとして最適なネットワーク デバイスを使用する、新しいスパニングツリー トポロジを形成するように強制的に再計算させることができます。

Figure 5: スパニングツリー トポロジ



この図では、スイッチ A がルートブリッジに選定されます。これは、すべてのネットワーク装置でブリッジプライオリティがデフォルト（32768）に設定されており、スイッチ A の MAC アドレスが最小であるためです。しかし、トラフィック パターン、フォワーディング ポートの数、リンクタイプによっては、スイッチ A が最適なルートブリッジでないことがあります。

スパニングツリー トポロジをデフォルトのパラメータに基づいて計算すると、スイッチドネットワーク上の送信元から宛先端末までのパスが最適にならない可能性があります。たとえば、現在のルート ポートよりも数値の大きいポートに高速リンクを接続すると、ルート ポートが変更される場合があります。最高速のリンクをルート ポートにすることが重要です。

スイッチ B のあるポートが光ファイバリンクであり、スイッチ B の別のポート（シールドなしツイストペア（UTP）リンク）がルート ポートであるとして。ネットワーク トラフィックを高速の光ファイバリンクに流した方が効率的です。光ファイバポートの STP ポートプライオリティをルートポートよりも高いプライオリティに変更すると（数値を下げる）、光ファイバポートが新しいルート ポートになります。

Rapid PVST+

RapidPVST+は、ソフトウェアのデフォルトのスパニングツリーモードで、デフォルト VLAN および新規作成のすべての VLAN 上で、デフォルトでイネーブルになります。

設定された各 VLAN 上で RSTP の単一インスタンスまたはトポロジが実行され、VLAN 上の各 Rapid PVST+ インスタンスに 1 つのルート デバイスが設定されます。Rapid PVST+ の実行中には、VLAN ベースで STP をイネーブルまたはディセーブルにできます。

Rapid PVST+ の概要

Rapid PVST+ は、VLAN ごとに実装されている IEEE 802.1w（RSTP）規格です。（手作業で STP をディセーブルにしていない場合、）STP の 1 つのインスタンスは、設定されている各 VLAN で実行されます。VLAN 上の各 Rapid PVST+ インスタンスには、1 つのルートスイッチがあります。Rapid PVST+ の実行中には、VLAN ベースで STP をイネーブルまたはディセーブルにできます。



Note デバイスのデフォルト STP モードは Rapid PVST+ です。

Rapid PVST+ では、ポイントツーポイントの配線を使用して、スパニングツリーの高速収束が行われます。Rapid PVST+ によりスパニングツリーの再設定を 1 秒未満に発生させることができます (802.1D STP のデフォルト設定では 50 秒)。PVID は自動的にチェックされます。



Note Rapid PVST+ では、VLAN ごとに 1 つの STP インスタンスがサポートされます。

Rapid PVST+ を使用すると、STP コンバージェンスが急速に発生します。デフォルトでは、STP 内の各指定ポートは 2 秒おきに BPDU を送信します。トポロジ内の指定ポートで、hello メッセージが 3 回連続して受信されない場合、または最大エージングタイムが満了した場合、ポートはテーブル内のすべてのプロトコル情報をただちに消去します。ポートで BPDU が受信されなかった回数が 3 に達するか、または最大エージングタイムが満了した場合、ポートは直接接続されたネイバーの指定ポートとの接続が切断されていると見なします。プロトコル情報の急速な経過により、障害検出を迅速に行うことができます。

Rapid PVST+ を使用すると、デバイス、デバイス ポート、または LAN の障害後に、接続をすばやく回復できます。エッジポート、新しいルートポート、ポイントツーポイントリンクで接続したポートに、高速コンバージェンスが次のように提供されます。

- エッジポート : RSTP デバイスでエッジポートとしてポートを設定すると、エッジポートはフォワーディングステートにすぐに移行します (この急速な移行は、PortFast と呼ばれていたシスコ特有の機能でした)。エッジポートとして 1 つのエンドステーションに接続されているポートにのみ、設定する必要があります。エッジポートでは、リンクの変更時にはトポロジの変更は生成されません。

spanning-tree port type を入力します STP エッジポートとしてポートを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。



Note レイヤ 2 ホストに接続されたすべてのポートをエッジポートとして設定することを推奨します。

- ルートポート : Rapid PVST+ が新規ルートポートを選択した場合、古いルートポートをブロックして、即座に新規ルートポートをフォワーディングステートに移行します。
- ポイントツーポイントリンク : ポイントツーポイントリンクによってあるポートと別のポートを接続することでローカルポートが指定ポートになると、提案合意ハンドシェイクを使用して他のポートと急速な移行がネゴシエートされ、トポロジにループがなくなります。

Rapid PVST+ では、エッジポートとポイントツーポイントリンクでのみ、フォワーディングステートへの急速な移行が達成されます。リンクタイプは設定が可能ですが、システムでは、

エッジポートでは、トポロジの変更は生成されませんが、直接接続されているネイバーから3回連続 BPDUDiv data-bbox="253 294 950 327" data-label="Text">

Rapid PVST+により、トポロジの変更が検出される場合、プロトコルでは次の処理が発生します。

- 必要に応じて、すべての非エッジ ルート ポートおよび指定ポートに対して、hello タイムの2倍の値に設定された TC While タイマーを開始します。
- これらのすべてのポートにアソシエートされている MAC アドレスがフラッシュされます。

トポロジ変更通知は、トポロジ全体で迅速にフラッディングされます。システムでトポロジの変更が受信されると、システムにより、ポート ベースでダイナミック エントリがただちにフラッシュされます。



Note TCA フラグが使用されるのは、そのデバイスが、レガシー 802.1D STP が稼働しているデバイスと相互作用している場合のみです。

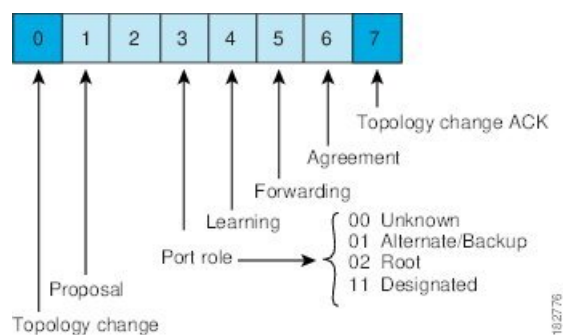
トポロジの変更後、提案と合意のシーケンスがネットワークのエッジ方向に迅速に伝播され、接続がただちに回復します。

Rapid PVST+ BPDUDiv data-bbox="253 651 949 684" data-label="Text"> Rapid PVST+ および 802.1w では、次の情報を追加するために、フラグ バイトの 6 ビットをすべて使用しています。

- BPDUDiv data-bbox="253 751 509 766" data-label="Caption">

**Figure 6: BPDUDiv data-bbox="253 778 707 795" data-label="Text">

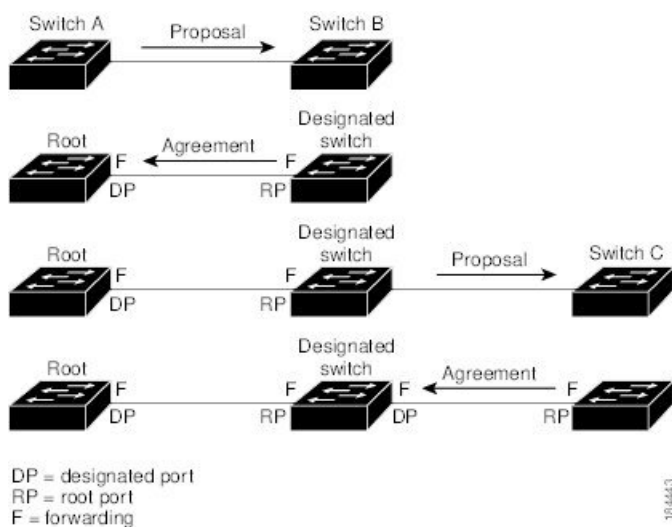
次の図に、Rapid PVST+ の BPDUDiv data-bbox="352 941 837 957" data-label="Page-Footer">Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS レイヤ 2 スイッチング構成ガイド リリース 10.5(x)**



もう 1 つの重要な変更点は、Rapid PVST+ BPDU がタイプ 2、バージョン 2 であるため、デバイスが接続先のレガシー（802.1D）ブリッジを検出できることです。802.1D の BPDU はタイプ 0、バージョン 0 です。

提案と合意のハンドシェイク

Figure 7: 高速コンバージェンスの提案と合意のハンドシェイク



次の図では、スイッチ A がスイッチ B にポイントツーポイント リンクで接続され、すべてのポートはブロッキング ステートになっています。スイッチ A のプライオリティがスイッチ B のプライオリティよりも数値的に小さいとします。スイッチ A は提案メッセージ（提案フラグを設定した設定 BPDU）をスイッチ B に送信し、指定スイッチとしてそれ自体を提案します。

スイッチ B が提案メッセージを受信すると、提案メッセージを受信したポートを新しいルートポートとして選択し、すべての非エッジ ポートを強制的にブロッキング ステートにします。さらに、その新しいルートポート経由で合意メッセージ（合意フラグが設定された BPDU）を送信します。

スイッチ B から合意 メッセージの受信後、スイッチ A でも、その指定ポートがただちにフォワーディング ステートに移行されます。スイッチ B がエッジ以外のすべてのポートをブロックし、かつスイッチ A とスイッチ B の間にポイントツーポイント リンクがあるので、ネットワークでループは形成されません。

スイッチ C がスイッチ B に接続されると、類似したハンドシェイク メッセージのセットがやり取りされます。スイッチ C は、そのルート ポートとしてスイッチ B に接続されたポートを選択し、リンクの両端がただちにフォワーディング ステートになります。アクティブ トポロジにスイッチが追加されるたびに、このハンドシェイク プロセスが実行されます。ネットワークが収束するにつれて、提案と合意のハンドシェイクは、次の図に示すようにスパニング ツリーのルートからリーフに向かって進みます。

スイッチはポートのデュプレックス モードからリンク タイプを学習します。全二重ポートはポイントツーポイント接続と見なされ、半二重ポートは共有接続と見なされます。**spanning-tree link-type** を入力すると、デュプレックス設定によって制御されるデフォルト設定を無効にすることができます。 **interface configuration** コマンド

この提案と合意のハンドシェイクが開始されるのは、非エッジ ポートがブロッキング ステートからフォワーディング ステートに移行した場合だけです。次に、ハンドシェイク処理は、トポロジ全体に段階的に広がります。

プロトコル タイマー

次の表に、Rapid PVST+ のパフォーマンスに影響するプロトコル タイマーを示します。

Table 8: Rapid PVST+ プロトコル タイマー

変数	説明
ハロー タイマー	ネットワーク装置間でBPDUをブロードキャストする頻度を決定します。デフォルトは 2 秒で、範囲は 1 ～ 10 です。
転送遅延タイマー	ポートが転送を開始するまでの、リスニングステートおよびラーニングステートが継続する時間を決定します。このタイマーは通常、プロトコルによっては使用されませんが、802.1D スパニングツリーと相互に動作するときに使用されます。デフォルトは 15 秒で、範囲は 4 ～ 30 秒です。
最大エージング タイマー	ポートで受信したプロトコル情報がネットワークデバイスで保持される期間を決定します。このタイマーは通常、プロトコルによっては使用されませんが、802.1D スパニングツリーと相互に動作するときに使用されます。デフォルトは 20 秒で、範囲は 6 ～ 40 秒です。

ポート ロール

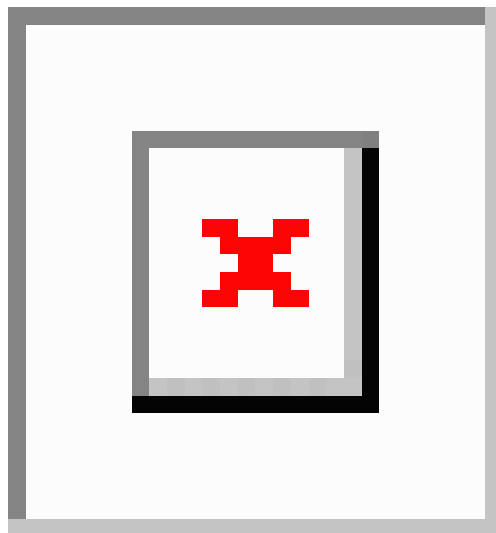
Rapid PVST+ では、ポート ロールを割り当て、アクティビティ トポロジを認識することによって、高速収束が行われます。Rapid PVST+ は、802.1D STP を利用して、最も高いスイッチ プライオリティ（最小プライオリティ値）を持つデバイスをルートブリッジとして選択します。Rapid PVST+ により、次のポートのロールの 1 つが個々のポートに割り当てられます。

- ルート ポート：デバイスがルートブリッジにパケットを転送するとき、最適な（コストが最小の）パスを提供します。

- 指定ポート：LAN からルート ブリッジにパケットを転送するとき、最小パス コストになる指定デバイスに接続します。指定デバイスが LAN への接続に使用したポートは、指定ポートと呼ばれます。
- 代替ポート：現在のルート ポートによって用意されているパスに、ルートブリッジへの代替パスを用意します。また、トポロジ内の別のデバイスへのパスを提供します。
- バックアップ ポート：指定ポートが提供した、スパニング ツリーのリーフに向かうパスのバックアップとして機能します。2つのポートがポイントツーポイントリンクによってループバックで接続した場合、または共有 LAN セグメントへの複数の接続がデバイスにある場合に限り、バックアップ ポートは存在できます。バックアップ ポートは、トポロジ内のデバイスに対する別のパスを提供します。
- ディセーブル ポート：スパニング ツリーの動作において何もロールが与えられていません。

ネットワーク全体でポートのロールに一貫性のある安定したトポロジでは、Rapid PVST+により、ルートポートと指定ポートがすべてただちにフォワーディングステートになり、代替ポートとバックアップポートはすべて、必ずブロッキングステートになります。指定ポートはブロッキングステートで開始されます。ポートのステートにより、転送処理および学習処理の動作が制御されます。

Figure 8: ポートのロールをデモンストレーションするトポロジのサンプル



次の図はポート ロールを示しています。ルート ポートまたは指定ポートのロールを持つポートは、アクティブなトポロジに含まれます。代替ポートまたはバックアップポートのロールがあるポートは、アクティブ トポロジから除外されます。

Rapid PVST+ ポート ステートの概要

プロトコル情報がスイッチド LAN を通過するとき、伝播遅延が生じることがあります。その結果、スイッチド ネットワークのさまざまな時点および場所でトポロジの変化が発生します。レイヤ2 LANポートがスパニングツリー トポロジに含まれていない状態からフォワーディ

ング ステートに直接遷移すると、一時的にデータ ループが発生する可能性があります。ポートは新しいトポロジ情報がスイッチド LAN 経由で伝播されるまで待機し、それからフレーム転送を開始する必要があります。

Rapid PVST+ または MST を使用するデバイスの各レイヤ 2 LAN ポートは、次の 4 つのステートのいずれかになります。

- ブロッキング：レイヤ 2 LAN ポートはフレーム転送に参加しません。
- ラーニング：レイヤ 2 LAN ポートがフレーム転送に参加する準備をしている状態です。
- フォワーディング：レイヤ 2 LAN ポートはフレームを転送します。
- ディセーブル：レイヤ 2 LAN ポートが STP に参加せず、フレームを転送しません。

RapidPVST+をイネーブルにすると、デバイス上のすべてのポート、VLAN、およびネットワークは、電源投入時に必ずブロッキングステートを経て、それからラーニングという移行ステートに進みます。設定が適切であれば、各レイヤ 2 LAN ポートはフォワーディング ステートまたはブロッキング ステートで安定します。

STP アルゴリズムによってレイヤ 2 LAN ポートがフォワーディング ステートになると、次の処理が行われます。

1. レイヤ 2 LAN ポートがブロッキング ステートになり、ラーニング ステートに移行するように指示するプロトコル情報を待ちます。
2. レイヤ 2 LAN ポートが転送遅延タイマーの満了を待ち、満了した時点でラーニング ステートになり、転送遅延タイマーをリセットします。
3. ラーニング ステートで、レイヤ 2 LAN ポートはフレーム転送を引き続きブロックしながら、転送データベースの端末のロケーション情報を学習します。
4. レイヤ 2 LAN ポートは、転送遅延タイマーがタイムアウトになるまで待機します。タイムアウトになったら、レイヤ 2 LAN ポートをフォワーディング ステートに移行します。フォワーディング ステートでは、ラーニングおよびフレーム転送が両方ともイネーブルになります。

ブロッキング ステート

ブロッキング ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、フレーム転送に参加しません。

ブロッキング ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、次の処理を実行します。

- 接続セグメントから受信したフレームを廃棄します。
- 転送用に他のポートからスイッチングされたフレームを廃棄します。
- エンドステーションの場所は、そのアドレス データベースには取り入れません（ブロッキング状態のレイヤ 2 LAN ポートに関する学習は行われないため、アドレス データベースは更新されません）。
- BPDU を受信し、それをシステム モジュールに転送します。

ラーニング ステート

- システム モジュールから送られた BPDU を受信し、処理して送信します。
- コントロール プレーン メッセージを受信して応答します。

ラーニング ステート

ラーニング ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、フレームの MAC アドレスを学習して、フレーム転送に参加するための準備を行います。レイヤ 2 LAN ポートは、ブロッキング ステートからラーニング ステートを開始します。

ラーニング ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、次の処理を実行します。

- 接続セグメントから受信したフレームを廃棄します。
- 転送用に他のポートからスイッチングされたフレームを廃棄します。
- エンドステーションの場所を、そのアドレス データベースに取り入れます。
- BPDU を受信し、それをシステム モジュールに転送します。
- システム モジュールから送られた BPDU を受信し、処理して送信します。
- コントロール プレーン メッセージを受信して応答します。

フォワーディング ステート

フォワーディング ステートのレイヤ 2 LAN ポートはフレームを転送します。レイヤ 2 LAN ポートは、ラーニング ステートからフォワーディング ステートを開始します。

フォワーディング ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、次の処理を実行します。

- 接続セグメントから受信したフレームを転送します。
- 転送用に他のポートからスイッチングされたフレームを転送します。
- エンドステーションの場所情報を、そのアドレス データベースに取り入れます。
- BPDU を受信し、それをシステム モジュールに転送します。
- システム モジュールから受信した BPDU を処理します。
- コントロール プレーン メッセージを受信して応答します。

ディセーブル ステート

ディセーブル ステートのレイヤ 2 LAN ポートは、フレーム転送または STP に参加しません。ディセーブル ステートのレイヤ 2 LAN ポートは事実上、動作することはありません。

ディセーブルになったレイヤ 2 LAN ポートは、次の処理を実行します。

- 接続セグメントから受信したフレームを廃棄します。
- 転送用に他のポートからスイッチングされたフレームを廃棄します。

- エンドステーションの場所は、そのアドレス データベースには取り入れません（ラーニングは行われなため、アドレス データベースは更新されません）。
- ネイバーから BPDU を受信しません。
- システム モジュールから送信用の BPDU を受信しません。

ポート ステートの概要

次の表に、ポートの有効な動作ステートと RapidPVST+ ステート、およびポートがアクティブ トポロジに含まれるかどうかを示します。

Table 9: アクティブなトポロジのポート ステート

動作ステータス (Operational Status)	ポート状態	ポートがアクティブ トポロジに含まれているか
イネーブル	ブロッキング	いいえ
有効	ラーニング	はい
有効	転送	はい
無効	無効	×

ポート ロールの同期

デバイスがいずれかのポートで提案メッセージを受信し、そのポートが新しいルートポートとして選択されると、Rapid PVST+ はその他すべてのポートを新しいルート情報で同期化します。

その他すべてのポートを同期化する場合、ルートポートで受信した優位ルート情報でデバイスは同期化されます。次のうちいずれかが当てはまる場合、デバイスのそれぞれのポートは同期化されます。

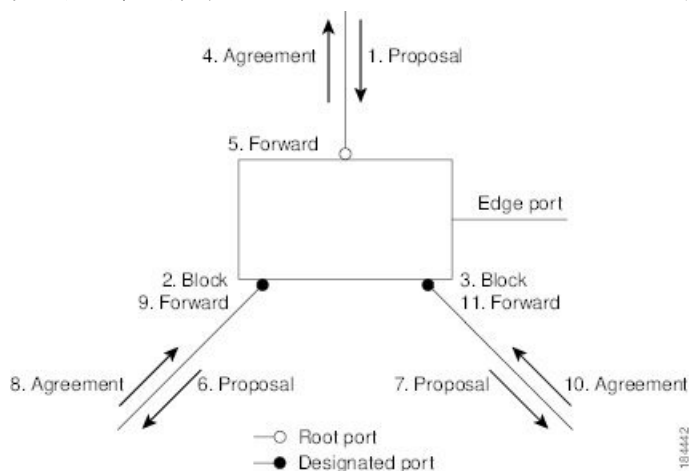
- ポートがブロッキング ステートである。
- エッジ ポートである（ネットワークのエッジに存在するように設定されたポート）。

指定されたポートは、フォワーディング ステートになっていてエッジ ポートとして設定されていない場合、RapidPVST+ によって強制的に新しいルート情報で同期化されると、ブロッキングステートに移行します。一般的に、RapidPVST+ により、強制的にルート情報との同期がとられる場合で、ポートで前述の条件のいずれかが満たされない場合、ポート ステートはブロッキングに設定されます。

すべてのポートが同期化されてから、デバイスは、ルートポートに対応する指定デバイスに合意メッセージを送信します。ポイントツーポイントリンクで接続されたデバイスがポート ロールについて合意すると、Rapid PVST+ はポート ステートをフォワーディング ステートにただちに移行します。

Figure 9: 高速コンバージェンス中のイベントのシーケンス

次の図は、同期中のイベントのシーケンスを示しています。



優位 BPDU 情報の処理

上位BPDUとは、自身のために現在保存されているものより上位であるルート情報（より小さいスイッチ ID、より小さいパス コストなど）を持つ BPDU のことです。

上位 BPDU がポートで受信されると、Rapid PVST+ は再設定を起動します。そのポートが新しいルートポートとして提案され選択されると、Rapid PVST+ はすべての非エッジ、指定ポートを強制的に同期化します。

受信した BPDU が提案フラグを設定した Rapid PVST+ BPDU である場合、その他すべてのポートが同期化されたあとで、デバイスは合意メッセージを送信します。前のポートがブロッキングステートになるとすぐに、新しいルートポートがフォワーディングステートに移行します。

ポートで受信した上位情報によりポートがバックアップポートまたは代替ポートになる場合、Rapid PVST+ はポートをブロッキングステートに設定し、合意メッセージを送信します。指定ポートは、転送遅延タイマーが期限切れになるまで、提案フラグが設定された BPDU を送信し続けます。期限切れになると、ポートはフォワーディングステートに移行します。

下位 BPDU 情報の処理

下位BPDUとは、自身のために現在保存されているものより下位であるルート情報（より大きいスイッチ ID、より大きいパス コストなど）を持つ BPDU のことです。

DP は、下位 BPDU を受信すると、独自の情報で直ちに応答します。

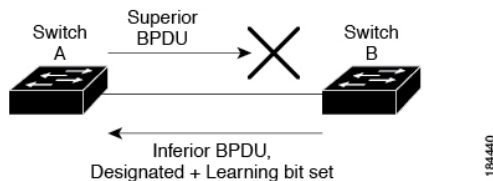
単方向リンク障害の検出 : Rapid PVST+

ソフトウェアは、受信した BPDU のポート ロールとステートの一貫性をチェックし、単方向リンク検出 (UDLD) 機能を使用して、ブリッジンググループが発生する可能性のある単方向リンク障害を検出します。この機能は、異議メカニズムに基づいています。

UDLD の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

指定ポートは、矛盾を検出すると、そのロールを維持しますが、廃棄ステートに戻ります。一貫性がない場合は、接続を中断した方がブリッジンググループを解決できるからです。

Figure 10: 単方向リンク障害の検出



次の図に、ブリッジンググループの一般的な原因となる単方向リンク障害を示します。スイッチ A はルートブリッジであり、スイッチ B へのリンクで BPDUs は失われます。802.1w 業界標準 BPDUs には、送信側ポートの役割と状態が含まれます。この情報により、スイッチ B は送信される上位 BPDUs に対して反応せず、スイッチ B はルートポートではなく指定ポートであることが、スイッチ A によって検出できます。この結果、スイッチ A は、そのポートをブロックし（またはブロックし続け）、ブリッジンググループが防止されます。

ポートコスト



Note RapidPVST+はデフォルトで、ショート（16ビット）パスコスト方式を使用してコストを計算します。ショートパスコスト方式では、1～65,535の範囲で任意の値を割り当てることができます。ただし、ロング（32ビット）パスコスト方式を使用するようにデバイスを設定できます。この場合は、1～200,000,000の範囲で任意の値を割り当てることができます。パスコスト計算方式はグローバルに設定します。

次の表に、LAN インターフェイスのメディア速度とパスコスト計算方式を使用して算出された STP ポートパスコストのデフォルト値を示します。

Table 10: デフォルトポートコスト

帯域幅	ポートコストのショートパスコスト方式	ポートコストのロングパスコスト方式
10 Mbps	100	2,000,000
100 Mbps	19	200,000
1 Gbps	4	20,000
10 Gbps	2	2,000
40 Gbps	1	500
100 Gbps	1	200
400 Gbps	1	50

ループが発生した場合、STP では、LAN インターフェイスの選択時に、フォワーディングステートにするためのポート コストを考慮します。

STP に最初に選択させたい LAN インターフェイスには低いコスト値を、最後に選択させたい LAN インターフェイスには高いコスト値を割り当てることができます。すべての LAN インターフェイスが同じコスト値を使用している場合には、STP は LAN インターフェイス番号が最も小さい LAN インターフェイスをフォワーディングステートにして、残りの LAN インターフェイスをブロックします。

アクセスポートでは、ポートコストをポートごとに割り当てます。トランクポートでは VLAN ごとにポートコストを割り当てるため、トランクポート上のすべての VLAN に同じポートコストを設定できます。

ポートプライオリティ

複数のポートのパスコストが同じである場合に、冗長パスが発生すると、Rapid PVST+ はポートプライオリティを考慮して、フォワーディングステートにする LAN ポートを選択します。Rapid PVST+ に最初に選択させる LAN ポートには小さいプライオリティ値を割り当て、Rapid PVST+ に最後に選択させる LAN ポートには大きいプライオリティ値を割り当てます。

すべての LAN ポートに同じプライオリティ値が割り当てられている場合、Rapid PVST+ は、LAN ポート番号が最小の LAN ポートをフォワーディングステートにし、他の LAN ポートをブロックします。指定可能なプライオリティの範囲は 0 ～ 224（デフォルトは 128）であり、32 単位で設定できます。デバイスは LAN ポートがアクセスポートとして設定されている場合にはポートプライオリティ値を使用し、LAN ポートがトランクポートとして設定されている場合には VLAN ポートプライオリティ値を使用します。

Rapid PVST+ と IEEE 802.1Q トランク

802.1Q トランクによって、ネットワークの STP の構築方法に、いくつかの制約が課されます。802.1Q トランクを使用して接続しているシスコのネットワークデバイスを使用したネットワークでは、ネットワーク デバイスがトランク上で許容される VLAN ごとに 1 つの STP インスタンスを維持します。しかし、他社製の 802.1Q ネットワーク装置では、トランク上で許容されるすべての VLAN に対して 1 つの STP インスタンス（Common Spanning Tree（CST））しか維持されません。

802.1Q トランクを使用してシスコのネットワーク デバイスを他社製のネットワーク デバイスに接続する場合、シスコのネットワーク デバイスは、トランクの 802.1Q VLAN の STP インスタンスを、他社製の 802.1Q ネットワーク デバイスのインスタンスと統合します。ただし、シスコのネットワーク装置によって維持される VLAN 別の STP 情報はすべて、他社製の 802.1Q ネットワーク装置のクラウドによって切り離されます。シスコのネットワーク装置を隔てている他社製の 802.1Q 装置のクラウドは、ネットワーク装置間の単一トランク リンクとして処理されます。

802.1Q トランクの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

Rapid PVST+ のレガシー 802.1D STP との相互運用

Rapid PVST+ は、レガシー 802.1D プロトコルが稼働しているデバイスと相互運用できます。デバイスは、BPDU バージョン 0 を受信すると、802.1D を実行している機器と相互運用していることを認識します。Rapid PVST+ の BPDU はバージョン 2 です。受信した BPDU が、提案フラグを設定した 802.1w BPDU バージョン 2 である場合、デバイスはその他すべてのポートが同期化した後で合意メッセージを送信します。BPDU が 802.1D BPDU バージョン 0 である場合、デバイスは提案フラグを設定せず、ポートの転送遅延タイマーを開始します。新しいルートポートでは、フォワーディングステートに移行するために、2 倍の転送遅延時間が必要となります。

デバイスは、次のように、レガシー 802.1D デバイスと相互運用します。

- 通知：802.1D BPDU とは異なり 802.1w は、TCN BPDU を使用しません。ただし、802.1D デバイスと相互運用性を保つために、デバイスは TCN BPDU の処理と生成を行います。
- 確認応答：802.1w デバイスは、802.1D デバイスから指定ポートで TCN メッセージを受信すると、TCA ビットを設定して 802.1D コンフィギュレーション BPDU で応答します。ただし、802.1D デバイスに接続しているルートポートで TC While タイマー（802.1D の TC タイマーと同じ）がアクティブであり、TCA を設定したコンフィギュレーション BPDU を受信した場合、TC While タイマーはリセットされます。

この動作方式は 802.1D デバイスだけで必要となります。802.1w BPDU では、TCA ビットは設定されません。

- プロトコル移行：802.1D デバイスとの下位互換性のため、802.1w は 802.1D コンフィギュレーション BPDU および TCN BPDU をポートごとに選択的に送信します。

ポートが初期化されると、移行遅延タイマー（802.1w BPDU が送信される最小時間を指定）が開始され、802.1w BPDU が送信されます。このタイマーがアクティブである間、デバイスはそのポートで受信したすべての BPDU を処理し、プロトコルタイプを無視します。

デバイスは、ポート移行遅延タイマーの満了後に 802.1D BPDU を受信すると、802.1D デバイスに接続されていると見なし 802.1D BPDU だけを使用し始めます。ただし、802.1w デバイスが 802.1D BPDU をポートで使用しており、タイマーの満了後に 802.1w BPDU を受信すると、802.1w デバイスはタイマーを再開し、802.1w BPDU をそのポートで使用し始めます。



Note

同じ LAN セグメント上のすべてのデバイスで、インターフェイスごとにプロトコルを再初期化する場合は、Rapid PVST+ を再初期化する必要があります。

Rapid PVST+ の 802.1s MST との相互運用

Rapid PVST+ は、IEEE 802.1s マルチ スパニングツリー (MST) 規格とシームレスに相互運用されます。ユーザによる設定は不要です。このシームレスな相互運用をディセーブルにするには、PVST シミュレーションを使用します。

Rapid PVST+ のハイ アベイラビリティ

ソフトウェアは Rapid PVST+ に対してハイ アベイラビリティをサポートしています。ただし、Rapid PVST+ を再起動した場合、統計情報およびタイマーは復元されません。タイマーは最初から開始され、統計情報は 0 にリセットされます。



Note ハイ アベイラビリティ機能の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』を参照してください。

Rapid PVST+ を設定するための前提条件

Rapid PVST+ には次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。

Rapid PVST+ の設定に関するガイドラインおよび制約事項

Rapid PVST+ 設定時のガイドラインと制限事項は次のとおりです。

- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- VLAN 設定制限については『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Verified Scalability Guide』を参照してください。
- ポート チャネリング: ポート チャネル バンドルは、単一ポートと見なされます。ポート コストは、そのチャネルに割り当てられている設定済みのすべてのポート コストの合計です。
- レイヤ 2 ホストに接続されたすべてのポートを STP エッジ ポートとして設定することを推奨します。
- STP は常にイネーブルのままにしておきます。
- タイマーは変更しないでください。安定性が低下することがあります。
- ユーザ トラフィックが管理 VLAN に流れないようにして、管理 VLAN とユーザ データを常に分離するようにしてください。

- プライマリおよびセカンダリ ルート スイッチの場所として、ディストリビューション レイヤおよびコア レイヤを選択します。
- 802.1Q トランクを介して 2 台のシスコ デバイスを接続すると、トランク上で許容される VLAN ごとにスパニングツリー BPDU が交換されます。トランクのネイティブ VLAN 上の BPDU は、タグなしの状態で、予約済み 802.1D スパニングツリー マルチキャスト MAC アドレス (01-80-C2-00-00-00) に送信されます。トランクのすべての VLAN 上の BPDU は、タグ付きの状態で、予約済み Cisco Shared Spanning Tree Protocol (SSTP) マルチキャスト MAC アドレス (01-00-0c-cc-cc-cd) に送信されます。

Rapid PVST+ のデフォルト設定

次の表に、Rapid PVST+ パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 11: デフォルト *Rapid PVST+* パラメータ

パラメータ	デフォルト
スパニングツリー	すべての VLAN でイネーブル
スパニングツリー モード	Rapid PVST+ Caution スパニングツリー モードを変更すると、すべてのスパニングツリー インスタンスが前のモードで停止して新規モードで開始されるため、トラフィックが中断されます。
VLAN	VLAN 1 に割り当てられたすべてのポート
拡張システム ID	常にイネーブル
MAC アドレス リダクション	常にイネーブル
ブリッジ ID プライオリティ	32769 (デフォルト VLAN 1 のデフォルト ブリッジ プライオリティに拡張システム IDを加えた値)
ポートのステート	ブロッキング (コンバージェンスが発生すると、即座に変更される)
ポート ロール	指定 (コンバージェンスが発生すると、変更される)
ポート/VLAN プライオリティ	128
パスコスト計算方式	short

パラメータ	デフォルト
ポート/VLAN コスト	Auto デフォルトのポート コストは、次のように、メディア速度およびパスコスト計算方式から判別されます。 • 1 ギガビット イーサネット : • ショート : 4 • ロング : 20,000 • 10 ギガビット イーサネット : • ショート : 2 • ロング : 2,000 • 40 ギガビット イーサネット : • ショート : 1 • ロング : 500
hello タイム	2 秒
転送遅延時間	15 秒
最大エージング タイム	20 秒
リンク タイプ	Auto デフォルトリンク タイプは、次のようにデュプレックスから判別されます。 • 全二重 : ポイントツーポイント リンク • 半二重 : 共有リンク

Rapid PVST+ の設定

PVST+ プロトコルに 802.1w 標準を適用した Rapid PVST+ が、デバイスのデフォルトの STP 設定です。

Rapid PVST+ は VLAN ごとにイネーブルにします。デバイスは VLAN ごとに個別の STP インスタンスを維持します (STP をディセーブルに設定した VLAN を除きます)。デフォルトで Rapid PVST+ は、デフォルト VLAN と、作成した各 VLAN でイネーブルになります。

Rapid PVST+ のイネーブル化（CLI バージョン）

Rapid PVST+ をディセーブル化した VLAN がある場合は、指定した VLAN で Rapid PVST+ を再度イネーブルにする必要があります。デバイスで MST がイネーブルな場合に、Rapid PVST+ を使用するには、そのデバイスで Rapid PVST+ をイネーブルにする必要があります。

Rapid PVST+ はデフォルトの STP モードです。同じシャーシ上で MST と Rapid PVST+ を同時に実行することはできません。


Note

スパニングツリー モードを変更すると、すべてのスパニングツリー インスタンスが前のモードで停止して新規モードで再開されるため、トラフィックが中断されます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mode rapid-pvst**
3. **exit**
4. (Optional) **show running-config spanning-tree all**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mode rapid-pvst Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mode rapid-pvst</pre>	デバイスで Rapid PVST+ をイネーブルにします。 Rapid PVST+ はデフォルトのスパニングツリー モードです。 Note スパニングツリー モードを変更すると、変更前のモードのスパニングツリー インスタンスがすべて停止されて新しいモードで起動されるため、トラフィックが中断する場合があります。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	(Optional) show running-config spanning-tree all Example: switch# show running-config spanning-tree all	現在稼働している STP コンフィギュレーションの情報を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイス上で Rapid PVST+ をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mode rapid-pvst
switch(config)# exit
switch#
```



Note Rapid PVST+ はデフォルトで有効になっているため、**show running** 設定結果を参照するために show running コマンドを入力しても、RapidPVST+ をイネーブルするために入力したコマンドは表示されません。

RapidPVST+ の VLAN 単位でのディセーブル化またはイネーブル化 (CLI バージョン)

Rapid PVST+ は、VLAN ごとにイネーブルまたはディセーブルにできます。



Note Rapid PVST+ は、デフォルト VLAN と、作成したすべての VLAN でデフォルトでイネーブルになります。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan vlan-range or no spanning-tree vlan vlan-range**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree vlan vlan-range or no spanning-tree vlan vlan-range Example: <pre>switch(config)# spanning-tree vlan 5</pre>	• spanning-tree vlan vlan-range VLAN ごとに Rapid PVST+ (デフォルト STP) をイネーブルにします。vlan-range の値は、2 ～ 3967 の範囲です (予約済みの VLAN の値を除く)。 • no spanning-tree vlan vlan-range 指定 VLAN で Rapid PVST+ をディセーブルにします。このコマンドに関する詳細については、注意を参照してください。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree Example: <pre>switch# show spanning-tree</pre>	STP の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 5 で STP をイネーブルにする方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5
switch(config)# exit
switch#
```

**Note**

VLAN のすべてのスイッチおよびブリッジでスパニングツリーがディセーブルになっていない場合は、VLAN でスパニングツリーをディセーブルにしないでください。スパニングツリーは、VLAN の一部のスイッチおよびブリッジでディセーブルにしておきながら、VLAN のその他のスイッチおよびブリッジでイネーブルにしておくことはできません。スパニングツリーをイネーブルにしたスイッチとブリッジに、ネットワークの物理トポロジに関する不完全な情報が含まれることになるので、この処理によって予想外の結果となることがあります。

**Caution**

物理的なループがないトポロジであっても、スパニングツリーをディセーブルにしないことを推奨します。スパニングツリーは、設定の誤りおよび配線の誤りに対する保護手段として動作します。VLAN 内に物理的なループが存在しないことを保証できる場合以外は、VLAN でスパニングツリーをディセーブルにしないでください。

**Note**

STP はデフォルトで有効になっているため、`show running` 設定結果を参照するために `show running` コマンドを入力しても、STP をイネーブルするために入力したコマンドは表示されません。

ルート ブリッジ ID の設定

デバイスは、Rapid PVST+ が有効なアクティブ VLAN ごとに、STP インスタンスを個別に維持します。VLAN ごとに、最小のブリッジ ID を持つネットワーク デバイスが、その VLAN のルートブリッジになります。

特定の VLAN インスタンスがルートブリッジになるように設定するには、そのブリッジのプライオリティをデフォルト値（32768）よりかなり小さい値に変更します。

次のコマンドを入力すると、**`spanning-tree vlan vlan-range root primary`** コマンドを 24576 という値でデバイスが指定 VLAN のルートになる場合、デバイスは指定 VLAN のブリッジプライオリティをこの値に設定します。指定 VLAN のルートブリッジのブリッジプライオリティが 24576 より小さい場合、デバイスは最小ブリッジプライオリティより 4096 小さい値に指定 VLAN のブリッジプライオリティを設定します。

**Caution**

STP のインスタンスごとのルートブリッジは、バックボーンまたはディストリビューション デバイスである必要があります。アクセス デバイスは、STP のプライマリ ルートとして設定しないでください。



Note ルートブリッジとして設定されたデバイスで、**spanning-tree mst hello-time** を使用して hello タイム、転送遅延時間、最大エージング タイムを手動で設定しないでください。、**spanning-tree mst forward-time**, and **spanning-tree mst max-age** グローバル設定コマンド。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan *vlan-range* root primary**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> root primary Example: switch(config)# spanning-tree vlan 2 root primary	スパニングツリーのルートブリッジのブリッジプライオリティを設定します。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree Example: switch# show spanning-tree	STP の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスをルートブリッジとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 2 root primary
switch(config)# exit
switch#
```

セカンダリ ルート ブリッジの設定 (CLI バージョン)

デバイスをセカンダリ ルートとして設定すると、STP ブリッジプライオリティはデフォルト値 (32768) から変更されます。その結果、プライマリルートブリッジに障害が発生した場合に (ネットワーク上の他のネットワーク装置がデフォルトのブリッジプライオリティ 32768 を使用していると仮定して)、このデバイスが指定された VLAN のルートブリッジになる可能性が高くなります。STP により、ブリッジプライオリティが 28672 に設定されます。

diameterを入力しますレイヤ2 ネットワークの直径 (レイヤ2 ネットワーク上の任意の2 台の端末間におけるブリッジホップの最大数) を指定するには、キーワードを使用します。ネットワーク直径を指定すると、その直径のネットワークに最適な **hello** タイム、転送遅延時間、最大エージングタイムが自動的に選択されます。これにより、STP コンバージェンスの時間が大幅に削減されます。**hello-time** を入力できます。キーワードを使用して、自動的に計算される **hello** タイムをオーバーライドできます。

この方法で、複数のデバイスに複数のバックアップルートブリッジを設定できます。プライマリルートブリッジの設定時に使用した値と同じネットワーク直径と **hello** タイムの値を入力します。



Note ルートブリッジとして設定されたデバイスで、**spanning-tree mst hello-time** を使用して hello タイム、転送遅延時間、最大エージング タイムを手動で設定しないでください。、**spanning-tree mst forward-time**, and **spanning-tree mst max-age** グローバル設定コマンド。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan *vlan-range* root secondary [*diameter dia* [*hello-time hello-time*]]**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree vlan *vlan_id***
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example:	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
	switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> root secondary [<i>diameter dia</i> [<i>hello-time hello-time</i>]] Example: switch(config)# spanning-tree vlan 5 root secondary diameter 4	デバイスをセカンダリ ルート ブリッジとして設定します。 <i>vlan-range</i> の値は、2～3967 の範囲です（予約済みの VLAN の値を除く）。 <i>dia</i> のデフォルトは 7 です。 <i>hello-time</i> の範囲は 1～10 秒で、デフォルト値は 2 秒です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree vlan <i>vlan_id</i> Example: switch# show spanning-tree vlan 5	指定された VLAN の STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスを VLAN 5 のセカンダリ ルート ブリッジとして設定し、ネットワーク直径を 4 に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5 root secondary diameter 4
switch(config)# exit
switch#
```

VLAN の Rapid PVST+ のブリッジ プライオリティの設定

VLAN の RapidPVST+ のブリッジプライオリティを設定できます。この方法で、ルートブリッジを設定することもできます。



Note

この設定を使用するときは注意が必要です。ブリッジプライオリティを変更するには、プライマリ ルートおよびセカンダリ ルートを設定することを推奨します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan *vlan-range* priority *value***

3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree vlan *vlan_id***
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> priority <i>value</i> Example: switch(config)# spanning-tree vlan 5 priority 8192	VLAN のブリッジプライオリティを設定します。有効な値は 0、4096、8192、12288、16384、20480、24576、28672、32768、36864、40960、45056、49152、53248、57344、61440 です。その他の値はすべて拒否されます。デフォルト値は 32768 です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree vlan <i>vlan_id</i> Example: switch# show spanning-tree vlan 5	指定された VLAN の STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、ギガビット イーサネット ポート 1/4 で VLAN 5 のプライオリティを 8192 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5 priority 8192
switch(config)# exit
switch#
```

Rapid PVST+ ポート プライオリティの設定 (CLI バージョン)

Rapid PVST+ に最初に選択させる LAN ポートには小さいプライオリティ値を割り当て、Rapid PVST+ に最後に選択させる LAN ポートには大きいプライオリティ値を割り当てます。すべての LAN ポートに同じプライオリティ値が割り当てられている場合、Rapid PVST+ は、LAN ポート番号が最小の LAN ポートをフォワーディング ステートにし、他の LAN ポートをブロックします。

デバイスは LAN ポートがアクセス ポートとして設定されている場合にはポート プライオリティ値を使用し、LAN ポートがトランク ポートとして設定されている場合には VLAN ポート プライオリティ値を使用します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *type slot/port*
3. **spanning-tree [vlan vlan-list] port-priority priority**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree interface {ethernet slot/port | port channel channel-number}**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface <i>type slot/port</i> Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree [vlan vlan-list] port-priority priority Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree port-priority 160</pre>	LAN インターフェイスのポート プライオリティを設定します。 <i>priority</i> の値は 0 ～ 224 の範囲です。値が小さいほど、プライオリティは高くなります。プライオリティ値は、0、32、64、96、128、160、192、224 です。その他の値はすべて拒否されます。デフォルト値は 128 です。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree interface {ethernet slot/port port channel channel-number} Example: switch# show spanning-tree interface ethernet 2/10	指定されたインターフェイスの STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、イーサネットアクセスポート 1/4 のポートプライオリティを 160 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch (config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree port-priority 160
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

Rapid PVST+ パスコスト方式およびポートコストの設定（CLI バージョン）

アクセスポートでは、ポートごとにポートコストを割り当てることができます。トランクポートでは、VLAN ごとにポートコストを割り当てることができます。トランク上のすべての VLAN に同じポートコストを設定できます。

**Note**

RapidPVST+モードでは、ショートまたはロングパスコスト方式を使用できます。パスコスト方式の設定は、インターフェイスサブモードまたはコンフィギュレーションサブモードで行います。デフォルトパスコスト方式はショートです。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree pathcost method** {long | short}
3. **interface** type slot/port
4. **spanning-tree** [vlan vlan-id] **cost** [value | auto]
5. **exit**
6. (Optional) **show spanning-tree pathcost method**
7. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree pathcost method {long short} Example: <pre>switch(config)# spanning-tree pathcost method long</pre>	Rapid PVST+ パスコスト計算に使用される方式を選択します。デフォルト方式は short 型です。
ステップ 3	interface type slot/port Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)</pre>	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	spanning-tree [vlan vlan-id] cost [value auto] Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree cost 1000</pre>	LAN インターフェイスのポート コストを設定します。ポートコスト値には、パスコスト計算方式に応じて、次の値を指定できます。 • ショート型 : 1 ~ 65535 • ロング型 : 1 ~ 200000000 Note このパラメータは、アクセス ポートのポート別、およびトランク ポートの VLAN 別に設定します。 デフォルトの auto では、パスコスト計算方式およびメディア速度に基づいてポートコストが設定されます。
ステップ 5	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 6	(Optional) show spanning-tree pathcost method Example: <pre>switch# show spanning-tree pathcost method</pre>	STP パスコスト方式を表示します。
ステップ 7	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、イーサネット アクセス ポート 1/4 のポート コストを 1000 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch (config)# spanning-tree pathcost method long
switch (config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree cost 1000
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

VLAN の Rapid PVST+ hello タイムの設定 (CLI バージョン)

VLAN の Rapid-PVST+ hello タイムを設定できます。

**Note**

この設定を使用する場合は、注意してください。スパニングツリーが中断されることがあります。ほとんどの場合、プライマリ ルートとセカンダリ ルートを設定して、hello タイムを変更することを推奨します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan *vlan-range* hello-time *value***
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree vlan *vlan_id***
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> hello-time <i>value</i> Example: <pre>switch(config)# spanning-tree vlan 5 hello-time 7</pre>	VLAN の hello タイムを設定します。hello タイムの値の範囲は 1 ～ 10 秒で、デフォルトは 2 秒です。
ステップ 3	exit Example:	コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	switch(config)# exit switch#	
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree vlan <i>vlan_id</i> Example: switch# show spanning-tree vlan 5	STP コンフィギュレーションを VLAN 単位で表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 5 の hello タイムを 7 秒に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5 hello-time 7
switch(config)# exit
switch#
```

VLAN の Rapid PVST+ 転送遅延時間の設定 (CLI バージョン)

Rapid PVST+ の使用時は、VLAN ごとに転送遅延時間を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan** *vlan-range* **forward-time** *value*
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree vlan** *vlan_id*
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。

VLAN の Rapid PVST+ 最大エージング タイムの設定 (CLI バージョン)

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> forward-time <i>value</i> Example: <pre>switch(config)# spanning-tree vlan 5 forward-time 21</pre>	VLAN の転送遅延時間を設定します。転送遅延時間の値の範囲は 4 ～ 30 秒で、デフォルトは 15 秒です。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree vlan <i>vlan_id</i> Example: <pre>switch# show spanning-tree vlan 5</pre>	STP コンフィギュレーションを VLAN 単位で表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 5 の転送遅延時間を 21 秒に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5 forward-time 21
switch(config)# exit
switch#
```

VLAN の Rapid PVST+ 最大エージング タイムの設定 (CLI バージョン)

Rapid PVST+ の使用時は、VLAN ごとに最大経過時間を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree vlan *vlan-range* max-age *value***
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree vlan *vlan_id***
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree vlan vlan-range max-age value Example: switch(config)# spanning-tree vlan 5 max-age 36	VLAN の最大エージング タイムを設定します。最大経過時間の値の範囲は 6 ～ 40 秒で、デフォルトは 20 秒です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree vlan vlan_id Example: switch# show spanning-tree vlan 5	STP コンフィギュレーションを VLAN 単位で表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 5 の最大エージング タイムを 36 秒に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree vlan 5 max-age 36
switch(config)# exit
switch#
```

Rapid PVST+ のリンク タイプの指定 (CLI バージョン)

Rapid の接続性 (802.1w 規格) は、ポイントツーポイントのリンク上でのみ確立されます。リンク タイプは、デフォルトでは、インターフェイスのデュプレックス モードから制御されます。全二重ポートはポイントツーポイント接続であると見なされ、半二重ポートは共有接続であると見なされます。

リモートデバイスの単一ポートに、ポイントツーポイントで物理的に接続されている半二重リンクがある場合、リンク タイプのデフォルト設定を上書きして高速移行をイネーブルにできます。

リンクを共有に設定すると、STP は 802.1D にフォールバックします。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **spanning-tree link-type {auto | point-to-point | shared}**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree link-type {auto point-to-point shared} Example: switch(config-if)# spanning-tree link-type point-to-point	リンク タイプを、ポイントツーポイント インクまたは共有リンクに設定します。デフォルト値はデバイス接続から読み取られ、半二重リンクは共有、全二重リンクはポイントツーポイントです。リンクタイプが共有の場合、STP は 802.1D にフォールバックします。デフォルトはautoで、インターフェイスのデュプレックス設定に基づいてリンクタイプが設定されます。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree Example: switch# show spanning-tree	STP の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、リンク タイプをポイントツーポイントリンクとして設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch (config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree link-type point-to-point
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

Rapid PVST+ 用のプロトコルの再初期化

Rapid PVST+ が稼働するブリッジにレガシー ブリッジが接続されている場合は、1 つのポートから 802.1D BPDU を送信できます。ただし、STP プロトコルを移行しても、レガシー デバイスが代表スイッチでないかぎり、レガシー デバイスがリンクから削除されたかどうかを判別することはできません。デバイス全体で、または指定されたインターフェイスで、プロトコル ネゴシエーションを再初期化する（ネイバーデバイスと強制的に再ネゴシエーションを行う）ことができます。

SUMMARY STEPS

1. **clear spanning-tree detected-protocol [interface {ethernet slot/port | port channel channel-number}]**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	clear spanning-tree detected-protocol [interface {ethernet slot/port port channel channel-number}] Example: switch# clear spanning-tree detected-protocol	デバイス上のすべてのインターフェイス、または指定されたインターフェイスで、Rapid PVST+ を再初期化します。

Example

次に、スロット 2 のイーサネット インターフェイス ポート 8 で、Rapid PVST+ を再初期化する例を示します。

```
switch# clear spanning-tree detected-protocol interface ethernet 2/8
switch#
```

Rapid PVST+ の設定の確認

Rapid PVST+ の設定情報を表示するには、次のいずれかのタスクを実行します。

コマンド	目的
show running-config spanning-tree [all]	STP 情報を表示します。
show spanning-tree summary	STP の概要を表示します。
show spanning-tree detail	STP の詳細を表示します。
show spanning-trees show spanning-tree {vlan <i>vlan-id</i> interface {[ethernet <i>slot/port</i>] [port-channel <i>channel-number</i>]}} [detail]	VLAN またはインターフェイス単位の STP 情報を表示します。
show spanning-tree vlans show spanning-tree vlan <i>vlan-id</i> bridge	STP ブリッジの情報を表示します。

Rapid PVST+ 統計情報の表示およびクリア（CLI バージョン）

Rapid PVST+ コンフィギュレーション情報を表示するには、次のいずれかのタスクを実行します。

コマンド	目的
clear spanning-tree counters [interface <i>type slot/port</i> <i>vlan</i> <i>vlan-id</i>]	STP のカウンタをクリアします。
show spanning-tree {vlan <i>vlan-id</i> interface {[ethernet <i>slot/port</i>] [port-channel <i>channel-number</i>]}} detail	送受信された BPDU などの STP 情報を、インターフェイスまたは VLAN 別に表示します。

Rapid PVST+ の設定例

次に、Rapid PVST+ の設定例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# spanning-tree port type edge bpduguard default
switch(config)# spanning-tree port type edge bpdufilter default
switch(config)# spanning-tree port type network default
switch(config)# spanning-tree vlan 1-10 priority 24576
switch(config)# spanning-tree vlan 1-10 hello-time 1
switch(config)# spanning-tree vlan 1-10 forward-time 9
switch(config)# spanning-tree vlan 1-10 max-age 13
```

```

switch(config)# interface Ethernet 3/1 switchport
switch(config-if)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# exit

switch(config)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# spanning-tree guard root
switch(config-if)# exit
switch(config)#

```

Rapid PVST+ の追加情報 (CLI バージョン)

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
レイヤ2インターフェイス	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
Cisco NX-OS の基礎	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

標準

標準	タイトル
IEEE 802.1Q-2006 (旧称 IEEE 802.1s) 、 IEEE 802.1D-2004 (旧称 IEEE 802.1w) 、 IEEE 802.1D、 IEEE 802.1t	—



第 10 章

Cisco NX-OS を使用した MST の設定

- MST について, on page 153
- MST の前提条件, on page 162
- MST の設定に関するガイドラインおよび制約事項 (162 ページ)
- MST のデフォルト設定, on page 164
- MST の設定, on page 165
- MST の設定の確認, on page 192
- MST 統計情報の表示およびクリア (CLI バージョン) , on page 193
- MST の設定例, on page 193
- MST の追加情報 (CLI バージョン) , on page 195

MST について



Note レイヤ 2 インターフェイスの作成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

IEEE 802.1s 標準の MST を使用すると、スパニングツリー インスタンスに複数の VLAN を割り当てることができます。MST は、デフォルトのスパニングツリー モードではありません。Rapid per VLAN Spanning Tree (Rapid PVST+) がデフォルト モードです。MST インスタンスは、同じ名前、リビジョン番号、VLAN からインスタンスへのマッピングと組み合わせられて、MST 領域が形成されます。MST 領域は、領域外のスパニングツリー設定への単一のブリッジとして表示されます。MST がネイバー デバイスから IEEE 802.1D スパニングツリー プロトコル (STP) メッセージを受信すると、該当するインターフェイスとの境界が形成されます。



Note このマニュアルでは、IEEE 802.1w および IEEE 802.1s を指す用語として、「スパニングツリー」を使用します。このマニュアルで IEEE 802.1D スパニングツリー プロトコルに関して説明する場合は、具体的に 802.1D と表記されます。

MST の概要



Note MST をイネーブルにする必要があります。Rapid PVST+ は、デフォルトのスパニングツリーモードです。

MST は、複数の VLAN をスパニングツリー インスタンスにマッピングします。各インスタンスには、他のスパニングツリーインスタンスとは別のスパニングツリー トポロジがあります。このアーキテクチャでは、データトラフィックに対して複数のフォワーディングパスがあり、ロード バランシングが可能です。これによって、非常に多数の VLAN をサポートする際に必要な STP インスタンスの数を削減できます。MST では、1 つのインスタンス（転送パス）で障害が発生しても他のインスタンス（転送パス）に影響しないため、ネットワークのフォールトトレランスが向上します。

MST では、各 MST インスタンスで IEEE 802.1w 規格を採用することによって、明示的なハンドシェイクによる高速収束が可能なため、802.1D 転送遅延がなくなり、ルートブリッジポートと指定ポートが迅速にフォワーディング ステートに変わります。

デバイスでは常に MAC アドレス リダクションがイネーブルです。この機能はディセーブルにはできません。

MST ではスパニング ツリーの動作が改善され、次の STP バージョンとの下位互換性を維持しています。

- 元の 802.1D スパニング ツリー
- Rapid per-VLAN スパニングツリー（Rapid PVST+）



Note

- IEEE 802.1 は、Rapid Spanning Tree Protocol（RSTP）で定義されて、IEEE 802.1D に組み込まれました。
- IEEE 802.1 は MST で定義され、IEEE 802.1Q に組み込まれました。
-

MST 領域

MST インスタンスにデバイスを参加させるには、常に同じ MST 設定情報を使用してデバイスを設定する必要があります。

同一の MST 設定を持つ、相互接続されたデバイスの集合を MST 領域といいます。MST リージョンは、同じ MST 設定で MST ブリッジのグループとリンクされます。

MST 設定により、各デバイスが属する MST 領域が制御されます。この設定には、領域名、リビジョン番号、VLAN/MST インスタンス割り当てマッピングが含まれます。

リージョンには、同一の MST コンフィギュレーションを持った 1 つまたは複数のメンバが必要です。各メンバには、802.1w Bridge Protocol Data Unit (BPDU : ブリッジプロトコルデータユニット) を処理する機能が必要です。ネットワーク内の MST リージョンには、数の制限はありません。

各デバイスは、単一の MST 領域内で、インスタンス 0 を含む最大 65 個の MST インスタンスをサポートできます。インスタンスは、1 ~ 4094 の範囲の任意の番号によって識別されます。インスタンス 0 は、特別なインスタンスである IST 用に予約されています。VLAN は、一度に 1 つの MST インスタンスに対してのみ割り当てることができます。

MST 領域は、隣接の MST 領域、他の Rapid PVST+ 領域、802.1D スパニングツリープロトコルへの単一のブリッジとして表示されます。

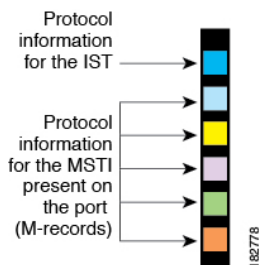


Note ネットワークを、非常に多数の領域に分けることは推奨しません。

MST BPDU

各デバイスで利用できる MST BPDU は、インターフェイスごとに 1 つだけです。この BPDU が、デバイス上の各 MSTI の M レコードを伝達します。IST だけが MST リージョンの BPDU を送信します。すべての M レコードは、IST が送信する 1 つの BPDU でカプセル化されています。MST BPDU はすべてのインスタンスの情報を伝送するため、MST をサポートするために処理しなければならない BPDU の数は、Rapid PVST+ と比べて大幅に削減されます。

Figure 11: MSTI の M レコードが含まれる MST BPDU



MST 設定情報

単一の MST 領域内にあるすべてのデバイスで MST 設定を同一にする必要がある場合は、ユーザ側で設定します。

MST 設定では、次の 3 つのパラメータを設定できます。

- 名前 : 32 文字の文字列。MST リージョンを指定します。ヌルで埋められ、ヌルで終了します。
- リビジョン番号 : 現在の MST 設定のリビジョンを指定する 16 ビットの符号なし数字。



Note MST 設定の一部として必要な場合、リビジョン番号を設定する必要があります。MST 設定をコミットするたびにリビジョン番号が自動的に増加することはありません。

- VLAN/MST インスタンス マッピング：要素が 4096 あるテーブルで、サポート対象の、存在する可能性のある各 VLAN が該当のインスタンスに関連付けられます。最初（0）と最後（4095）の要素は 0 に設定されています。要素番号 X の値は、VLAN X がマッピングされるインスタンスを表します。



Note VLAN/MSTI マッピングを変更すると、MST が再コンバージェンスされます。

MST BPDU には、これらの 3 つの設定パラメータが含まれています。MST ブリッジは、これら 3 つの設定パラメータが厳密に一致する場合、MST BPDU をそのリージョンに受け入れます。設定属性が 1 つでも異なっていると、MST ブリッジでは、BPDU が別の MST リージョンのものであると見なされます。

IST、CIST、CST

IST、CIST、CST の概要

すべての STP インスタンスが独立している Rapid PVST+ と異なり、MST は IST、CIST、および CST スパニングツリーを次のように確立して、維持します。

- IST は、MST 領域で実行されるスパニングツリーです。

MST は、それぞれの MST 領域内で追加のスパニングツリーを確立して維持します。このスパニングツリーは、Multiple Spanning Tree Instance（MSTI）と呼ばれます。

インスタンス 0 は、IST という、領域の特殊インスタンスです。IST は、すべてのポートに必ず存在します。IST（インスタンス 0）は削除できません。デフォルトでは、すべての VLAN が IST に割り当てられます。その他すべての MSTI には、1 ～ 4094 の番号が付きます。

IST は、BPDU の送受信を行う唯一の STP インスタンスです。他の MSTI 情報はすべて MST レコード（M レコード）に含まれ、MST BPDU 内でカプセル化されます。

同じリージョン内のすべての MSTI は同じプロトコル タイマーを共有しますが、各 MSTI には、ルートブリッジ ID やルートパス コストなど、それぞれ独自のトポロジパラメータがあります。

MSTI は、リージョンに対してローカルです。たとえば、リージョン A とリージョン B が相互接続されている場合でも、リージョン A にある MSTI9 は、リージョン B にある MSTI9 には依存しません。領域の境界をまたいで使用されるのは、CST 情報だけです。

- CST は、MST リージョンと、ネットワーク上で実行されている可能性がある 802.1D および 802.1w STP のインスタンスを相互接続します。CST は、ブリッジ型ネットワーク全体

で 1 つ存在する STP インスタンスで、すべての MST リージョン、802.1w インスタンスおよび 802.1D インスタンスを含みます。

- CIST は、各 MST リージョンの IST の集合です。CIST は、MST リージョン内部の IST や、MST リージョン外部の CST と同じです。

MST 領域で計算されるスパニングツリーは、スイッチ ドメイン全体を含んだ CST 内のサブツリーとして認識されます。CIST は、802.1w、802.1s、802.1D 標準をサポートするデバイスで動作するスパニングツリーアルゴリズムによって形成されます。MST リージョン内の CIST は、リージョン外の CST と同じです。

MST 領域内でのスパニングツリーの動作

IST は領域内のすべての MST デバイスを接続します。IST が収束すると、IST のルートは CIST リージョナルルートになります。ネットワークに領域が 1 つしかない場合、CIST リージョナルルートは CIST ルートにもなります。CIST ルートが領域外にある場合、領域の境界にある MST デバイスの 1 つが CIST リージョナルルートとして選択されます。

MST デバイスは、初期化されると、CIST のルートおよび CIST リージョナルルートとして自分自身を識別する BPDU を送信します。BPDU では、CIST ルートのパス コストおよび CIST リージョナルルートへのパス コストの両方がゼロに設定されます。このデバイスはすべての MSTI も初期化し、そのすべてのルートであることを申告します。このデバイスは、ポートで現在保存されている情報よりも優位の MSTI ルート情報（低いスイッチ ID や低いパス コストなど）を受信すると、CIST リージョナルルートとしての申告を放棄します。

初期化中に、MST リージョン内に独自の CIST リージョナルルートを持つ多くのサブリージョンが形成される場合があります。デバイスは、同一領域のネイバーから優位 IST 情報を受信すると、古いサブ領域を離れ本来の CIST リージョナルルートを含む新しいサブ領域に加わりま。このようにして、真の CIST リージョナルルートが含まれているサブリージョン以外のサブ領域はすべて縮小します。

MST 領域内のすべてのデバイスは、同一 CIST リージョナルルートで合意する必要があります。領域内の任意の 2 つのデバイスは、共通 CIST リージョナルルートに収束する場合、MSTI のポート ロールのみを同期化します。

MST 領域間のスパニングツリー動作

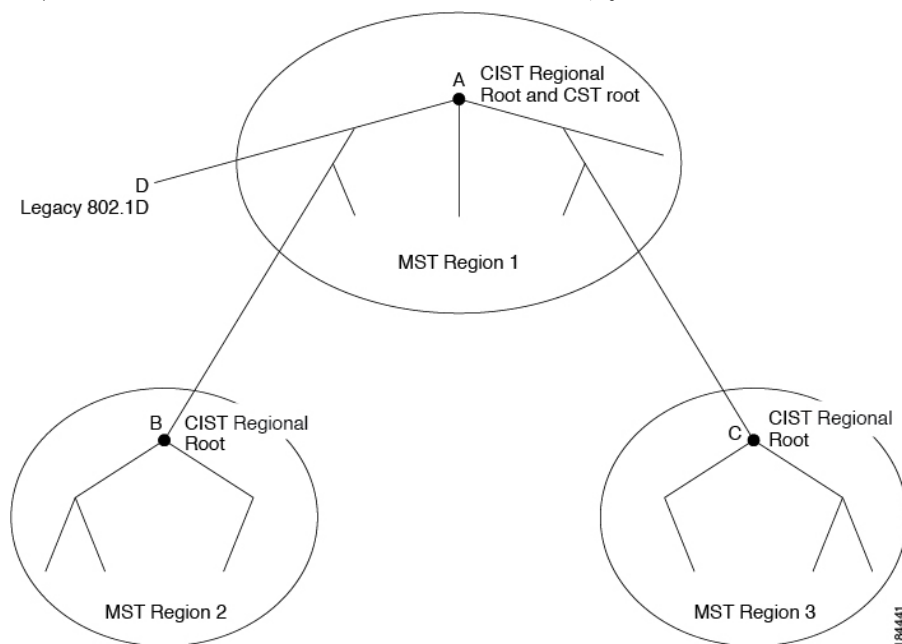
領域または 802.1w か 802.1D の STP インスタンスがネットワーク内に複数ある場合、MST は CST を確立して維持します。これには、ネットワークのすべての MST 領域およびすべての 802.1w と 802.1D の STP デバイスが含まれます。MSTI は、リージョンの境界で IST と結合して CST になります。

IST は領域内のすべての MST デバイスを接続し、スイッチド ドメイン全体を網羅する CIST でサブツリーのように見えます。サブツリーのルートは CIST リージョナルルートです。隣接する STP デバイスおよび MST 領域には、MST 領域が仮想デバイスのように見えます。

Figure 12: MST リージョン、CIST リージョナルルート、CST ルート

次の図に、3 つの MST 領域と 1 台の 802.1D デバイス (D) を含むネットワークを示します。リージョン 1 の CIST リージョナルルート (A) は、CIST ルートでもあります。リージョン 2

の CIST リージョナルルート (B)、およびリージョン 3 の CIST リージョナルルート (C) は、CIST 内のそれぞれのサブツリーのルートです。



BPDU を送受信するのは CST インスタンスのみです。MSTI は自身のスパンニングツリー情報を BPDU に (M レコードとして) 追加し、同じ MST 領域内のネイバー デバイスと相互作用して、最終的なスパンニングツリー トポロジを計算します。BPDU の送信に関連するスパンニングツリー パラメータ (hello タイム、転送時間、最大エージング タイム、最大ホップ カウントなど) は、CST インスタンスにのみ設定されますが、すべての MSTI に影響します。スパンニングツリー トポロジに関連するパラメータ (スイッチ プライオリティ、ポート VLAN コスト、ポート VLAN プライオリティなど) は、CST インスタンスと MSTI の両方に設定できます。

MST デバイスは、バージョン 3 BPDU を使用します。802.1D STP にフォールバックした MST デバイスは、802.1D 専用デバイスと通信する場合、802.1D BPDU だけを使用します。MST デバイスは、MST デバイスと通信する場合、MST BPDU を使用します。

MST 用語

MST の命名規則には、内部パラメータまたはリージョナル パラメータの識別情報が含まれます。これらのパラメータは MST 領域内だけで使用され、ネットワーク全体で使用する外部パラメータと比較されます。CIST だけがネットワーク全体に広がるスパンニングツリー インスタンスなので、CIST パラメータだけに外部修飾子が必要になり、修飾子またはリージョン修飾子は不要です。MST 用語を次に示します。

- CIST ルートは CIST のルートブリッジで、ネットワーク全体にまたがる一意のインスタンスです。
- CIST 外部ルートパス コストは、CIST ルートまでのコストです。このコストは MST 領域内で変化しません。CIST には、MST 領域が単一のデバイスのように見えます。CIST 外部ルートパス コストは、この仮想デバイス、およびどの領域にも属さないデバイスの間で計算されるルートパス コストです。

- CIST ルートが領域内にある場合、CIST リージョナル ルートは CIST ルートです。CIST ルートが領域内にない場合、CIST リージョナル ルートは領域内の CIST ルートに最も近いデバイスです。CIST リージョナル ルートは、IST のルートブリッジとして動作します。
- CIST 内部ルート パス コストは、領域内の CIST リージョナル ルートまでのコストです。このコストは、IST つまりインスタンス 0 だけに関連します。

ホップ カウント

MST リージョン内の STP トポロジを計算する場合、MST はコンフィギュレーション BPDU のメッセージ有効期間と最大エージング タイムの情報は使用しません。代わりに、ルートへのパス コストと、IP の存続可能時間 (TTL) メカニズムに類似したホップ カウント メカニズムを使用します。

spanning-tree mst max-hops グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用すると、領域内の最大ホップ数を設定し、IST およびその領域のすべての MSTI に適用できます。

ホップ カウントは、メッセージエージング情報と同じ結果になります (再設定を開始)。インスタンスのルートブリッジは、コストが 0 でホップ カウントが最大値に設定された BPDU (M レコード) を常々送信します。デバイスは、この BPDU を受信すると、受信した残存ホップ カウントから 1 を差し引き、生成する BPDU の残存ホップ カウントとしてこの値を伝播します。カウントがゼロに達すると、デバイスは BPDU を廃棄し、ポート用に維持されている情報をエージングします。

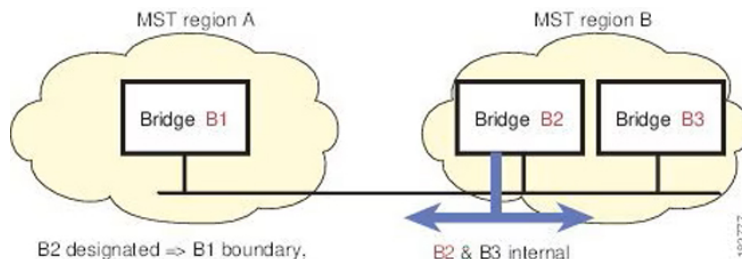
BPDU の 802.1w 部分に格納されているメッセージ有効期間および最大エージング タイムの情報は、領域全体で同じです (IST の場合のみ)。同じ値が、境界にある領域の指定ポートによって伝播されます。

最大エージング タイムは、デバイスがスパンニング ツリー 設定メッセージを受信せずに再設定を試行するまで待機する秒数です。

境界ポート

境界ポートは、LAN に接続されたポートで、その代表ブリッジは、MST 設定が異なるブリッジ (つまり、別の MST 領域)、または Rapid PVST+ や 802.1D STP スイッチのいずれかです。指定ポートは、STP ブリッジを検出するか、設定が異なる MST ブリッジまたは Rapid PVST+ ブリッジから合意提案を受信すると、境界にあることを認識します。この定義では、領域内部の 2 つのポートが、別の領域に属するポートとセグメントを共有でき、そのため内部メッセージおよび外部メッセージの両方をポートで受信する可能性があります。

Figure 13: MST 境界ポート



境界では、MST ポートのロールは問題ではなく、そのステートは強制的に IST ポート ステートと同じに設定されます。境界フラグがポートに対してオンに設定されている場合、MST ポートのロールの選択処理では、ポートのロールが境界に割り当てられ、同じステートが IST ポートのステートとして割り当てられます。境界にある IST ポートでは、バックアップ ポートのロール以外のすべてのポートのロールを引き継ぐことができます。

単方向リンク障害の検出 : MST

現在、IEEE MST 標準に単方向リンク障害の検出機能はありませんが、標準に準拠した実装には組み込まれています。この機能のベースとなるのは、異議メカニズムです。ソフトウェアは、受信した BPDU でポートのロールおよびステートの一貫性をチェックし、ブリッジンググループの原因となることがある単方向リンク障害を検出します。この機能は、異議メカニズムに基づいています。

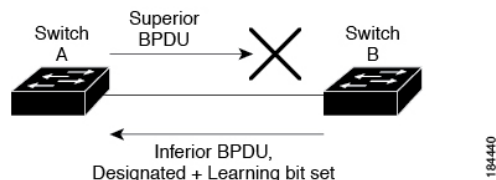


Note 単方向リンク検出 (UDLD) の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

指定ポートは、矛盾を検出すると、そのロールを維持しますが、廃棄ステートに戻ります。一貫性がない場合は、接続を中断した方がブリッジンググループを解決できるからです。

Figure 14: 単一方向リンク障害の検出

次の図に、ブリッジンググループの一般的な原因となる単方向リンク障害を示します。スイッチ A はルートブリッジであり、スイッチ B へのリンクで BPDU は失われます。Rapid PVST+ (802.1w) および MST BPDU には、送信側ポートの役割と状態が含まれます。この情報により、スイッチ B は送信される上位 BPDU に対して反応せず、スイッチ B はルートポートではなく指定ポートであることが、スイッチ A によって検出できます。この結果、スイッチ A は、そのポートをブロックし（またはブロックし続け）、ブリッジンググループが防止されます。



ポート コストとポート プライオリティ

スパニングツリーはポートコストを使用して、指定ポートを決定します。値が低いほど、ポートコストは小さくなります。スパニングツリーでは、最小のコストパスが選択されます。デフォルトポートコストは、次のように、インターフェイス帯域幅から取得されます。

- 1 ギガビット イーサネット : 20,000
- 10 ギガビット イーサネット : 2,000
- 40 ギガビット イーサネット : 500

ポートコストを設定すると、選択されるポートが影響を受けます。



Note MST では常にロングパスコスト計算方式が使用されるため、有効値は 1 ~ 200,000,000 です。

コストが同じポートを差別化するために、ポートプライオリティが使用されます。値が小さいほど、プライオリティが高いことを示します。デフォルトのポートの優先順位は128です。プライオリティは、0 ~ 224 の間の値に、32 ずつ増やして設定できます。

IEEE 802.1D との相互運用性

MST を実行するデバイスでは組み込みプロトコル移行機能がサポートされ、802.1D STP デバイスとの相互運用が可能になります。このデバイスで 802.1D コンフィギュレーション BPDU (プロトコルバージョンが 0 に設定されている BPDU) を受信する場合、そのポート上の 802.1D BPDU のみが送信されます。また、MST デバイスは、802.1D BPDU、別の領域に関連する MST BPDU (バージョン 3)、802.1w BPDU (バージョン 2) のうちいずれかを受信すると、ポートが領域の境界にあることを検出できます。

ただし、このデバイスは、802.1D BPDU を受信しなくなっても、MST モードに自動的に戻りません。802.1D デバイスが指定デバイスでない場合、802.1D デバイスがリンクから削除されたかどうかを検出できないからです。このデバイスの接続先デバイスが領域に加わったとき、デバイスは境界ロールをポートに割り当て続けることもあります。

プロトコル移行プロセスを再開する (強制的に隣接デバイスと再ネゴシエーションさせる) には、**clear spanning-tree detected-protocols** コマンドを入力します。

リンク上にあるすべての Rapid PVST+ スイッチ (およびすべての 802.1D STP スイッチ) では、MST BPDU を 802.1w BPDU の場合と同様に処理できます。MST デバイスは、バージョン 0 設定とトポロジ変更通知 (TCN) BPDU、またはバージョン 3 MST BPDU のどちらかを境界ポートで送信できます。境界ポートは LAN に接続します。つまり、単一スパニングツリー デバイスまたは MST 設定が異なるデバイスのいずれかである指定デバイスに接続します。

MST は、MST ポート上で先行標準 MSTP を受信するたびに、シスコの先行標準 MSTP と相互に動作します。明示的な設定は必要ありません。

また、インターフェイスを設定して、先行標準の MSTP メッセージを事前に送信することもできます。

MST のハイ アベイラビリティ

ソフトウェアはMSTに対してハイ アベイラビリティをサポートしています。ただし、MSTを再起動した場合、統計情報およびタイマーは復元されません。タイマーは最初から開始され、統計情報は0にリセットされます。

デバイスは、MSTに対して中断のない完全アップグレードをサポートします。中断のないアップグレードとハイ アベイラビリティ機能の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』を参照してください。

MST の前提条件

MST には次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。

MST の設定に関するガイドラインおよび制約事項



(注) VLAN/MSTI マッピングを変更すると、MST が再コンバージェンスされます。

MST 設定時のガイドラインと制約事項は次のとおりです。

- MST 設定制限については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Verified Scalability Guide』を参照してください。
- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- MST をイネーブルにする必要があります。Rapid PVST+ は、デフォルトのスパニングツリー モードです。
- VLAN は、一度に 1 つの MST インスタンスに対してのみ割り当てることができます。
- VLAN 3968 ~ 4095 は MST インスタンスにマッピングできません。これらの VLAN は、デバイスによる内部使用のために予約されています。
- 1 つのデバイスに最大 65 個の MST インスタンスを設定できます。
- デフォルトでは、すべての VLAN が MSTI 0 (IST) にマッピングされます。
- ロード バランスは、MST 領域の内部でのみ実行できます。
- MSTI にマッピングされたすべての VLAN が、トランクによって伝送されているか、または伝送から除外されていることを確認します。
- STP は常にイネーブルのままにしておきます。

- タイマーは変更しないでください。ネットワークの安定性が低下することがあります。
- ユーザ トラフィックを管理 VLAN から切り離し、管理 VLAN をユーザ データから分離します。
- プライマリおよびセカンダリ ルート スイッチの場所として、ディストリビューション レイヤおよびコア レイヤを選択します。
- ポート チャネリング：ポート チャネル バンドルは、単一ポートと見なされます。ポート コストは、そのチャネルに割り当てられている設定済みのすべてのポートコストの合計です。
- VLAN を MSTI にマッピングすると、この VLAN が以前の MSTI から自動的に削除されます。
- 1 つの MSTI に任意の個数の VLAN をマッピングできます。
- Rapid PVST+ と MST クラウド、または PVST+ と MST クラウドとの間でロード バランシングを実現するには、すべての MST 境界ポートがフォワーディング ステートでなければなりません。MST クラウドの CIST リージョナル ルートが CST のルートでなければなりません。MST クラウドが複数の MST 領域で構成されている場合、MST 領域の 1 つに CST ルートが含まれていなければならない、その他のすべての MST 領域では MST クラウド内に含まれるルートへのパスが、Rapid PVST+ または PVST+ クラウドよりも良好なものでなければなりません。
- ネットワークを多数の領域に分割しないでください。ただしこの状況を避けられない場合は、レイヤ 2 デバイスによって相互接続された、より小さい LAN にスイッチド LAN を分割することを推奨します。
- MST 設定サブモードの場合、次の注意事項が適用されます。
 - 各コマンド参照行により、保留中のリージョン設定が作成されます。
 - 保留中のリージョン設定により、現在のリージョン設定が開始されます。
 - 変更をコミットすることなく MST コンフィギュレーション サブモードを終了するには、**abort** コマンドを入力します。
 - MST コンフィギュレーション サブモードを終了し、サブモードを終了する前に行ったすべての変更をコミットするには、**exit** または **end** コマンドを入力するか、または **Ctrl + Z** キーを押します。



(注) このソフトウェアは、MST に対して中断のない完全アップグレードをサポートします。

MST のデフォルト設定

次の表に、MST パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 12: デフォルトの MST パラメータ

パラメータ	デフォルト
スパニングツリー	有効 (Enabled)
スパニング ツリー モード	Rapid PVST+ がデフォルトでイネーブル Caution スパニングツリーモードを変更すると、すべてのスパニングツリーインスタンスが前のモードで停止して新規モードで開始されるため、トラフィックが中断されます。
名前	空の文字列
VLAN マッピング	すべての VLAN を CIST インスタンスにマッピング
改定	0
[インスタンス ID (Instance ID)]	インスタンス 0。VLAN 1 ～ 3967 はデフォルトでインスタンス 0 にマッピングされます。
MST 領域あたりの MSTI 数	65
ブリッジプライオリティ (CIST ポート単位で設定可能)	32768
スパニングツリー ポート プライオリティ (CIST ポート単位で設定可能)	128
スパニングツリーポートコスト (CIST ポート単位で設定可能)	Auto デフォルトのポート コストは、次のように、ポート速度から判別されます。 • 1 ギガビット イーサネット : 20,000 • 10 ギガビット イーサネット : 2,000 • 40 ギガビット イーサネット : 500
hello タイム	2 秒
転送遅延時間	15 秒

パラメータ	デフォルト
最大エージング タイム	20 秒
最大ホップ カウント	20 ホップ
リンク タイプ	Auto デフォルトリンク タイプは、次のようにデュプレックスから判別されます。 • 全二重：ポイントツーポイント リンク • 半二重：共有リンク

MST の設定



Note Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能のシスコ ソフトウェア コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

MST のイネーブル化（CLI バージョン）

MST をイネーブルにできます。デフォルトは、Rapid PVST+ です。



Note スパニングツリー モードを変更すると、すべてのスパニングツリー インスタンスが前のモードで停止して新規モードで再開されるため、トラフィックが中断されます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mode mst** または **no spanning-tree mode mst.**
3. **exit**
4. (Optional) **show running-config spanning-tree all**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mode mst または no spanning-tree mode mst . Example: switch(config)# spanning-tree mode mst	• spanning-tree mode mst デバイスの MST をイネーブルにします。 • no spanning-tree mode mst デバイス上でMSTをディセーブルにして、Rapid PVST+ に戻します。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show running-config spanning-tree all Example: switch# show running-config spanning-tree all	現在稼働している STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイス上で MST をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mode mst
switch(config)# exit
switch#
```

MST コンフィギュレーション モードの開始

デバイスに MST 名、VLAN/インスタンス マッピング、および MST リビジョン番号を設定するには、MST コンフィギュレーション モードを開始します。

複数のデバイスが同じ MST 領域内にある場合は、これらのデバイスの MST 名、VLAN/インスタンス マッピング、および MST リビジョン番号を同一にする必要があります。



Note 各コマンド参照行により、MST コンフィギュレーション モードで保留中の領域設定が作成されます。さらに、保留中の領域設定により、現在の領域設定が開始されます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst configuration** または **no spanning-tree mst configuration**
3. **exit** または **abort**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst configuration または no spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst configuration switch(config-mst)#</pre>	• spanning-tree mst configuration システム上で、MST 設定サブモードを開始します。次の MST 設定パラメータを割り当てるには、MST 設定サブモードを開始しておく必要があります。 • MST 名 • VLAN/MSTI マッピング • MST リビジョン番号 • no spanning-tree mst configuration MST リージョン設定を次のデフォルト値に戻します。 • 領域名は空の文字列になります。 • VLAN は MSTI にマッピングされません（すべての VLAN は CIST インスタンスにマッピングされます）。 • リビジョン番号は 0 です。
ステップ 3	exit または abort	• exit

MST の名前の指定

	Command or Action	Purpose
	Example: <pre>switch(config-mst)# exit switch(config)#</pre>	すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスで MST コンフィギュレーションサブモードを開始する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# exit
switch(config)#
```

MST の名前の指定

ブリッジに領域名を設定できます。複数のブリッジが同じ MST 領域内にある場合は、これらのブリッジの MST 名、VLAN/インスタンス マッピング、および MST リビジョン番号を同一にする必要があります。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst configuration**
3. **name name**
4. **exit** または **abort**
5. (Optional) **show spanning-tree mst configuration**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst configuration switch(config-mst)#</pre>	MST コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	name name Example: <pre>switch(config-mst)# name accounting</pre>	MST 領域の名前を指定します。 <i>name</i> 文字列の最大の長さは 32 文字であり、大文字と小文字が区別されます。デフォルトは空の文字列です。
ステップ 4	exit または abort Example: <pre>switch(config-mst)# exit switch(config)#</pre>	• exit すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch# show spanning-tree mst configuration</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、MST リージョンの名前の設定方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# name accounting
switch(config-mst)# exit
switch(config)#
```

MST 設定のリビジョン番号の指定

リビジョン番号は、ブリッジ上に設定します。複数のブリッジが同じ MST 領域内にある場合は、これらのブリッジの MST 名、VLAN/インスタンス マッピング、および MST リビジョン番号を同一にする必要があります。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst configuration**

3. **revision** *version*
4. **exit** または **abort**
5. (Optional) **show spanning-tree mst configuration**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst configuration switch(config-mst)#</pre>	MST コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	revision <i>version</i> Example: <pre>switch(config-mst)# revision 5</pre>	MST リージョンのリビジョン番号を指定します。範囲は 0 ～ 65535 で、デフォルト値は 0 です。
ステップ 4	exit または abort Example: <pre>switch(config-mst)# exit switch(config)#</pre>	• exit すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch# show spanning-tree mst configuration</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、MSTI 領域のリビジョン番号を 5 に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# revision 5
switch(config-mst)#
```

MST リージョンでの設定の指定

2 台以上のデバイスを同一 MST 領域内に存在させるには、同じ VLAN からインスタンスへのマッピング、同じ構成リビジョン番号、および同じ MST の名前が設定されている必要があります。

領域には、同じ MST 設定の 1 つのメンバまたは複数のメンバを存在させることができます。各メンバでは、IEEE 802.1w RSTP BPDU を処理する必要があります。ネットワーク内の MST リージョンには、数の制限はありませんが、各リージョンでは、最大 65 までのインスタンスをサポートできます。VLAN は、一度に 1 つの MST インスタンスに対してのみ割り当てることができます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst configuration**
3. **instance instance-id vlan vlan-range**
4. **name name**
5. **revision version**
6. **exit** または **abort**
7. **show spanning-tree mst configuration**
8. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst configuration Example: switch(config)# spanning-tree mst configuration switch(config-mst)#	MST コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	instance instance-id vlan vlan-range Example: switch(config-mst)# instance 1 vlan 10-20	VLAN を MST インスタンスにマッピングする手順は、次のとおりです。 • <i>instance-id</i> の範囲は 1 ～ 4094 です。

	Command or Action	Purpose
		• vlan の場合 <i>vlan-range</i> の範囲は 1 ～ 3967 です。VLAN を MSTI にマップする場合、マッピングは増加され、コマンドに指定した VLAN は、以前マッピングした VLAN に追加されるか、そこから削除されます。 VLAN 範囲を指定する場合は、ハイフンを使用します。たとえば、instance 1 vlan 1-63 とコマンドを入力すると、MST インスタンス 1 に VLAN 1 ～ 63 がマッピングされます。 複数の VLAN を指定する場合はカンマで区切ります。たとえば、instance 1 vlan 10, 20, 30 と指定すると、MST インスタンス 1 に VLAN 10、20、および 30 がマッピングされます。
ステップ 4	name name Example: <pre>switch(config-mst)# name region1</pre>	インスタンス名を指定します。name スtring には最大 32 文字まで使用でき、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 5	revision version Example: <pre>switch(config-mst)# revision 1</pre>	設定リビジョン番号を指定します。範囲は 0 ～ 65535 です。
ステップ 6	exit または abort Example: <pre>switch(config-mst)# exit switch(config)#</pre>	• exit すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 7	show spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch# show spanning-tree mst configuration</pre>	(任意) MST 設定を表示します。
ステップ 8	copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、MST コンフィギュレーションモードを開始し、VLAN 10 ～ 20 を MSTI 1 にマッピングし、リージョンに *region1* という名前を付けて、設定リビジョンを 1 に設

定し、保留中の設定を表示し、変更を適用してグローバル コンフィギュレーション モードに戻る方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# instance 1 vlan 10-20
switch(config-mst)# name region1
switch(config-mst)# revision 1
switch(config-mst)# exit
switch(config)# show spanning-tree mst configuration

Name          [region1]
Revision      1
Instances     configured 2
Instance      Vlans Mapped
-----
0             1-9,21-4094
1             10-20
-----
switch(config)#
```

VLAN と MST インスタンスのマッピングおよびマッピング解除 (CLI バージョン)

複数のブリッジが同じ MST 領域内にある場合は、これらのブリッジの MST 名、VLAN/インスタンス マッピング、および MST リビジョン番号を同一にする必要があります。

VLAN 3968 ～ 4095 は MST インスタンスにマッピングできません。これらの VLAN は、デバイスによる内部使用のために予約されています。



Note VLAN/MSTI マッピングを変更すると、MST が再コンバージェンスされます。



Note MSTI はディセーブルにできません。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst configuration**
3. **instance** *instance-id* **vlan** *vlan-range* or **no instance** *instance-id* **vlan** *vlan-range*
4. **exit** または **abort**
5. (Optional) **show spanning-tree mst configuration**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst configuration switch(config-mst)#</pre>	MST コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	instance instance-id vlan vlan-range or no instance instance-id vlan vlan-range Example: <pre>switch(config-mst)# instance 3 vlan 200</pre>	• instance instance-id vlan vlan-range VLAN を MST インスタンスにマッピングする手順は、次のとおりです。 • <i>instance_id</i> の範囲は 1 ～ 4094 です。インスタンス 0 は、各 MST リージョンでの IST 用に予約されています。 • <i>vlan-range</i> の範囲は 1 ～ 3967 です。 VLAN を MSTI にマッピングすると、マッピングは差分で実行され、コマンドで指定された VLAN が、以前マッピングされた VLAN に追加または VLAN から削除されます。 • no instance instance-id vlan vlan-range 指定したインスタンスを削除し、VLAN を、デフォルト MSTI である CIST に戻します。
ステップ 4	exit または abort Example: <pre>switch(config-mst)# exit switch(config)#</pre>	• exit すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst configuration Example: <pre>switch# show spanning-tree mst configuration</pre>	MST の設定を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、VLAN 200 を MSTI 3 にマッピングする方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# instance 3 vlan 200
switch(config-mst)# exit
switch(config)#
```

ルートブリッジの設定

MST ルートブリッジになるデバイスを設定できます。

spanning-tree vlan *vlan_ID* primary root ルートブリッジになるために必要な値が 4096 より小さい場合は、このコマンドは機能しません。ソフトウェアでブリッジプライオリティをそれ以上低くできない場合、デバイスは次のメッセージを返します。

```
Error: Failed to set root bridge for VLAN 1
It may be possible to make the bridge root by setting the priority
for some (or all) of these instances to zero.
```



Note

各 MSTI のルートブリッジは、バックボーンまたはディストリビューション デバイスである必要があります。アクセス デバイスは、スパンニングツリーのプライマリ ルートブリッジとして設定しないでください。

diameter を入力します。レイヤ 2 ネットワークの直径（レイヤ 2 ネットワーク上の任意の 2 台の端末間における最大レイヤ 2 ホップ カウント）を指定するには、MSTI 0（IST）専用のキーワードを入力します。ネットワーク直径を指定すると、デバイスは、その直径のネットワークで最適な hello タイム、転送遅延時間、最大エージング タイムを自動的に設定し、これによって収束時間が大幅に短縮されます。**hello** キーワードを使用して、自動的に計算される hello タイムをオーバーライドできます。



Note

ルートブリッジとして設定されたデバイスで、以下のコマンドを使用して、hello タイム、転送遅延時間、最大エージング タイムを手動で設定しないでください。**spanning-tree mst hello-timespanning-tree mst forward-time**、および **spanning-tree mst max-age** グローバル コンフィギュレーション コマンド。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst instance-id root {primary | secondary} [diameter dia [hello-time hello-time]]**
or **no spanning-tree mst instance-id root**
3. **exit** または **abort**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst instance-id root {primary secondary} [diameter dia [hello-time hello-time]] or no spanning-tree mst instance-id root Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst 5 root primary</pre>	• spanning-tree mst instance-id root {primary secondary} [diameter dia [hello-time hello-time]] 次のようにルートブリッジとしてデバイスを設定します。 • instance-id には、単一のインスタンス、ハイフンで区切られた範囲のインスタンス、またはカンマで区切られた一連のインスタンスを指定します。範囲は 1～4094 です。 • diameter net-diameter には、任意の 2 つのエンドステーション間にレイヤ 2 ホップの最大数を指定します。デフォルトは 7 です。このキーワードは、MSTI インスタンス 0 の場合にのみ使用できます。 • hello-time には seconds には、ルートブリッジが設定メッセージを生成するインターバルを秒単位で指定します。有効範囲は 1～10 秒で、デフォルトは 2 秒です。 • no spanning-tree mst instance-id root スイッチのプライオリティ、範囲、hello タイムをデフォルト値に戻します。
ステップ 3	exit または abort Example:	• exit

	Command or Action	Purpose
	<pre>switch(config)# exit switch#</pre>	すべての変更をコミットし、MST 設定サブモードを終了します。 • abort いずれの変更もコミットすることなく、MST 設定サブモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: <pre>switch# show spanning-tree mst</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスを MSTI 5 のルート スイッチに設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst 5 root primary
switch(config)# exit
switch(config)#
```

MST セカンダリ ルート ブリッジの設定

複数のバックアップ ルート ブリッジを設定するには、複数のデバイスでこのコマンドを使用します。 **spanning-tree mst root primary** グローバル コンフィギュレーション コマンドでプライマリ ルート ブリッジを設定したときに使用したのと同じネットワーク直径と hello タイムの値を入力します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst instance-id root {primary | secondary} [diameter dia[hello-time hello-time]]**
or **no spanning-tree mst instance-id root**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst instance-id root {primary secondary} [diameter dia[hello-time hello-time]] or no spanning-tree mst instance-id root Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst 5 root secondary</pre>	• spanning-tree mst instance-id root {primary secondary} [diameter dia[hello-time hello-time]] 次のようにセカンダリ ルート ブリッジとして デバイスを設定します。 • instance-id には、単一のインスタンス、ハイフンで区切られた範囲のインスタンス、またはカンマで区切られた一連のインスタンスを指定できます。範囲は 1 ～ 4094 です。 • diameter net-diameter には、任意の 2 つのエンドステーション間にレイヤ 2 ホップの最大数を指定します。デフォルトは 7 です。このキーワードは、MSTI インスタンス 0 の場合にのみ使用できます。 • hello-time には <i>seconds</i> には、ルートブリッジが設定メッセージを生成するインターバルを秒単位で指定します。有効範囲は 1 ～ 10 秒で、デフォルトは 2 秒です。 • no spanning-tree mst instance-id root スイッチのプライオリティ、範囲、hello タイムをデフォルト値に戻します。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch# exit switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: <pre>switch# show spanning-tree mst</pre>	MST の設定を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスを MSTI 5 のセカンダリ ルートスイッチに設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst 5 root secondary
switch(config)# exit
switch#
```

MST スイッチ プライオリティの設定

MST インスタンスのスイッチ プライオリティを設定し、指定デバイスがルート ブリッジとして選択される可能性を高めることができます。



Note

spanning-tree mst priority コマンドを使用するときは注意してください。 コマンドを使用します。ほとんどの場合、**spanning-tree mst root primary**を入力することを推奨します。 および **spanning-tree mst root secondary** スイッチ プライオリティを変更するためにグローバル設定コマンドを使用します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst *instance-id* priority *priority-value***
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	spanning-tree mst instance-id priority priority-value Example: <pre>switch(config)# spanning-tree mst 5 priority 4096</pre>	次のようにデバイスプライオリティを設定します。 • <i>instance-id</i> には、単一のインスタンス、ハイフンで区切られた範囲のインスタンス、またはカンマで区切られた一連のインスタンスを指定できます。範囲は 1 ～ 4094 です。 • <i>priority-value</i> の範囲は 0 ～ 61440 で、4096 ずつ増加します。デフォルト値は 32768 です。数値を小さくすると、ルートブリッジとしてデバイスが選択される可能性が高くなります。 使用可能な値は、0、4096、8192、12288、16384、20480、24576、28672、32768、36864、40960、45056、49152、53248、57344、61440 です。システムでは、他のすべての値が拒否されます。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: <pre>switch# show spanning-tree mst</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、MSTI 5 のブリッジのプライオリティを 4096 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst 5 priority 4096
switch(config)# exit
switch#
```

MST ポート プライオリティの設定

ループが発生する場合、MST は、フォワーディング ステートにするインターフェイスを選択するとき、ポートプライオリティを使用します。最初に選択させるインターフェイスには低い

プライオリティの値を割り当て、最後に選択させるインターフェイスには高いプライオリティの値を割り当てることができます。すべてのインターフェイスのプライオリティ値が同一である場合、MSTはインターフェイス番号が最も低いインターフェイスをフォワーディングステートにして、その他のインターフェイスをブロックします。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *{{type slot/port} | {port-channel number}}*
3. **spanning-tree mst instance-id port-priority priority**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree mst**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface <i>{{type slot/port} {port-channel number}}</i> Example: switch(config)# interface ethernet 3/1 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree mst instance-id port-priority priority Example: switch(config-if)# spanning-tree mst 3 port-priority 64	次のように、ポートのプライオリティを設定します。 • <i>instance-id</i> には、1 つの MSTI、それぞれをハイフンで区切った MSTI の範囲、またはカンマで区切った一連の MSTI を指定できます。範囲は 1 ～ 4094 です。 • <i>priority</i> の範囲は 0 ～ 224 で、32 ずつ増加します。デフォルト値は 128 です。値が小さいほど、プライオリティが高いことを示します。 プライオリティ値は、0、32、64、96、128、160、192、224 です。システムでは、他のすべての値が拒否されます。
ステップ 4	exit Example:	インターフェイス モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	switch(config-if)# exit switch(config)#	
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst Example: switch# show spanning-tree mst	MST の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、イーサネット ポート 3/1 で MSTI 3 の MST インターフェイス ポート プライオリティを 64 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 3/1
switch(config-if)# spanning-tree mst 3 port-priority 64
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

MST ポートコストの設定

MST ポートコストのデフォルト値は、インターフェイスのメディア速度から抽出されます。ループが発生した場合、MST は、コストを使用して、フォワーディング ステートにするインターフェイスを選択します。最初に選択させるインターフェイスには小さいコストの値を割り当て、最後に選択させるインターフェイスの値には大きいコストを割り当てることができません。すべてのインターフェイスのコスト値が同一である場合、MST はインターフェイス番号が最も低いインターフェイスをフォワーディングステートにして、その他のインターフェイスをブロックします。



Note MST はロング パスコスト計算方式を使用します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *{{type slot/port}} | {{port-channel number}}*
3. **spanning-tree mst instance-id cost** *{cost | auto}*
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree mst**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface {{type slot/port}} {port-channel number}} Example: <pre>switch# config t switch(config)# interface ethernet 3/1 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree mst instance-id cost {cost auto} Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree mst 4 cost 17031970</pre>	コストを設定します。 ループが発生した場合、MST はパス コストを使用して、フォワーディング ステートにするインターフェイスを選択します。パス コストが小さいほど、送信速度が速いことを示します。 • instance-id には、単一のインスタンス、ハイフンで区切られた範囲のインスタンス、またはカンマで区切られた一連のインスタンスを指定できます。範囲は 1 ～ 4094 です。 • cost の範囲は 1 ～ 2000000000 です。デフォルト値は auto で、インターフェイスのメディア速度から取得されるものです。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst Example: <pre>switch# show spanning-tree mst</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、イーサネット ポート 3/1 で MSTI 4 の MST インターフェイス ポート コストを設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 3/1
switch(config-if)# spanning-tree mst 4 cost 17031970
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

MST hello タイムの設定

デバイス上のすべてのインスタンスに対してルートブリッジが作成する設定メッセージの間隔を設定するには、hello タイムを変更します。



Note **spanning-tree mst hello-time** コマンドを使用するときは注意してください。ほとんどの場合、hello タイムを変更するには、**spanning-tree mst instance-id root primary** および **spanning-tree mst instance-id root secondary** のグローバル コンフィギュレーション コマンドの使用を推奨します。

SUMMARY STEPS

- 1. **config t**
- 2. **spanning-tree mst hello-time seconds**
- 3. **exit**
- 4. (Optional) **show spanning-tree mst**
- 5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst hello-time seconds Example: switch(config)# spanning-tree mst hello-time 1	すべての MST インスタンスについて、hello タイムを設定します。hello タイムは、ルートブリッジが設定メッセージを生成する時間です。これらのメッセージは、デバイスが動作していることを示しま

	Command or Action	Purpose
		す。seconds の範囲は 1 ～ 10 で、デフォルトは 2 秒です。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: <pre>switch# show spanning-tree mst</pre>	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスの hello タイムを 1 秒に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst hello-time 1
switch(config)# exit
switch#
```

MST 転送遅延時間の設定

デバイスのすべての MST インスタンスの転送遅延時間を 1 つのコマンドで設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst forward-time seconds**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example:	コンフィギュレーション モードに入ります。

MST 最大エージング タイムの設定

	Command or Action	Purpose
	switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	spanning-tree mst forward-time <i>seconds</i> Example: switch(config)# spanning-tree mst forward-time 10	すべての MST インスタンスについて、転送時間を設定します。転送遅延は、スパニングツリーブロッキングステートとラーニングステートからフォワーディングステートに変更する前に、ポートが待つ秒数です。 <i>seconds</i> の範囲は 4 ～ 30 で、デフォルトは 15 秒です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: switch# show spanning-tree mst	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスの転送遅延時間を 10 秒に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst forward-time 10
switch(config)# exit
switch#
```

MST 最大エージング タイムの設定

デバイスのすべての MST インスタンスの最大エージング タイマーを 1 つのコマンドで設定できます（最大エージング タイムが適用されるのは IST のみです）。

最大エージング タイマーは、デバイスがスパニングツリー設定メッセージを受信せずに再設定を試行するまで待機する秒数です。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst max-age** *seconds*
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst max-age seconds Example: switch(config)# spanning-tree mst max-age 40	すべての MST インスタンスについて、最大経過時間を設定します。最大エージングタイムは、デバイスがスパニングツリー設定メッセージを受信せずに再設定を試行するまで待機する秒数です。 <i>seconds</i> の範囲は 6 ～ 40 で、デフォルトは 20 秒です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: switch# show spanning-tree mst	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、デバイスの最大エージング タイマーを 40 秒に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst max-age 40
switch(config)# exit
switch#
```

MST 最大ホップ カウントの設定

領域内の最大ホップを設定し、それをその領域内にある IST およびすべての MST インスタンスに適用できます。MST では、IST リージョナルルートへのパス コストと、IP の存続可能時間 (TTL) メカニズムに類似したホップ カウント メカニズムが、使用されます。ホップ カウントを設定すると、メッセージエージ情報を設定するのと同様の結果が得られます (再構成の開始時期を決定します)。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree mst max-hops hop-count**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree mst**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree mst max-hops hop-count Example: switch(config)# spanning-tree mst max-hops 40	BPDU が廃棄され、ポートに維持されていた情報が期限切れになるまでの、領域内でのホップカウントを指定します。 <i>hop-count</i> の範囲は 1 ～ 255 で、デフォルト値は 20 ホップです。
ステップ 3	exit Example: switch(config-mst)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree mst Example: switch# show spanning-tree mst	MST の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、最大ホップ カウントを 40 に設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree mst max-hops 40
switch(config)# exit
switch#
```

先行標準 MSTP メッセージを事前に送信するインターフェイスの設定 (CLI バージョン)

デフォルトで、MST を実行中のデバイス上のインターフェイスは、別のインターフェイスから先行標準 MSTP メッセージを受信したあと、標準ではなく先行標準の MSTP メッセージを送信します。インターフェイスを設定して、先行標準の MSTP メッセージを事前に送信できます。つまり、指定されたインターフェイスは、先行標準 MSTP メッセージの受信を待機する必要がなく、この設定のインターフェイスは常に先行標準 MSTP メッセージを送信します。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *type slot/port*
3. **spanning-tree mst pre-standard**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree mst**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface <i>type slot/port</i> Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree mst pre-standard Example: switch(config-if)# spanning-tree mst pre-standard	インターフェイスが MSTP 標準形式ではなく、先行標準形式の MSTP メッセージを常に送信するように指定します。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree mst Example: switch# show spanning-tree mst	MST の設定を表示します。

MST のリンク タイプの指定 (CLI バージョン)

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、MSTP メッセージを常に先行標準形式で送信するように、MST インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch (config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree mst pre-standard
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

MST のリンク タイプの指定 (CLI バージョン)

Rapid の接続性 (802.1w 規格) は、ポイントツーポイントのリンク上でのみ確立されます。リンク タイプは、デフォルトでは、インターフェイスのデュプレックス モードから制御されます。全二重ポートはポイントツーポイント接続であると見なされ、半二重ポートは共有接続であると見なされます。

リモートデバイスの単一ポートに、ポイントツーポイントで物理的に接続されている半二重リンクがある場合、リンク タイプのデフォルト設定を上書きして高速移行をイネーブルにできます。

リンクを共有に設定すると、STP は 802.1D にフォールバックします。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **spanning-tree link-type {auto | point-to-point | shared}**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example:	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
	switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	interface <i>type slot/port</i> Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree link-type { <i>auto</i> <i>point-to-point</i> <i>shared</i> } Example: switch(config-if)# spanning-tree link-type point-to-point	リンク タイプを、ポイントツーポイント インクまたは共有リンクに設定します。デフォルト値はデバイス接続から読み取られ、半二重リンクは共有、全二重リンクはポイントツーポイントです。リンクタイプが共有の場合、STP は 802.1D にフォールバックします。デフォルトは <i>auto</i> で、インターフェイスのデュプレックス設定に基づいてリンクタイプが設定されます。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree Example: switch# show spanning-tree	STP の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次の例は、リンク タイプをポイントツーポイントリンクとして設定する方法を示しています。

```
switch# config t
switch (config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree link-type point-to-point
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

MST 用のプロトコルの再初期化

MSTブリッジでは、レガシー BPDU または異なるリージョンに関連付けられている MSTBPDU を受信するときに、ポートがリージョンの境界にあることを検出できます。ただし、STP プロトコルを移行しても、レガシー デバイス (IEEE 802.1D だけが稼働するデバイス) が代表ス

イッチでないかぎり、レガシーデバイスがリンクから削除されたかどうかを判別することはできません。デバイス全体で、または指定されたインターフェイスでプロトコルネゴシエーションを再初期化する（ネイバーデバイスとの再ネゴシエーションを強制的に行う）には、次のコマンドを入力します。

SUMMARY STEPS

1. **clear spanning-tree detected-protocol** [**interface** *interface* [*interface-num* | *port-channel*]]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	clear spanning-tree detected-protocol [interface <i>interface</i> [<i>interface-num</i> <i>port-channel</i>]] Example: switch# clear spanning-tree detected-protocol	デバイス全体または指定されたインターフェイスで、MST を再初期化します。

Example

次に、スロット 2 のイーサネットインターフェイスのポート 8 で、MST を再初期化する例を示します。

```
switch# clear spanning-tree detected-protocol interface ethernet 2/8
```

MST の設定の確認

MST 設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を実行します。

コマンド	目的
show running-config spanning-tree [all]	STP 情報を表示します。
show spanning-tree mst configuration	MST 情報を表示します。
show spanning-tree mst [detail]	MST インスタンスの情報を表示します。
show spanning-tree mstinstance-id [detail]	指定された MST インスタンスに関する情報を表示します。
show spanning-tree mst instance-id interface { ethernet slot/port port-channel channel-number } [detail]	指定したインターフェイスおよびインスタンスの MST 情報を表示します。
show spanning-tree summary	STP の概要を表示します。

コマンド	目的
show spanning-tree detail	STP の詳細を表示します。
show spanning-tree {vlan vlan-id interface {ethernet slot/port} [port-channel channel-number]} [detail]	VLAN またはインターフェイス単位の STP 情報を表示します。
show spanning-tree vlan vlan-id bridge	STP ブリッジの情報を表示します。

MST 統計情報の表示およびクリア (CLI バージョン)

MST 設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を実行します。

コマンド	目的
clear spanning-tree counters [interface type slot/port vlan vlan-id]	STP のカウンタをクリアします。
show spanning-tree {vlan vlan-id interface {ethernet slot/port} [port-channel channel-number]} detail	送受信された BPDU などの STP 情報を、インターフェイスまたは VLAN 別に表示します。

MST の設定例

次に、MST を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# spanning-tree mode mst
switch(config)# spanning-tree port type edge bpduguard default
switch(config)# spanning-tree port type edge bpdufilter default
switch(config)# spanning-tree port type network default
switch(config)# spanning-tree mst 0-64 priority 24576
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# name cisco_region_1
switch(config-mst)# revision 2
switch(config-mst)# instance 1 vlan 1-21
switch(config-mst)# instance 2 vlan 22-42
switch(config-mst)# instance 3 vlan 43-63
switch(config-mst)# instance 4 vlan 64-84
switch(config-mst)# instance 5 vlan 85-105
switch(config-mst)# instance 6 vlan 106-126
switch(config-mst)# instance 6 vlan 106-126
switch(config-mst)# instance 7 vlan 127-147
switch(config-mst)# instance 8 vlan 148-168
switch(config-mst)# instance 9 vlan 169-189
switch(config-mst)# instance 10 vlan 190-210
switch(config-mst)# instance 11 vlan 211-231
switch(config-mst)# instance 12 vlan 232-252
switch(config-mst)# instance 13 vlan 253-273
switch(config-mst)# instance 14 vlan 274-294
```

```

switch(config-mst)# instance 15 vlan 295-315
switch(config-mst)# instance 16 vlan 316-336
switch(config-mst)# instance 17 vlan 337-357
switch(config-mst)# instance 18 vlan 358-378
switch(config-mst)# instance 19 vlan 379-399
switch(config-mst)# instance 20 vlan 400-420
switch(config-mst)# instance 21 vlan 421-441
switch(config-mst)# instance 22 vlan 442-462
switch(config-mst)# instance 23 vlan 463-483
switch(config-mst)# instance 24 vlan 484-504
switch(config-mst)# instance 25 vlan 505-525
switch(config-mst)# instance 26 vlan 526-546
switch(config-mst)# instance 27 vlan 547-567
switch(config-mst)# instance 28 vlan 568-588
switch(config-mst)# instance 29 vlan 589-609
switch(config-mst)# instance 30 vlan 610-630
switch(config-mst)# instance 31 vlan 631-651
switch(config-mst)# instance 32 vlan 652-672
switch(config-mst)# instance 33 vlan 673-693
switch(config-mst)# instance 34 vlan 694-714
switch(config-mst)# instance 35 vlan 715-735
switch(config-mst)# instance 36 vlan 736-756
switch(config-mst)# instance 37 vlan 757-777
switch(config-mst)# instance 38 vlan 778-798
switch(config-mst)# instance 39 vlan 799-819
switch(config-mst)# instance 40 vlan 820-840
switch(config-mst)# instance 41 vlan 841-861
switch(config-mst)# instance 42 vlan 862-882
switch(config-mst)# instance 43 vlan 883-903
switch(config-mst)# instance 44 vlan 904-924
switch(config-mst)# instance 45 vlan 925-945
switch(config-mst)# instance 46 vlan 946-966
switch(config-mst)# instance 47 vlan 967-987
switch(config-mst)# instance 48 vlan 988-1008
switch(config-mst)# instance 49 vlan 1009-1029
switch(config-mst)# instance 50 vlan 1030-1050
switch(config-mst)# instance 51 vlan 1051-1071
switch(config-mst)# instance 52 vlan 1072-1092
switch(config-mst)# instance 53 vlan 1093-1113
switch(config-mst)# instance 54 vlan 1114-1134
switch(config-mst)# instance 55 vlan 1135-1155
switch(config-mst)# instance 56 vlan 1156-1176
switch(config-mst)# instance 57 vlan 1177-1197
switch(config-mst)# instance 58 vlan 1198-1218
switch(config-mst)# instance 59 vlan 1219-1239
switch(config-mst)# instance 60 vlan 1240-1260
switch(config-mst)# instance 61 vlan 1261-1281
switch(config-mst)# instance 62 vlan 1282-1302
switch(config-mst)# instance 63 vlan 1303-1323
switch(config-mst)# instance 64 vlan 1324-1344
switch(config-mst)# exit

switch(config)# interface ethernet 3/1
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# exit

switch(config)# interface ethernet 3/2
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# no shutdown

```

```
switch(config-if)# spanning-tree guard root
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

MST の追加情報 (CLI バージョン)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
レイヤ 2 インターフェイス	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
NX-OS の基礎	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
高可用性	『Cisco Nexus 9000 Series High Availability and Redundancy Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

標準

標準	タイトル
IEEE 802.1Q-2006 (旧称 IEEE 802.1s) 、IEEE 802.1D-2004 (旧称 IEEE 802.1w) 、IEEE 802.1D、IEEE 802.1t	—

MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-STP-EXTENSION-MIB BRIDGE-MIB	MIB を検索およびダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。 ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/nexus9000/Nexus9000MIBSupportList



第 11 章

Cisco NX-OS を使用した STP 拡張の設定

- STP 拡張機能について, on page 197
- STP 拡張機能の前提条件, on page 204
- STP 拡張機能の設定に関するガイドラインおよび制約事項, on page 204
- STP 拡張機能のデフォルト設定, on page 206
- STP 拡張機能の設定手順, on page 206
- STP 拡張機能の設定の確認, on page 227
- STP 拡張機能の設定例, on page 227
- STP 拡張機能の追加情報 (CLI バージョン) , on page 228

STP 拡張機能について



Note レイヤ 2 インターフェイスの作成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

ループ回避を改善し、ユーザによる設定ミスを削減し、プロトコルパラメータの制御を向上するために、シスコは STP に拡張機能を追加しました。IEEE 802.1w 高速スパンニングツリープロトコル (RSTP) 規格に同様の機能が統合されていることも考えられますが、ここで紹介する拡張機能を使用することを推奨します。PVST シミュレーションを除き、これらの拡張機能はすべて、Rapid PVST+ および MST の両方で使用できます。PVST シミュレーションを使用できるのは、MST だけです。

使用できる拡張機能は、スパンニングツリー エッジポート (従来の PortFast の機能を提供)、ブリッジ保証、BPDU ガード、BPDU フィルタリング、ループ ガード、ルート ガード、および PVT シミュレーションです。これらの機能の大部分は、グローバルに、または指定インターフェイスに適用できます。



Note このマニュアルでは、IEEE 802.1w および IEEE 802.1s を指す用語として、「スパンニングツリー」を使用します。IEEE 802.1D STP について説明している箇所では、802.1D と明記します。

STP ポート タイプ

スパニングツリー ポートは、エッジポート、ネットワーク ポート、または標準ポートとして構成できます。ポートは、ある一時点において、これらのうちいずれか 1 つの状態をとります。デフォルトのスパニングツリー ポート タイプは「標準」です。

レイヤ 2 ホストに接続するエッジポートは、アクセスポートまたはトランクポートのどちらかになります。



Note レイヤ 2 スイッチまたはブリッジに接続しているポートをエッジポートとして設定すると、ブリッジンググループが発生することがあります。

ネットワークポートは、レイヤ 2 スイッチまたはブリッジだけに接続します。



Note レイヤ 2 ホストまたはエッジデバイスに接続されたポートを、誤ってスパニングツリー ネットワークポートとして設定した場合、これらのポートは自動的にブロッキングステートに移行します。

STP エッジポート

STP エッジポートは、レイヤ 2 ホストだけに接続します。エッジポートインターフェイスは、ブロッキングステートやラーニングステートを經由することなく、フォワーディングステートに直接移行します（この直接移行動作は、以前は、シスコ独自の機能 **PortFast** として設定していました）。

レイヤ 2 ホストに接続したインターフェイスでは、STP のブリッジプロトコルデータユニット（BPDU）を受信しないようにします。

Bridge Assurance

Bridge Assurance を使用すると、ネットワーク内でブリッジンググループの原因となる問題の発生を防ぐことができます。具体的には、Bridge Assurance を使用して、単方向リンク障害または他のソフトウェア障害、およびスパニングツリーアルゴリズムの停止後もデータトラフィックを転送し続けているデバイスから、ネットワークを保護します。



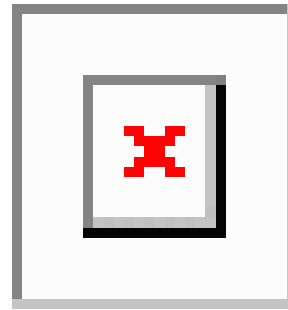
Note Bridge Assurance は、Rapid PVST+ および MST だけでサポートされています。
Bridge Assurance は通常リンクでの作動に 2 秒、VPC ピアリンクでは 84 秒以下かかります。

Bridge Assurance はデフォルトでイネーブルになっており、グローバル単位でだけディセーブルにできます。また、Bridge Assurance をイネーブルにできるのは、ポイントツーポイントリンクに接続されたスパニングツリー ネットワークポートだけです。Bridge Assurance は必ず、

リンクの両端でイネーブルにする必要があります。リンクの一端のデバイスで Bridge Assurance がイネーブルであっても、他端のデバイスが Bridge Assurance をサポートしていない、または Bridge Assurance がイネーブルではない場合、接続ポートはブロックされます。

Bridge Assurance をイネーブルにすると、BPDU が hello タイムごとに、動作中のすべてのネットワーク ポート（代替ポートとバックアップ ポートを含む）に送出されます。所定の期間 BPDU を受信しないポートは、ブロッキング ステートに移行し、ルート ポートの決定に使用されなくなります。BPDU を再度受信するようになると、そのポートで通常のスパニングツリー状態遷移が再開されます。

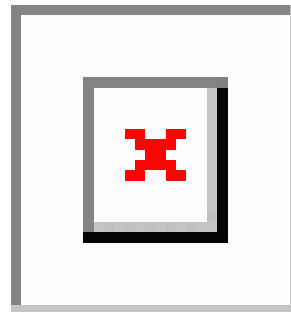
Figure 15: 標準的な STP トポロジのネットワーク



次の図は、標準的な STP トポロジを示しています。

Figure 16: Bridge Assurance を実行していないネットワークの問題

次の図は、Bridge Assurance を実行していない場合、デバイスの障害発生時にネットワークで



発生する可能性のある問題を示しています。

Figure 17: Bridge Assurance を実行しているネットワークの STP トポロジ

次の図は、Bridge Assurance がイネーブルになっているネットワークで、すべての STP ネットワーク ポートから双方向 BPDU が発行される一般的な STP トポロジを示しています。

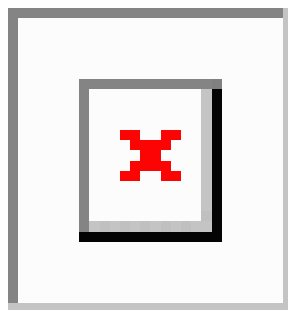
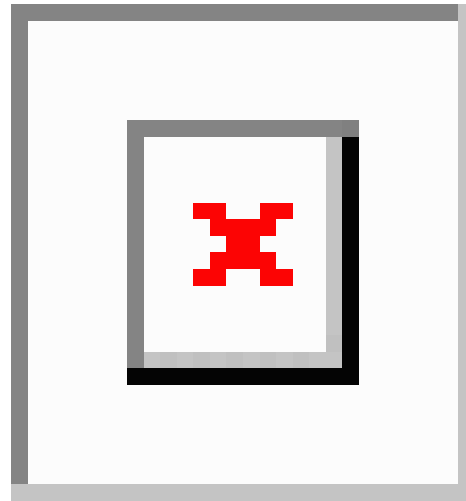


Figure 18: Bridge Assurance によるネットワーク上の問題の回避

次の図は、ネットワーク上で Bridge Assurance をイネーブルにした場合に、ネットワーク上の



問題が発生しない理由を示しています。

BPDU ガード

BPDU ガードをイネーブルにすると、BPDU を受信したときにそのインターフェイスがシャットダウンされます。

BPDU ガードはインターフェイス レベルで設定できます。BPDU ガードをインターフェイス レベルで設定すると、そのポートはポート タイプ設定にかかわらず BPDU を受信するとすぐにシャットダウンされます。

BPDU ガードをグローバル単位で設定すると、動作中のスパニングツリー エッジポート上だけで有効となります。有効な設定では、レイヤ 2 LAN エッジインターフェイスは BPDU を受信しません。レイヤ 2 LAN エッジインターフェイスが BPDU を受信した場合、許可されていないデバイスの接続と同様に、無効な設定として通知されます。BPDU ガードをグローバル単位でイネーブルにすると、BPDU を受信したすべてのスパニングツリーエッジポートがシャットダウンされます。

BPDU ガードでは、無効な設定が通知された場合、レイヤ 2 LAN インターフェイスを手動で再起動させる必要があるため、無効な設定に対して安全に対応できます。



Note BPDU ガードをグローバル単位でイネーブルにすると、動作中のすべてのスパニングツリーエッジインターフェイスに適用されます。

BPDU フィルタリング

BPDU フィルタリングを使用すると、デバイスの特定のポート上で BPDU が送信されないように、または BPDU を受信しないように設定できます。

グローバルに設定された BPDU フィルタリングは、動作中のすべてのスパニングツリー エッジポートに適用されます。エッジポートはホストだけに接続してください。ホストでは通常、BPDU は破棄されます。動作中のスパニングツリー エッジポートが BPDU を受信すると、ただちに標準のスパニングツリー ポート タイプに戻り、通常のポート状態遷移が行われます。その場合、当該ポートで BPDU フィルタリングはディセーブルとなり、スパニングツリーによって、同ポートでの BPDU の送信が再開されます。

BPDU フィルタリングは、インターフェイスごとに設定することもできます。BPDU フィルタリングを特定のポートに明示的に設定すると、そのポートは BPDU を送出しなくなり、受信した BPDU をすべてドロップします。特定のインターフェイスを設定することによって、個々のポート上のグローバルな BPDU フィルタリングの設定を実質的に上書きできます。このようにインターフェイスに対して実行された BPDU フィルタリングは、そのインターフェイスがトラッキングであるか否かに関係なく、インターフェイス全体に適用されます。


Caution

BPDU フィルタリングをインターフェイスごとに設定するときは注意が必要です。ホストに接続されていないポートに BPDU フィルタリングを明示的に設定すると、ブリッジンググループに陥る可能性があります。このようなポートは受信した BPDU をすべて無視して、フォワーディング ステートに移行するからです。

次の表に、すべての BPDU フィルタリングの組み合わせを示します。

Table 13: BPDU フィルタリングの設定

ポート単位の BPDU フィルタリングの設定	グローバルな BPDU フィルタリングの設定	STP エッジ ポート 設定	BPDU フィルタリングの 状態
デフォルト ¹	有効	有効	イネーブル ²
デフォルト	有効	無効	無効
デフォルト	無効	N/A	無効
無効	N/A	N/A	無効
有効	N/A	N/A	有効

¹ 明示的なポート設定はありません。

² ポートは最低 10 個の BPDU を送信します。このポートは、BPDU を受信すると、スパニングツリー標準ポート状態に戻り、BPDU フィルタリングはディセーブルになります。

ループ ガード

ループ ガードを使用すると、ポイントツーポイント リンク上の単方向リンク障害によって発生することがあるブリッジンググループを防止できます。

STPループは、冗長なトポロジにおいてブロッキングポートが誤ってフォワーディングステートに移行すると発生します。通常、BPDUの受信を停止する、物理的に冗長なトポロジ内のポート（ブロッキングポートとは限らない）が原因で移行が発生します。

ループガードをグローバルにイネーブルにしても、デバイスがポイントツーポイントリンクで接続されているスイッチドネットワークでしか使用できません。ポイントツーポイントリンクでは、下位BPDUを送信するか、リンクをダウンしない限り、代表ブリッジは消えることはありません。ただし、共有リンク上のループガードはインターフェイス単位でイネーブルに設定できます。

ループガードを使用して、ルートポートまたは代替/バックアップループポートがBPDUを受信するかどうかを確認できます。BPDUを受信していたポートでBPDUを受信されなくなると、ループガードは、ポート上でBPDUの受信が再開されるまで、そのポートを不整合（ブロッキング）ステートにします。これらのポートでBPDUの受信が再開されると、ポートおよびリンクは再び動作可能として認識されます。この回復は自動的に実行されるので、プロトコルによりポートからループ不整合が排除されると、STPによりポートステートが判別されます。

ループガードは障害を分離し、STPは障害のあるリンクやブリッジを含まない安定したトポロジに収束できます。ループガードをディセーブルにすると、すべてのループ不整合ポートはリスニングステートに移行します。

ループガードはポート単位でイネーブルにできます。ループガードを特定のポートでイネーブルにすると、そのポートが属するすべてのアクティブインスタンスまたはVLANにループガードが自動的に適用されます。ループガードをディセーブルにすると、指定ポートでディセーブルになります。

ルートデバイス上でループガードをイネーブルにしても効果はありませんが、ルートデバイスが非ルートデバイスになった場合、保護が有効になります。

ループ ガード

特定のポートでルートガードをイネーブルにすると、そのポートはルートポートになることが禁じられます。受信したBPDUによってSTPコンバージェンスが実行され、指定ポートがルートポートになると、そのポートはルート不整合（ブロッキング）状態になります。このポートが優位BPDUの受信を停止すると、ブロッキングが再度解除されます。次に、STPによって、フォワーディングステートに移行します。リカバリは自動的に行われます。

インターフェイス上でルートガードをイネーブルにすると、そのインターフェイスが属しているすべてのVLANにルートガードが適用されます。

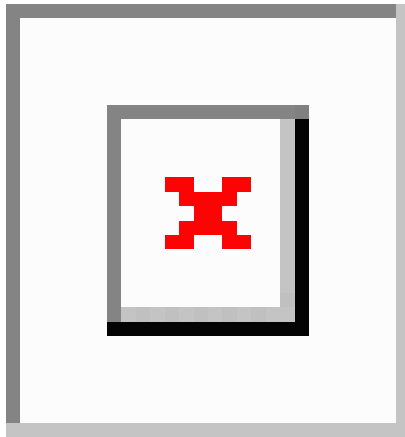
ルートガードを使用すると、ネットワーク内にルートブリッジを強制的に配置できます。ルートガードは、ルートガードがイネーブルにされたポートを指定ポートに選出します。通常、ルートブリッジのポートはすべて指定ポートとなります（ただし、ルートブリッジの2つ以上のポートが接続されている場合はその限りではありません）。ルートブリッジは、ルートガードがイネーブルにされたポートで上位BPDUを受信すると、そのポートをルート不整合STP状態に移行します。このように、ルートガードはルートブリッジの配置を適用します。

ルートガードをグローバルには設定できません。

STP 拡張機能の適用

Figure 19: STP 拡張機能を適正に展開したネットワーク

この図に示すように、ネットワーク上に各種の STP 拡張機能を設定することを推奨します。Bridge Assurance は、ネットワーク全体でイネーブルになります。ホスト インターフェイス上で、BPDU ガードと BPDU フィルタリングのいずれかをイネーブルにすることをお勧めします。



PVST シミュレーション

MST は、ユーザが設定しなくても、Rapid PVST+ と相互運用できます。この相互運用性を提供するものが、PVST シミュレーション機能です。



Note MST をイネーブルにすると、PVST シミュレーションがデフォルトでイネーブルになります。デフォルトでは、デバイス上のすべてのインターフェイスで MST と Rapid PVST+ が相互運用されます。

ただし、MST イネーブル ポートが Rapid PVST+ イネーブル ポートに接続される可能性を防ぐには、MST と Rapid PVST+ 間の接続を制御する必要があります。Rapid PVST+ はデフォルトの STP モードなので、多数の Rapid PVST+ 接続が発生することがあります。

Rapid PVST+ シミュレーションを、ポート単位でディセーブルにするか、デバイス全体でグローバルにディセーブルにすると、MST イネーブル ポートは、Rapid PVST+ イネーブル ポートに接続したことが検出された時点で、ブロッキング状態に移行します。このポートは、Rapid PVST+/SSTP BPDU の受信が停止されるまで不整合の状態のままになります。そしてポートは、通常の STP 送信プロセスに戻ります。

すべての STP インスタンスのルートブリッジは、MST または Rapid PVST+ のどちらかの側に属している必要があります。すべての STP インスタンスのルートブリッジがどちらか一方の側に属していないと、ポートは PVST シミュレーション不整合状態になります。



Note すべての STP インスタンスのルート ブリッジを、MST 側に配置することを推奨します。

STP のハイ アベイラビリティ

ソフトウェアは STP に対してハイ アベイラビリティをサポートしています。ただし、STP を再起動した場合、統計情報およびタイマーは復元されません。タイマーは最初から開始され、統計情報は 0 にリセットされます。



Note ハイ アベイラビリティ機能、の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide*』を参照してください。

STP 拡張機能の前提条件

STP には次の前提条件があります。

- デバイスにログインしていること。
- STP を設定しておく必要があります。

STP 拡張機能の設定に関するガイドラインおよび制約事項

STP 拡張機能の設定に関するガイドラインと制約事項は次のとおりです。

- **show** コマンド (**internal** キーワード付き) はサポートされていません。
- STP ネットワーク ポートは、スイッチだけに接続してください。
- ホスト ポートは、ネットワーク ポートではなく STP エッジ ポートとして設定する必要があります。
- STP ネットワーク ポート タイプをグローバルにイネーブルにする場合には、ホストに接続しているすべてのポートを手動で STP エッジ ポートとして設定してください。
- レイヤ 2 ホストに接続しているすべてのアクセス ポートおよびトランク ポートを、エッジ ポートとして設定する必要があります。
- Bridge Assurance は、ポイントツーポイントのスパニングツリー ネットワーク ポート上だけで実行されます。この機能は、リンクの両端で設定する必要があります。
- Bridge Assurance は、ネットワーク全体でイネーブルにすることを推奨します。

- すべてのエッジポートで BPDU ガードをイネーブルにすることを推奨します。
- グローバルにイネーブルにしたループ ガードは、ポイントツーポイント リンク上でのみ動作します。
- インターフェイス単位でイネーブルにしたループ ガードは、共有リンクおよびポイントツーポイント リンクの両方で動作します。
- ルート ガードを適用したポートは強制的に指定ポートになりますが、ルート ポートにはなりません。ループ ガードは、ポートがルート ポートまたは代替ポートの場合にのみ有効です。ポート上でループ ガードとルート ガードの両方を同時にイネーブルにすることはできません。
- ディセーブル化されたスパニングツリー インスタンスまたは VLAN 上では、ループ ガードは無効です。
- スパニングツリーは、BPDUを送信するチャンネル内で最初に動作するポートを常に変更します。このリンクが単方向になると、チャンネル内の他のリンクが正常に動作していても、ループ ガードによりチャンネルがブロックされます。
- ループガードによってブロックされている一連のポートをグループ化してチャンネルを形成すると、これらのポートのステート情報はスパニングツリーからすべて削除され、新しいチャンネルのポートは指定ロールによりフォワーディング ステートに移行できます。
- チャンネルがループガードによりブロックされ、チャンネルのメンバーが個々のリンク ステータスに戻ると、スパニングツリーからすべてのステート情報が削除されます。チャンネルを形成する1つまたは複数のリンクが単方向リンクである場合も、各物理ポートは指定されたロールを使用して、フォワーディング ステートに移行できます。

**Note**

単方向リンク検出 (UDLD) アグレッシブ モードをイネーブルにすると、リンク障害を分離できます。UDLDにより障害が検出されるまではループが発生することがありますが、ループガードでは検出できません。UDLDの詳細については、『Cisco NX-OS シリーズ NX-OS インターフェイス構成ガイド』を参照してください。

- 物理ループのあるスイッチ ネットワーク上では、ループ ガードをグローバルにイネーブルにする必要があります。
- 直接の管理制御下でないネットワークデバイスに接続しているポート上では、ルート ガードをイネーブルにする必要があります。

STP 拡張機能のデフォルト設定

次の表に、STP 拡張機能のデフォルト設定を示します。

Table 14: STP 拡張機能パラメータのデフォルト設定

パラメータ	デフォルト
ポート タイプ	標準
Bridge Assurance	イネーブル (STP ネットワーク ポートのみ)
グローバル BPDU ガード	ディセーブル
インターフェイス単位の BPDU ガード	ディセーブル
グローバル BPDU フィルタリング	ディセーブル
インターフェイス単位の BPDU フィルタリング	ディセーブル
グローバル ループ ガード	ディセーブル
インターフェイス単位のループ ガード	ディセーブル
インターフェイス単位のルート ガード	ディセーブル
PVST シミュレーション	有効 (Enabled)

STP 拡張機能の設定手順



Note Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能の Cisco NX-OS コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

ループ ガードは、共有リンクまたはポイントツーポイント リンク上のインターフェイス単位でイネーブルに設定できます。

スパンニングツリー ポート タイプのグローバルな設定

スパンニングツリー ポート タイプの指定は、次のように、ポートの接続先デバイスによって異なります。

- エッジ：エッジ ポートは、レイヤ 2 ホストに接続するアクセス ポートです。

- ネットワーク：ネットワークポートは、レイヤ2スイッチまたはブリッジだけに接続し、アクセスポートまたはトランクポートのいずれかになります。
- 標準：標準ポートはエッジポートでもネットワークポートでもない、標準のスパニングツリーポートです。これらのポートは、どのデバイスにも接続できます。

ポートタイプは、グローバル単位でもインターフェイス単位でも設定できます。デフォルトのスパニングツリーポートタイプは「標準」です。

Before you begin

スパニングツリーポートタイプを設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- ポートの接続先デバイスに応じて、ポートを正しく設定していること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree port type edge default** or **spanning-tree port type network default**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree summary**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree port type edge default or spanning-tree port type network default Example: <pre>switch(config)# spanning-tree port type edge default</pre>	• spanning-tree port type edge default レイヤ2 ホストに接続しているすべてのアクセスポートをエッジポートとして設定します。エッジポートは、リンクアップすると、ブロッキングステートやラーニングステートを経由することなく、フォワーディングステートに直接移行します。デフォルトのスパニングツリーポートタイプは「標準」です。 • spanning-tree port type network default レイヤ2 スイッチおよびブリッジに接続しているすべてのインターフェイスを、スパニングツ

	Command or Action	Purpose
		リー ネットワーク ポートとして設定します。Bridge Assurance をイネーブルにすると、各ネットワーク ポート上で Bridge Assurance が自動的に実行されます。デフォルトのスパニングツリー ポート タイプは「標準」です。 Note レイヤ2ホストに接続しているインターフェイスをネットワーク ポートとして設定すると、これらのポートは自動的にブロッキングステートに移行します。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree summary Example: <pre>switch# show spanning-tree summary</pre>	設定した STP ポート タイプを含む STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、レイヤ 2 ホストに接続しているすべてのアクセス ポートをスパニングツリー エッジ ポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree port type edge default
switch(config)# exit
switch#
```

次に、レイヤ 2 スイッチまたはブリッジに接続しているすべてのポートを、スパニングツリー ネットワーク ポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree port type network default
switch(config)# exit
switch#
```

指定インターフェイスでのスパニングツリー エッジ ポートの設定

指定インターフェイスにスパニングツリー エッジ ポートを設定できます。スパニングツリー エッジポートとして設定されたインターフェイスは、リンクアップ時に、ブロッキングステートやラーニングステートを経由することなく、フォワーディングステートに直接移行します。

このコマンドには次の 4 つの状態があります。

- **spanning-tree port type edge**: このコマンドはアクセス ポートでのエッジ動作を明示的にイネーブルにします。
- **spanning-tree port type edge trunk**: このコマンドはトランク ポートでのエッジ動作を明示的にイネーブルにします。



Note

spanning-tree port type edge trunk を入力すると、コマンド、そのポートは、アクセス モードであってもエッジポートとして設定されます。

- **spanning-tree port type normal** : このコマンドは、ポートを標準スパニングツリー ポートとして明示的に設定しますが、フォワーディングステートへの直接移行はイネーブルにしません。
- **no spanning-tree port type** : このコマンドは、**spanning-tree port type edge default** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで定義した場合に、エッジ動作を暗黙的にイネーブルにします。エッジポートをグローバルに設定していない場合、**no spanning-tree port type** コマンドは、**spanning-tree port type normal** コマンドと同じです。

Before you begin

スパニングツリー ポート タイプを設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- ポートの接続先デバイスに応じて、ポートを正しく設定していること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **spanning-tree port type edge**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree interface type slot/port ethernet x/y**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree port type edge Example: switch(config-if)# spanning-tree port type edge	指定したアクセス インターフェイスをスパニング エッジポートに設定します。エッジポートは、リンク アップすると、ブロッキング ステートやラーニングステートを経由することなく、フォワーディングステートに直接移行します。デフォルトのスパニングツリー ポート タイプは「標準」です。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree interface type slot/port ethernet x/y Example: switch# show spanning-tree ethernet 1/4	設定した STP ポート タイプを含む STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、アクセス インターフェイス Ethernet 1/4 をスパニングツリー エッジポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

指定インターフェイスでのスパニングツリー ネットワーク ポートの設定

指定インターフェイスにスパニングツリー ネットワーク ポートを設定できます。

Bridge Assurance は、スパニングツリー ネットワーク ポート上だけで実行されます。

このコマンドには次の 3 つの状態があります。

- **spanning-tree port type network**: このコマンドはネットワーク ポートとしてポートを明示的に設定します。Bridge Assurance をグローバルにイネーブルにすると、スパニングツリー ネットワーク ポート上で Bridge Assurance が自動的に実行されます。
- **spanning-tree port type normal** : このコマンドは、ポートを標準スパニングツリー ポートとして明示的に設定しますが、Bridge Assurance はこのインターフェイスで実行できません。
- **no spanning-tree port type** : このコマンドは、**spanning-tree port type network default** を定義した場合に、ポートを暗黙的にスパニングツリー ネットワーク ポートとしてイネーブルにします。コマンドを使用します。Bridge Assurance をイネーブルにすると、このポート上で Bridge Assurance が自動的に実行されます。

**Note**

レイヤ 2 ホストに接続しているポートをネットワーク ポートとして設定すると、自動的にブロッキング ステートに移行します。

Before you begin

スパニングツリー ポート タイプを設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- ポートの接続先デバイスに応じて、ポートを正しく設定していること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *type slot/port*
3. **spanning-tree port type network**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree interface** *type slot/port*
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree port type network Example: switch(config-if)# spanning-tree port type network	指定したインターフェイスをスパニング ネットワーク ポートに設定します。Bridge Assurance をイネーブルにすると、各ネットワーク ポート上で Bridge Assurance が自動的に実行されます。デフォルトのスパニングツリー ポート タイプは「標準」です。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree interface type slot/port Example: switch# show spanning-tree interface ethernet 1/4	設定した STP ポート タイプを含む STP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、Ethernet インターフェイス 1/4 をスパニングツリー ネットワーク ポートとして設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree port type network
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

BPDU ガードのグローバルなイネーブル化

BPDU ガードをデフォルトでグローバルにイネーブルにできます。BPDU ガードがグローバルにイネーブルにされると、システムは、BPDU を受信したエッジ ポートをシャット ダウンします。



Note すべてのエッジ ポートで BPDU ガードをイネーブルにすることを推奨します。

Before you begin

スパニングツリー ポート タイプを設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- ポートの接続先デバイスに応じて、ポートを正しく設定していること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree port type edge bpduguard default**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree summary**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree port type edge bpduguard default Example: <pre>switch(config)# spanning-tree port type edge bpduguard default</pre>	すべてのスパニングツリーエッジポートで、BPDU ガードを、デフォルトでイネーブルにします。デフォルトでは、グローバルな BPDU ガードはディセーブルです。 Note このコマンドは、インターフェイス レベルで動作を変更しますが、 show running interface では表示されません。クリア操作のステータスを確認するには、 show spanning-tree summary コマンドを使用します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree summary Example: <pre>switch# show spanning-tree summary</pre>	STP の概要を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、すべてのスパニングツリー エッジ ポートで BPDU ガードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree port type edge bpduguard default
switch(config)# exit
switch#
```

指定インターフェイスでの BPDU ガードのイネーブル化

指定インターフェイスで、BPDU ガードをイネーブルにできます。BPDU ガードがイネーブルにされたポートは、BPDU を受信すると、シャットダウンされます。

BPDU ガードは、指定インターフェイスで次のように設定にできます。

- **spanning-tree bpduguard enable** : インターフェイス上で、BPDU ガードが無条件にイネーブルになります。
- **spanning-tree bpduguard disable** : インターフェイス上で、BPDU ガードが無条件にディセーブルになります。
- **no spanning-tree bpduguard** : 動作中のエッジ ポート インターフェイスに **spanning-tree port type edge bpduguard default** コマンドが設定されている場合、そのインターフェイスで BPDU ガードをイネーブルにします。

Before you begin

この機能を設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** *type slot/port*
3. **spanning-tree bpduguard** {enable | disable} or **no spanning-tree bpduguard**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree interface** *type slot/port detail*
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface <i>type slot/port</i> Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree bpduguard {enable disable} or no spanning-tree bpduguard Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree bpduguard enable</pre>	• spanning-tree bpduguard {enable disable} 指定したスパンニングツリーエッジインターフェイスの BPDU ガードをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、インターフェイス上の BPDU ガードはディセーブルです。 • no spanning-tree bpduguard spanning-tree port type edge bpduguard default コマンドの入力により、インターフェイスに設定されたデフォルトのグローバル BPDU ガード設定に戻します。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree interface <i>type slot/port detail</i> Example:	STP の概要を表示します。

	Command or Action	Purpose
	switch# show spanning-tree interface ethernet detail	
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、エッジポート Ethernet 1/4 で BPDU ガードを明示的にイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree bpduguard enable
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

BPDU フィルタリングのグローバルなイネーブル化

スパニングツリーエッジポートで、BPDU フィルタリングをデフォルトでグローバルにイネーブルにできます。

BPDU フィルタリングがイネーブルであるエッジポートは、BPDU を受信するとエッジポートとしての稼働ステータスが失われ、通常の STP ステート移行を再開します。ただし、このポートは、エッジポートとしての設定は保持したままです。



Caution

このコマンドを使用するときは注意してください。このコマンドを誤って使用すると、ブリッジングループに陥る可能性があります。

Before you begin

この機能を設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- 少なくとも一部のスパニングツリー エッジポートが設定済みであること。



Note

グローバルにイネーブルにされた BPDU フィルタリングは、動作中のエッジポートにだけ適用されます。ポートは数個の BPDU をリンクアップ時に送出してから、実際に、発信 BPDU のフィルタリングを開始します。エッジポートは、BPDU を受信すると、動作中のエッジポートステータスを失い、BPDU フィルタリングはディセーブルになります。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree port type edge bpdupfilter default**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree summary**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	spanning-tree port type edge bpdupfilter default Example: switch(config)# spanning-tree port type edge bpdupfilter default	すべてのスパニングツリーエッジポートで、BPDU フィルタリングを、デフォルトでイネーブルにします。デフォルトでは、グローバルな BPDU フィルタリングはディセーブルです。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree summary Example: switch# show spanning-tree summary	STP の概要を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、すべての動作中のスパニングツリー エッジ ポートで BPDU フィルタリングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree port type edge bpdupfilter default
switch(config)# exit
switch#
```

指定インターフェイスでの BPDU フィルタリングのイネーブル化

指定インターフェイスに BPDU フィルタリングを適用できます。BPDU フィルタリングを特定のインターフェイス上でイネーブルにすると、そのインターフェイスは BPDU を送信しなくなり、受信した BPDU をすべてドロップするようになります。この BPDU フィルタリング機能は、トランッキングインターフェイスであるかどうかに関係なく、すべてのインターフェイスに適用されます。



Caution

spanning-tree bpdupfilter enable を入力する場合は、慎重に行ってください。指定されたインターフェイスでコマンドを入力します。ホストに接続していないポートに BPDU フィルタリングを設定すると、そのポートは受信した BPDU をすべて無視してフォワーディングに移行するので、ブリッジンググループが発生することがあります。

このコマンドを入力すると、指定インターフェイスのポート設定が上書きされます。

このコマンドには次の 3 つの状態があります。

- **spanning-tree bpdupfilter enable** : インターフェイス上で、BPDU フィルタ処理が無条件にイネーブルになります。
- **spanning-tree bpdupfilter disable** : インターフェイス上で、BPDU フィルタ処理が無条件にディセーブルになります。
- **no spanning-tree bpdupfilter** : 動作中のエッジポートインターフェイスに **spanning-tree port type edge bpdupfilter default** コマンドが設定されている場合、そのインターフェイスで BPDU フィルタリングをイネーブルにします。コマンドを使用します。

Before you begin

この機能を設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。



Note

特定のポートだけで BPDU フィルタリングをイネーブルにすると、そのポートでの BPDU の送受信が禁止されます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **{ } または spanning-tree bpdupfilter enable disable no spanning-tree bpdupfilter**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree summary**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	{{ }} または spanning-tree bpdupfilter enable disable no spanning-tree bpdupfilter Example: switch(config-if)# spanning-tree bpdupfilter enable	• spanning-tree bpdupfilter {enable disable} 指定したスパニングツリーエッジインターフェイスの BPDU フィルタリングをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、BPDU フィルタリングはディセーブルです。 • no spanning-tree bpdupfilter 動作中のスパニングツリー エッジ ポート インターフェイスに spanning-tree port type edge bpdupfilter default コマンドが設定されている場合、そのインターフェイスで BPDU フィルタリングをイネーブルにします。
ステップ 4	exit Example: switch(config-if)# exit switch(config)#	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree summary Example: switch# show spanning-tree summary	STP の概要を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、スパニング ツリー エッジ ポート Ethernet 1/4 で BPDU フィルタリングを明示的にイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree bpduguard enable
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

ループ ガードのグローバルなイネーブル化

ループガードは、デフォルトの設定により、すべてのポイントツーポイントスパニングツリーの標準およびネットワークポートで、グローバルにイネーブルにできます。ループガードは、エッジポートでは動作しません。

ループガードを使用すると、ブリッジネットワークのセキュリティを高めることができます。ループガードは、単方向リンクを引き起こす可能性のある障害が原因で、代替ポートまたはルートポートが指定ポートになるのを防ぎます。



Note 指定インターフェイスでループガードコマンドを入力すると、グローバルなループガードコマンドが上書きされます。

Before you begin

この機能を設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- スパニングツリー標準ポートが存在し、少なくとも一部のネットワークポートが設定済みであること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **spanning-tree loopguard default**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree summary**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	spanning-tree loopguard default Example: <pre>switch(config)# spanning-tree loopguard default</pre>	スパニングツリーのすべての標準およびネットワークポートで、ループガードを、デフォルトでイネーブルにします。デフォルトでは、グローバルなループガードはディセーブルです。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree summary Example: <pre>switch# show spanning-tree summary</pre>	STP の概要を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、スパニングツリーのすべての標準およびネットワークポートでループガードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# spanning-tree loopguard default
switch(config)# exit
switch#
```

指定インターフェイスでのループガードまたはルートガードのイネーブル化



Note ループガードは、スパニングツリーの標準またはネットワークポート上で実行できます。ルートガードは、すべてのスパニングツリーポート（標準、エッジ、ネットワーク）上で実行できます。

ループガードまたはルートガードは、指定インターフェイスでイネーブルにできます。

ポート上でルートガードをイネーブルにすることは、そのポートをルートポートにできないことを意味します。ループガードは、単方向リンクの障害発生時に、代替ポートまたはルートポートが指定ポートになるのを防止します。

特定のインターフェイスでループガードおよびルートガードの両機能をイネーブルにすると、そのインターフェイスが属するすべての VLAN に両機能が適用されます。



Note 指定インターフェイスでループガードコマンドを入力すると、グローバルなループガードコマンドが上書きされます。

Before you begin

この機能を設定する前に、次の点を確認してください。

- STP が設定されていること。
- ループガードが、スパニングツリーの標準またはネットワーク ポート上で設定されていること。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface type slot/port**
3. **spanning-tree guard {loop | root | none}**
4. **exit**
5. **interface type slot/port**
6. **spanning-tree guard {loop | root | none}**
7. **exit**
8. (Optional) **show spanning-tree interface type slot/port detail**
9. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface type slot/port Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 1/4 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree guard {loop root none} Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree guard loop</pre>	ループガードまたはルートガードを、指定インターフェイスでイネーブルまたはディセーブルにします。ルートガードはデフォルトでディセーブル、

	Command or Action	Purpose
		ループガードも指定ポートでディセーブルになります。 Note ループ ガードは、スパンニングツリーの標準およびネットワーク インターフェイスだけで動作します。この例では、指定したインターフェイス上でループガードをイネーブルにしています。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	interface type slot/port Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 1/10 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	spanning-tree guard {loop root none} Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree guard root</pre>	ループガードまたはルートガードを、指定インターフェイスでイネーブルまたはディセーブルにします。ルート ガードはデフォルトでディセーブル、ループガードも指定ポートでディセーブルになります。 この例では、別のインターフェイス上でルートガードをイネーブルにしています。
ステップ 7	exit Example: <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 8	(Optional) show spanning-tree interface type slot/port detail Example: <pre>switch# show spanning-tree interface ethernet 1/4 detail</pre>	STP の概要を表示します。
ステップ 9	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、Ethernet ポート 1/4 で、ルート ガードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)# spanning-tree guard root
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

PVST シミュレーションのグローバル設定 (CLI バージョン)



Note PVST シミュレーションは、デフォルトでイネーブルになっています。デフォルトでは、デバイス上のすべてのインターフェイスで MST と Rapid PVST+ が相互運用されます。

MST は、Rapid PVST+ と相互運用します。ただし、デフォルトの STP モードで、MST を実行していないデバイスに接続する可能性を防ぐには、この自動機能をディセーブルに設定できます。Rapid PVST+ シミュレーションをディセーブルにした場合、MST がイネーブルなポートが Rapid PVST+ がイネーブルなポートに接続されていることが検出されると、MST がイネーブルなポートは、ブロッキングステートに移行します。このポートは、BPDU の受信が停止されるまで、一貫性のないステートのままになり、それから、ポートは、通常の STP 送信プロセスに戻ります。

この自動機能は、グローバルまたはポートごとにブロックできます。グローバルコマンドを入力し、インターフェイス コマンド モードでデバイス全体の PVST シミュレーション設定を変更できます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **no spanning-tree mst simulate pvst global**
3. **exit**
4. (Optional) **show spanning-tree summary**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	no spanning-tree mst simulate pvst global Example: <pre>switch(config)# no spanning-tree mst simulate pvst global</pre>	スイッチ上のすべてのインターフェイスで、Rapid PVST+ モードを実行している接続先デバイスとの自動的な相互運用をディセーブルにします。この機能はデフォルトではイネーブルです。デフォルトで

	Command or Action	Purpose
		は、デバイス上のすべてのインターフェイスが、Rapid PVST+ と MST の間で運用されます。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show spanning-tree summary Example: <pre>switch# show spanning-tree summary</pre>	STP の詳細を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、Rapid PVST+ を実行している接続先デバイスとの自動的な相互運用を回避する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no spanning-tree mst simulate pvst global
switch(config)# exit
switch#
```

ポートごとの PVST シミュレーションの設定



Note PVST シミュレーションは、デフォルトでイネーブルになっています。デフォルトでは、デバイス上のすべてのインターフェイスで MST と Rapid PVST+ が相互運用されます。

PVST シミュレーションを設定できるのは、デバイス上で MST を実行している場合だけです (Rapid PVST+ がデフォルトの STP モードです)。MST は、Rapid PVST+ と相互運用します。ただし、デフォルトの STP モードで、MST を実行していないデバイスに接続する可能性を防ぐには、この自動機能をディセーブルに設定できます。PVST シミュレーションをディセーブルにすると、Rapid PVST+ イネーブルポートに接続したことが検出された時点で、MST イネーブルポートはブロッキング ステートに移行します。このポートは、Rapid PVST+ BPDU を受信しなくなるまで不整合ステートのままですが、そのあとは標準 STP のステート移行を再開します。

この自動機能は、グローバルまたはポートごとにブロックできます。

SUMMARY STEPS

1. **config t**
2. **interface** {{type slot/port}} | {{port-channel number}}
3. **spanning-tree mst simulate pvst disable** または **spanning-tree mst simulate pvst** または **no spanning-tree mst simulate pvst**
4. **exit**
5. (Optional) **show spanning-tree interface type slot/port detail**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	config t Example: <pre>switch# config t switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface {{type slot/port}} {{port-channel number}} Example: <pre>switch(config)# interface ethernet 3/1 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	spanning-tree mst simulate pvst disable または spanning-tree mst simulate pvst または no spanning-tree mst simulate pvst Example: <pre>switch(config-if)# spanning-tree mst simulate pvst</pre>	• spanning-tree mst simulate pvst disable 指定したインターフェイスで、Rapid PVST+ モードを実行している接続先デバイスとの自動的な相互運用をディセーブルにします。 デフォルトでは、デバイス上のすべてのインターフェイスで Rapid PVST+ と MST が相互運用されます。 • spanning-tree mst simulate pvst 指定したインターフェイスで、MST と Rapid PVST+ のシームレスな相互運用を再びイネーブルにします。 • no spanning-tree mst simulate pvst インターフェイスを、spanning-tree mst simulate pvst global コマンドを使用して設定したデバイス全体で MST と Rapid PVST+ との間で相互動作するよう設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-if) # exit switch(config) #</pre>	インターフェイス モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show spanning-tree interface type slot/port detail Example: <pre>switch# show spanning-tree interface ethernet 3/1 detail</pre>	STP の詳細を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config) # copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、指定したインターフェイスで、MSTを実行していない接続先デバイスとの自動的な相互運用を回避する例を示します。

```
switch(config-if) # spanning-tree mst simulate pvst
switch(config-if) #
```

STP 拡張機能の設定の確認

STP 拡張機能の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show running-config spanning-tree [all]	STP に関する情報を表示します。
show spanning-tree summary	STP 情報の要約を表示します。
show spanning-tree mstinstance-id interface {ethernet slot/port port-channel channel-number} [detail]	指定したインターフェイスおよびインスタンスの MST 情報を表示します。

STP 拡張機能の設定例

次に、STP 拡張機能を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # spanning-tree port type network default
switch(config) # spanning-tree port type edge bpduguard default
switch(config) # spanning-tree port type edge bpdufilter default
```

```

switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# exit

switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# spanning-tree port type edge
switch(config-if)# exit
switch(config)#

```

STP 拡張機能の追加情報 (CLI バージョン)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
レイヤ2 インターフェイス	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』
NX-OS の基礎	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
高可用性	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS High Availability and Redundancy Guide』
システム管理	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

標準

標準	タイトル
IEEE 802.1Q-2006 (旧称 IEEE 802.1s)、IEEE 802.1D-2004 (旧称 IEEE 802.1w)、IEEE 802.1D、IEEE 802.1t	—

MIB

MIB	MIB のリンク
- CISCO-STP-EXTENSION-MIB - BRIDGE-MIB	MIB を検索およびダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。 ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/nexus9000/Nexus9000MIBSupportList.htm



第 12 章

レイヤ2スイッチングのリフレクティブ リレーの設定

- [リフレクティブリレー802.1Qbgについて \(229 ページ\)](#)
- [リフレクティブリレーのガイドラインと制約事項, on page 230](#)
- [NX-OS CLI を使用したリフレクティブリレーの設定 \(230 ページ\)](#)

リフレクティブリレー802.1Qbgについて

Cisco Nexus リリース 9.2 (1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-FX および N9K-C93180TC-FX スイッチは、スイッチングオプションのリフレクトリレーをサポートしています。現在のリリースでは、Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX および N9K-C93180TC-EX スイッチもサポートされています。この機能は IEEE 標準 802.1Qbg のタグレスアプローチです。ポリシーを適用し、必要に応じて、宛先またはターゲット VM サーバ上にトラフィックを送信する外部のスイッチへのすべてのトラフィックを転送します。ローカルスイッチングはありません。ブロードキャストまたはマルチキャストトラフィックは、リフレクティブリレーは、各 VM サーバでローカルにパケットのレプリケーションを提供します。

リフレクティブリレーは、スイッチング機能と管理機能に外部スイッチを活用し、サーバリソースを解放して VM をサポートします。リフレクティブリレーは、Cisco Nexus スイッチで設定したポリシーを同じサーバ上の VM 間のトラフィックに適用します。

リフレクティブリレーを有効にすると、着信した同じポートからのトラフィックを元に戻すことができます。NX-OS CLI を使用して、レイヤ 2 物理ポートまたはポートチャネルインターフェイスポリシーでリフレクティブリレーをイネーブルにできます。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

用語 仮想イーサネット ポートのためのアグリゲータ 802.1Qbg を説明する (VEPA) が使用されるも機能します。

リフレクティブリレーのサポート

リフレクティブリレーには、次のサポートされています。

- Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX、N9K-C93180TC-EX、N9K-93180YC-FX、および N9K-C93180TC-FX シリーズスイッチ。
- IEEE 標準 802.1Qbg タグのないアプローチ、リフレクティブリレーとも呼ばれます。
- 物理ドメイン：仮想ドメインはサポートされません。
- 物理ポートおよびポートチャネル：Cisco Fabric Extender (FEX) およびブレードサーバをサポートしません。リフレクティブリレーはサポートされていないインターフェイスで有効になっていると、障害が発生すると、最後の有効な設定が保持されます。ポートでリフレクティブリレーを無効にすると、障害をクリアします。

リフレクティブリレーのガイドラインと制約事項

反射型リレーには、次の設定ガイドラインまたは制限事項があります。

- Cisco Nexus リリース 7.0(3)I7(1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX および N9K-C93180TC-EX スイッチはスイッチングオプションおよびリフレクティブリレーをサポートしています。
- リフレクティブリレー機能を使用する前に、ARP 抑制を無効にする必要があります。
- Cisco Nexus リリース 9.2(1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-FX および N9K-C93180TC-FX スイッチはスイッチングオプションおよびリフレクティブリレーをサポートしています。
- Cisco Nexus リリース 9.3 (2) 以降、Cisco Nexus N9K-9336C-FX2 スイッチは反射型リレーをサポートします。
- すべてのサーバ側インターフェイスは、リフレクションリレーをサポートするように設定する必要があります。
- Cisco NX-OS リリース 10.2(2)F 以降、仮想イーサネット ポート アグリゲータ (VEPA) 機能が Cisco N9K-9332D-GX2B プラットフォーム スイッチでサポートされています。

NX-OS CLI を使用したリフレクティブリレーの設定

反射型リレーはデフォルトで無効になっています。ただし、ポートまたはポートチャネルでスイッチのレイヤ2インターフェイスポリシーとしてイネーブルにできます。CLI では、NX-OS テンプレートを使用して、複数のポートでリフレクティブリレーの有効化または individual ports(個々のポート、個別ポート) で有効にすることができます。

手順

ステップ 1 configure terminal

例：

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ2 interface ethernet 1/2

例：

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)#
```

ポートを有効（オン）にしてください。

ステップ3 switchport mode virtual-ethernet-bridge

例：

```
switch(config-if)# switchport mode virtual-ethernet-bridge
switch(config-if)#
```

レイヤ2ポートをリフレクティブリレー機能のホストポートとして設定します。

ステップ4 [no] switchport virtual-ethernet-bridge

例：

```
switch(config-if)# switchport virtual-ethernet-bridge
```

リフレクティブリレー機能をイネーブルにします。

(注)

リフレクティブリレー機能は、アクセスポートまたはトランクポートでのみサポートされます。



索引

A

abort 167, 171–172, 176

C

clear spanning-tree counters interface 193
clear spanning-tree counters 150
clear spanning-tree detected-protocol interface 192
clear spanning-tree detected-protocol 149, 192
clear vlan 60, 104
clear mac address-table dynamic address 21
config t 13–15, 22, 50–56, 66, 83, 85, 87, 89–93, 95, 97, 100–102, 133–135, 137–148, 165–171, 173–174, 176–179, 181–190, 207, 209–213, 215, 217–220, 222, 224, 226

F

feature private-vlan 83
feature vtp 66

H

ようこそ 175
hello-time 138, 176

I

instance 173–174
interface vlan 89
インターフェイス 90–93, 95–97, 100–102, 141–143, 148, 181–183, 189–191, 209–212, 218–219, 222, 226

M

mac-address bpdu source version 2 113
mac address-table aging-time 19–20
mac address-table static 14–15

N

no private-vlan 87
no vlan 87

P

primary root 175
private-vlan mapping 104

R

リビジョン 170–172

S

show interface 58–59
show interface private-vlan mapping 104
show interface switchport 91–92, 94–97, 99–104
show interface vlan 89–90, 104
show mac address-table aging-time 19–20
実行中を表示 134, 136
show running-config spanning-tree all 133–134, 165–166, 192
show running-config spanning-tree 192, 227
show running-config vlan 57, 60, 104
show spanning-tree detail vlan 193
show spanning-tree detail 193
show spanning-tree interface 141–142, 209–212, 215, 222–223, 226–227
show spanning-tree mst configuration 168–174, 192
show spanning-tree mst detail 192
show spanning-tree mst 176–189, 192, 227
show spanning-tree pathcost method 142–143
show spanning-tree summary 192, 207–208, 213–214, 217, 220–221, 224–225, 227
show spanning-tree vlan 138–140, 144–147, 193
show spanning-tree 134–135, 137, 148, 150, 190–191
show system vlan reserved 46
show vlan counters 60, 104
show vlan private-vlan 85–88, 104
show vlan summary 60
show vlan 51–53, 55, 60
show vtp counters 66–67
show vtp interface 66–67
show vtp password 66–67
show vtp status 54–55, 60, 66–67
show vtp trunk interface eth a / b 65
show mac address-table 21–22
show mac address-table static 14–15
spanning-tree bpdupfilter disable 218

spanning-tree bpduguard enable 218
 spanning-tree bpduguard disable 214
 spanning-tree bpduguard enable 214
 spanning-tree guard 222
 spanning-tree link-type 121, 148, 190–191
 spanning-tree loopguard default 220–221
 spanning-tree mode mst 165–166
 spanning-tree mode rapid-pvst 133
 spanning-tree mst configuration 167–171, 173–174
 spanning-tree mst hello-time 137–138, 175, 184
 spanning-tree mst max-age 137–138, 175, 186–187
 spanning-tree mst max-hops 188
 spanning-tree mst pre-standard 189
 spanning-tree mst priority 179
 spanning-tree mst root primary 179
 spanning-tree mst root secondary 179
 spanning-tree mst simulate pvst disable 226
 spanning-tree mst simulate pvst 226
 spanning-tree mst 176–183
 spanning-tree pathcost method 142–143
 spanning-tree port type edge bpduguard default 217–218
 spanning-tree port type edge bpduguard default 213
 spanning-tree port type edge default 207
 spanning-tree port type edge trunk 209
 spanning-tree port type edge 209–210
 spanning-tree port type network default 207, 211
 spanning-tree port type network 211–212
 spanning-tree port type normal 209, 211
 spanning-tree port type 118
 spanning-tree vlan 134–140, 144–147, 175
 spanning-tree mst forward-time 137–138, 175, 185–186
 state active 53–54
 state suspend 53–54
 switching-mode store-forward 109–110
 switchport 92–93, 97–98, 102
 switchport mode private-vlan host 90–91, 100–101
 switchport mode private-vlan promiscuous 95–96
 switchport mode private-vlan trunk allowed vlan 97–98
 switchport mode private-vlan trunk promiscuous 97–98
 switchport mode private-vlan trunk secondary 92–93, 102
 switchport mode trunk 58–59
 switchport private-vlan trunk allowed vlan 92–93, 102–103

switchport private-vlan trunk allowed 80
 switchport private-vlan trunk native vlan 92–93, 97–98, 102
 switchport vlan mapping 58–59
 switchport vlan mapping enable 58–59
 system private-vlan fex trunk 100
 system vlan long-name 56–57

V

vlan 22–23, 45, 48, 50–54, 85, 87, 172
 vlan configuration 55–56
 vtp domain 66–67
 vtp password 66–67
 vtp version 66–67
 vtp file 66–67

い

インスタンス 171

し

remove 86

す

spanning-tree 141–143

ち

diameter 138, 175–176, 178

つ

追加 86

な

名前 53–54, 171–172

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。